

限リ之ヲ加重ス可キ乎又再犯ハ確定判決後、何時ニテモ加重スルヲ可ナル乎或ハ一定ノ期間ヲ設ケテ其期間内ニ犯シタル者ニ限リ加重スルヲ可トス可キ乎ノ問題はナリ即チ其處分上ニ就テハ從來ノ立法例ニ主主義アリ

第一、一般加重主義 此主義ハ初犯ノ確定判決ヲ經タル後ハ如何ナル罪ヲ犯スモ再犯ナルヲ以テ犯罪ノ種類如何ヲ問ハス加重ス可シト云フニ在リ是我舊刑法ノ採用シタル主義ナリ

第二、特別加重主義 此主義ハ初犯ノ裁判、確定以後、犯ス罪ハ初犯ト同性質又同種類ノ犯罪ニシテ、且初犯ト再犯トノ間ニ一定ノ期間ヲ設ケテ其期間内ニ再ヒ罪ヲ犯シタルトキニ限リ加重シタル刑ヲ科ス可シトノ主義是ナリ

第一、主義ハ犯罪ノ種類ヲ問ハス再ヒ罪ヲ犯シタルトキハ總ヘテ加重ス可シト云フニアルモ初犯、無意犯ニシテ再犯、有意犯ナルトキモ尙ホ之ヲ加重スルハ酷ニ失ス之ニ反シテ第二主義ハ一旦、罪ヲ犯スモ改悟シテ數十年間、罪ヲ犯ササル者、偶々、刑辟ニ觸レタルトキノ如キハ之ヲ加重スル必要ナキモ之ニ反シテ初犯ノ刑ニ懲リス再ヒ同種類ノ犯罪ヲ一定ノ期間内ニ犯ス者ノ如キハ之ヲ重罰ス可キ必要アリト是近時ノ新主義ニシテ我改正刑法ノ採用シタル主義ナリ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル

日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリ

タル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ

免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キト

キ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルト

キハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレ

タルモノト看做ス

本條ハ再犯例ヲ適用ス可キ場合ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ懲役ニ處セラレタル者刑ノ執行終了シタルカ又ハ刑ノ執行免除ヲ得タル日ヨリ起算シテ五年以内ニ再ヒ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ再犯トシテ加重シタル刑ヲ科スルコトヲ規定シタルモノナリ換言スレハ懲役ニ處セラレタル者其刑ノ執行終リ又ハ執行免除ヲ得タル日ヨリ五年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限リ再犯例ヲ適用ス可キモノト爲シ必スシモ同種類ノ

犯罪タルヲ要セサルモ禁錮ニ處セラレタル者再ヒ懲役ニ該當ス可キ罪ヲ犯スモ再犯例ヲ適用セサルモノトス例ヘハ禁錮ニ處ス可キ犯罪ハ内亂罪ノ如キ特別ノ罪ニシテ全ク普通犯ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ再犯加重例ヲ適用セサルカ如キ即チ此ナリ

本法ハ再犯加重ヲ初犯、再犯共ニ懲役ニ該ル可キ犯罪ニシテ且ツ再犯ノ刑、執行済ト看做ス可キ時ヨリ五年以内ニ再ヒ罪ヲ犯シタル場合ニ限り再犯例ヲ適用ス可キモノト限定シタルヲ以テ若シ五年以後、再ヒ罪ヲ犯スモ再犯例ノ適用ヲ受ケサルモノトス又初犯、禁錮ニ該ル犯罪ニシテ再犯懲役ニ該ルトキモ等シク再犯ヲ以テ論セサルモノナリ

故ニ再犯加重ニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一、初犯ノ判決確定シ其刑ノ執行終リ又ハ執行免除アリタル日ヨリ五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シタルコトヲ要ス

再犯トシテ加重スルニハ必ス初犯ノ裁判確定シ其刑ノ執行終リタルカ又ハ執行免除ニ因テ刑ヲ免セラレタル以後、再ヒ罪ヲ犯シタルコトヲ要スルモノトス蓋シ此再犯例ヲ適用ス可キ期間ニ付テハ或ハ初犯ノ裁判確定ノ時ヨリ起算シ若干年ト爲ス可シトノ立法例アリト雖モ本法ニ於テハ裁判確定ノ時ヨリ起算セスシテ其裁判執行ヲ終リタルカ若クハ裁判執行ノ免除ヲ受ケタル時ヨリ起算

シテ五年以内ト爲シタル

第二、前罪ト同一刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルコトヲ要ス

初犯懲役ノ刑ニ處セラレタル者、再ヒ懲役ニ該當ス可キ罪ヲ犯シタルヲ要ス若シ初犯、禁錮ニ處セラレタルカ又ハ罰金、拘留、科料、等ノ刑ニ處セラレタル者、再犯、懲役ニ該當ス可キ罪ヲ犯スモ

再犯ヲ以テ論ス可キモノニ非ス故ニ前犯、後犯、共ニ懲役ニ該當スル罪タルヲ要スルモノトス

本條第二項ハ初犯懲役ニ處セラレタル者、其懲役ニ該ル可キ犯罪ト同性質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得タル者、若クハ死刑ヨリ懲役ニ減輕セラレタル者ニシテ其執行ヲ終リ又ハ執行免除ヲ得タル時ヨリ起算シテ五年以内ニ再ヒ罪ヲ犯シタルトキハ尙ホ一層之ヲ重罰スヘキモノナルヲ以テ此等ノ者カ本條第一項ノ期間内、更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ再犯例ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本條第三項ハ數罪併發シタル場合ニ、其中懲役ニ該當ス可キ犯罪アリタルトキハ本刑ト定メラレタルモノハ勿論、否ラサルモ本法ハ併科主義ヲ採リタル結果、各罪、獨立スルモノト爲シ縱令、其罪、重カラサルモ仍ホ再犯トシテ加重ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

而シテ茲ニ注意ス可キコトハ再犯ノ刑ハ次條規定シタル如ク其罪ニ付キ法律ノ定メタル懲役刑ノ長

期ノ二倍以下ノ刑ヲ科シ再犯防遏ノ實行アラシムコトヲ期シ舊刑法ヨリ嚴罰主義ニ改メタルコト是ナリ

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

本條ハ再犯ニ對スル科刑ノ標準ヲ規定シタルモノナリ

舊刑法ハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加フルニ過キサリシヲ以テ其結果、重罪ニ付テハ多クモ三年ヲ超ユルコトナク輕罪、違警罪ニ付テハ刑期又ハ罰金額ノ四分ノ一ヲ加重スルニ過キサリシヲ以テ三犯以上ノ犯人ト雖モ尙ホ一等ヲ加重スルニ止マリ加重ノ分量、輕キニ失シ再犯防遏ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシニ因リ本法ハ加重ノ分量ヲ增加シ再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル長期ノ二倍以下トナシタリ是即チ前、屢々、論シタル如ク再犯以上、數罪ヲ犯ス者ノ如キハ法律ヲ蔑視シテ懲戒ノ效ナキ者ナルヲ以テ嚴罰シテ累犯減少ヲ期シタルモノナリ

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者

ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

本條ハ裁判確定、以後、再犯者タルコトヲ發見シタル場合ヲ規定シタルモノナリ
舊刑法ハ再犯者ノ刑ヲ加重スル程度、稍ヤ輕キニ失シタルニ拘ハラズ尙ホ被告ハ加重セラルルヲ恐レ初犯ノ刑ヲ隱蔽シ裁判當時、再犯者タルコトヲ發見セスシテ判決ヲ受クルコト往々アリ其後ニ至リ再三犯以上ナルコト發見スルモ一旦、言渡サレタル刑罰ヲ加重セラルルコトナキヲ以テ被告ハ裁判當時、極力再犯ニアラサルコトヲ爭ヒ萬一ヲ僥倖センコトヲ努ムル實際上ノ弊害アリタルヲ以テ本法ハ既ニ述ヘタル如ク一層加重スル主義ヲ採リタル結果、勢ヒ初犯ヲ隱蔽スル者増加スルヲ免レサルニヨリ之ヲ豫防スル爲メ本條第一項ヲ設ケ裁判確定以後、ニ於テモ尙ホ再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ何時ニテモ前條ニ從ヒ長期ノ二倍以下ノ標準ニ依リ加重シタル刑ヲ定ム可キコトヲ規定シタリ

然レトモ懲役刑ノ執行終リ又ハ其執行免除ヲ得タル者ニ對シテハ縱令、再犯タルコトヲ發見スルモ既ニ加重ス可キ本刑ナキヲ以テ加重セサルモノトス是本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

本條ハ三犯以上ノ者ニ對スル再犯例ヲ規定シタルモノナリ

再犯者ヲ二倍ノ刑ニ處スル以上ハ三犯以上ノ者ニ對シテ三倍ノ刑ヲ科スルヲ相當ナルカ如シト雖モ
改正刑法ハ再犯ノ場合ニ於テ充分加重スルヲ得可キコトト爲シタルニ因リ三犯以上ノ者ニ對シテハ
更ニ特別加重例ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯例ニ同シト規定シテ之ヲ制
限シタルモノナリ

第十一章 共犯

總論

本章ハ舊刑法、第一編、第八章、數人共犯ノ規定ヲ修正シタルモノナリ
共犯トハ二人以上共同シテ同一犯罪ニ加功スル所爲ヲ謂フ換言スレハ二人以上、共同シテ一罪ヲ犯
シタルコトヲ云フモノトス蓋シ數人共同シテ一罪ヲ犯スモ各人、獨立シテ刑罰ヲ受ク可キモノナル
ヲ以テ本章ノ規定ハ殆ト之ヲ要セサルニ似タリ然レトモ數人、共同シテ一罪ヲ犯ス場合ニ於テハ各
犯行ノ程度、同一ナラサルコトアルト或ハ親子ノ如キ身分アル者、共犯人タルコトアルニ因リ特ニ
本章ヲ設クル必要アリ加之刑法上、刑罰ヲ科ス可キ標準ハ犯罪ノ種類又ハ犯情等ニ因テ是カ輕重ヲ
定ム可キモノナルヲ以テ一人竊ニ犯罪ヲ決行スルト數人共同シテ犯罪ヲ實行スルトハ被害者ニ危懼

ノ念ヲ起サシムル點ノ異ナルト同時ニ社會ニ及ホス危害モ亦大ナラサルヲ得ス況ンヤ共同力ハ極メ
テ悞ル可キ結果ヲ生スルモノナルニ於テヲヤ故ニ一層、嚴罰ス可キ必要ナキニアラス假令ハ内亂外
患、騷擾罪及ヒ生命、身體、財産ニ關スル罪等ノ如キ孰レモ犯人ノ多數丈ケ夫レ丈ケ社會ニ及ホス
危険大ナレニナリ

然レトモ數人共同シテ同一犯罪ヲ行フモ亦必スシモ各自ノ行爲同一ナリト云フヲ得ス各自其分擔ノ
行爲中犯罪成立ニ必要ナル行爲アリ或ハ單ニ犯罪ヲ容易ナラシムルニ止マル行爲アリ其犯罪成立ニ
必要ナル行爲ヲ分擔シタル者ヲ正犯ト云ヒ單ニ犯罪行爲ヲ容易ナラシメタルニ止マル者ハ之ヲ從犯
ト云フ又正犯ニ實行正犯ト正犯ニ準ス可キ者トアリ則チ他人ヲシテ犯罪ヲ實行セシムル者ヲ教唆者
ト云ヒ自ラ犯罪行爲ヲ實行スル者ヲ實行正犯ト云フ此三種ノ犯人ハ孰レモ犯情ニ於テ輕重アルヲ以
テ刑罰モ亦差等ヲ設クルノ必要アリ是本章ノ規定アル所以ナリ

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

本條ハ實行正犯ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百條ノ「二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス」トノ
規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ「現ニ」ナル文字ヲ以テ實行正犯ノ意義ヲ示シタルモ現ニト云

フハ意義狹隘ニ失スルノ嫌アルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ「共同シテ」ト改メ「又各自ニ其刑ヲ科ス」トアリタルハ「皆正犯トス」ト改メタリ是即チ各自ニ其刑ヲ科ス可キコトハ當然ニシテ特ニ規定ヲ要セサルカ爲メナリ

蓋シ此共犯ノ規定ハ理論上及ヒ實際上、頗ル緊要ナルヲ以テ法文ヲ分析シテ之ヲ詳論セントス

第一、二人以上共同シタルコトヲ要ス

共犯トハ各自罪ヲ犯スノ意思ヲ以テ數人共同シテ犯罪行爲ノ一部又ハ全部ヲ實行スルコトヲ謂フモノトス換言スレハ犯罪ヲ實行スルニ當リ數人共同シタルヲ云フ然レトモ共犯タルニハ其數人孰レモ有能力者タルヲ要ス若シ犯罪無能力者タル幼者ヲ同行シタル場合ノ如キハ未タ以テ共犯ナリト云フヲ得ス是恰モ動物ヲ使用シタルニ等シク幼者ト共犯ヲ以テ論ス可キモノニアラサレハ二人以上トハ必ス犯罪能力者ノ共同タルヲ要スルモノニテ又此共同トハ二人以上ノ者、同一犯罪ヲ共ニ犯ス意思アルコトヲ要スルモノトス然ルニ從來、刑法學者中數人共犯ヲ論スルニ該リ必ス犯罪ノ通謀アルヲ要セスト論シタルモノアリト雖モ數人共同シテ同一犯罪ヲ實行シタリト爲スニハ必ス通謀アルヲ要ス故ニ共犯ヲ以テ論スルニハ合議協力ノ上犯罪行爲ヲ實行シタルコトヲ要スルモノナリ然レトモ騷擾罪ノ如キ必要の共犯ニ於テハ必スシモ附和隨行者ニ至ルマテ全部謀議ノ結

果ニ出ルヲ要セサルモ附和隨行者モ暴動ヲ爲スモノナルコトヲ知テ其勢ヲ助成スルコト換言スレハ騷擾罪ナルコトヲ知テ附和雷同スルコトヲ要ス故ニ必要の共犯ト通常共犯トヲ問ハス共ニ犯ス意思ト事實トナキ以上ハ共犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス左レハ同時同所ニ於テ一罪ヲ數人ニテ犯スモ共ニ犯スノ意思ナキ限りハ同犯ナリト云フコトヲ得ルモ共犯ナリト云フコトヲ得ス斯ノ如ク共犯タルニハ共同シテ罪ヲ犯スノ意思ト事實トアルヲ要スト爲スカ故ニ茲ニ一問題アリ無意犯即チ過失罪ニモ共犯アリヤ否ヤノ問題はナリ假令ハ數人共同シテ大石ヲ運搬スル途中之ヲ轉落シテ通行人ヲ負傷セシメタルトキハ其通行人ノ負傷ニ付テ運搬者、全體共犯トシテ其責ニ任ス可キモノナルヤ否ヤ此場合ニ於テモ共犯ナリト論スル者アリト雖モ共同ナル文字ハ共ニ積極的、意思アルヲ要スルヲ以テ無意犯ニ付テハ同犯アルモ共犯ナシト云フヲ穩當ナリトス

第二、犯罪ヲ實行シタルコトヲ要ス

本條ニ所謂、犯罪ヲ實行シタル者トハ數人共同シテ同一犯罪ヲ實行シタルコトヲ謂フモノニシテ其犯罪行爲ノ全部ヲ實行シタルトキハ共犯ノ既遂罪ナリ若シ犯罪實行ニ著手シテ遂ケサルトキハ一部實行ニ止マルヲ以テ未遂罪ナリ故ニ實行正犯タルニハ必ス其目的ヲ達シタルヲ要セス數人、共同シテ犯罪ヲ遂行シ犯罪行爲ノ全部若クハ一部ヲ行フニ因テ成立ス然レトモ本條特ニ「實行シ

タル者ト規定シタルヲ以テ著手未遂ニ達セサル豫備陰謀等ハ特別ノ明文アル場合ノ外實行正犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

蓋シ正犯トハ從犯ニ對スル語ニシテ犯罪ノ主タル責任ヲ負フモノヲ表スル意義ナリ故ニ二人以上共同シテ第二編以下、各條ニ規定シタル犯罪ヲ實行シタルトキハ各自、孰レモ正犯トシテ平等均一ノ刑ヲ科セラル可キ地位ニ立ツモノナリ然レトモ共犯者ハ各自、全部ノ犯罪ニ加行シタルヲ要セス、一部ニ加行スルモ仍ホ犯罪成立シタル以上ハ、皆正犯ヲ以テ論ス可キモノトス例ハ甲乙、共同シテ強盜ヲ爲スニ當リ甲ハ家人ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ乙ハ財物ヲ奪取シタル場合ノ如キハ暴行脅迫ヲ加フル所爲ト財物ヲ奪取スル所爲トヲ甲乙、各自、分擔シタルモノナルモ仍ホ強盜罪ノ共犯ナリトノ判例アリ又強盜見張ヲ爲シ其實行ヲ幫助シタル所爲ハ強盜罪ノ正犯ナリトノ判例アリ本法ハ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トスト規定シタルヲ以テ右判例ニ對シテハ多少疑ヲ容ル可キ餘地ナキニアラスト雖モ實行行爲ノ幫助者ハ正犯ヲ以テ論スルコト相當ナリ此點ニ付テハ仍ホ後ニ至リ論セントス

之ヲ要スルニ實行正犯トハ刑法上罰ス可キ行爲ノ結果ヲ惹起シ又ハ其發生ヲ妨止セザリシコトヲ云フモノナルカ故ニ實行正犯タルニハ必ス犯罪行爲ノ全部又ハ一部ヲ實行シタルコトヲ要ス然レ

トモ其結果ハ自己ノ行爲ニ因リテ生セシメタルヲ要セス自然力又ハ器具若クハ動物ヲ利用シテ結果ヲ生セシムルモ仍ホ之ヲ利用シタル者ハ實行正犯ナリ例ハ自己ノ犬ヲシテ牛肉店ノ肉片ヲ取リ來ラシメタル者ハ竊盜罪ノ正犯ナリ又犬ヲシテ人ヲ嚙シタル者ハ傷害罪ノ實行正犯タルカ如シ故ニ其利用セラレタル者カ無能力者タル場合ニ於テモ例ハ他人ヲ刺サシメカ爲メ瘋癲者ニ刀劔ヲ與ヘ殺サシメタルトキ又ハ幼者ヲ強制シテ或ル犯罪行爲ヲ爲サシメタルトキ又ハ其利用セラレタル者カ犯罪ノ意思ナキトキノ如キモ皆、其利用者ヲ以テ實行正犯ト爲スヘキモノナリ其他火力水力等ノ自然力ヲ利用シタルトキモ同一ニ論ス可キモノトス其利用者ヲ稱シテ學說上無形ノ正犯又ハ間接正犯ト云フ而シテ實行正犯タルニハ共同的實行行爲ヲ必要トナスト同時ニ又其關係者ニ共ニ犯スノ故意アルヲ要、然レトモ茲ニ所謂、故意トハ各自、共同シテ犯罪ヲ實行スル意思ヲ云フモノナルヲ以テ罪ヲ犯ス意思ナク共同スルモ共犯ナリト云フヲ得ス又罪ヲ犯ス意思アルモ共同スル意思ナキ以上ハ共犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス學者此場合ノ故意ヲ犯罪構成要件ノ知覺ト協力ノ知覺ト論スル者アリ獨逸刑法第四十七條ハ二人以上共ニ一罪ヲ犯ストキハ正犯トシ各自ニ其刑ヲ科スト規定シタリ而シテ實行正犯ト教唆者又ハ從犯トノ區別ハ主トシテ犯非構成條件ニ屬スル所爲ニ加行シタルト否トニ依ル換言スレハ實行正犯ハ主觀的ニシテ教唆者又ハ從犯ハ客觀的加

行ナリトス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條ハ教唆罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法第五條「人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス」トノ法文ト其立法主旨ハ同一ナリ唯、本條ハ重罪輕罪ノ文字ヲ刪除シタルト「亦正犯ト爲ス」トノ規定ヲ「正犯ニ準ス」ト修正シタルニ過キス是即チ教唆者ハ直接ニ犯罪ヲ實行スルモノニアラサルモ尙ホ實行正犯ト殆ト同一ナルヲ以テ正犯ニ準スト規定シタルモノナリ而シテ本條モ亦教唆者ト實行正犯トノ關係上、頗ル緊要ナル規定ナリトス

教唆トハ自己ノ犯意ヲ移シテ他人ニ犯罪ヲ實行セシムル所爲ヲ謂フ換言スレハ教唆ハ自己ノ犯意ヲ被教唆者ニ注入シテ實行セシムルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ教唆者ハ犯罪ノ發議者ニシテ被教唆者ハ其犯意ノ實行者ナリトス

本條モ亦法文ヲ分析シテ之ヲ論セントス

第一、教唆者ハ必ス一定ノ犯罪ヲ教唆シタルコトヲ要ス

人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシムルニハ必ス一定ノ犯罪タルコトヲ要ス故ニ漠然罪ヲ犯ス可シト教唆スル如キハ未タ以テ本條教唆罪ニ非ス左レハ教唆罪タルニハ一定ノ罪ヲ指定シタルヲ要シ被教唆者ハ其犯罪ヲ實行シタルヲ要ス換言スレハ教唆者ハ犯罪事實ヲ指定シテ教唆シ被教唆者ハ其指定セラレタル犯罪ヲ實行シタルヲ要スルモノナリ故ニ若シ被教唆者ニ於テ指定以外ノ罪ヲ犯シタルトキハ教唆者ハ其責ニ任ス可キモノニアラス舊刑法ハ此點ニ付キ第八條ヲ以テ「事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ特定シタル所ト異ナルトキハ左ノ例ニ照ラシテ教唆者ヲ處斷ス」一、所犯教唆シタル罪ヨリ重キトキハ止タ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス」二、所犯教唆シタル罪ヨリ輕キトキハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス」ト規定シ此第一條件ノ必要ヲ明ニシタルモ本法ハ之ヲ刪除シタリ是則チ一定ノ犯罪ヲ指定シテ教唆シタルニアラサレハ教唆罪成立セサルコト前段、論シタルカ如ク(事ヲ指定シテ教唆シタルニ被教唆者ニ於テ指定以外ノ罪ヲ犯シタルトキハ其指定外ハ教唆ニ基キタル行爲ト云フヲ得ス)ナルヲ以テ特ニ法文ヲ置クノ必要ナキカ故ナリ例ヘハ甲、乙ニ對シ丙家ニ到リ財物ヲ竊取シ來ル可シト教唆シタルニ乙之ヲ諾シテ丙家ニ侵入シ俄カニ強盜ニ變シ脅迫シテ財物ヲ強奪シタルトキハ乙ハ強盜罪ナルモ甲ハ竊盜ヲ教唆シタルニ止マルヲ以テ其指定シタル竊盜

ノ教唆以外ノ責ニ任ス可キモノニ非ス故ニ甲ハ其指定シタル竊盜教唆ノ罪ハ免レタルモ重キ強盜罪ノ教唆罪ニ非サルナリ又此場合ニ於テ乙、丙家ニ侵入シ婦女ヲ強姦シタルトキハ全ク乙ハ甲ノ與リ知ラサル罪ヲ犯シタルモノナルヲ以テ甲ハ何等ノ責任ヲモ負フ可キモノニ非ス然レトモ毆打傷害罪ノ如キハ結果ニ因リ責任ヲ定ム可キモノナルヲ以テ苟クモ毆打ヲ教唆シタル以上ハ其ノ結果ニ對スル責ヲ免レストノ判例アリ例ヘハ人ヲ毆打ス可シト教唆シタルニ被教唆者毆打シテ死ニ至ラシメタルトキノ如キハ教唆者ハ毆打致死ノ教唆罪ナリ

尙ホ茲ニ論ス可キコトアリ教唆者カ被教唆者ヲ教唆シテ實行セシメタル方法手段ハ之ヲ制限セサルコト是ナリ故ニ假令如何ナル方法手段ヲ以テ教唆スルモ被教唆者ニ於テ教唆者ノ犯意ヲ實行シタルトキハ教唆罪成立スルモノトス即チ被教唆者ト贈與ヲ約シ又ハ威權脅迫等ヲ加ヘテ行ハシメタルト其他如何ナル方法手段ニ因リタルト問ハス教唆ニ因テ罪ヲ犯シタルトキハ教唆罪成立ス然レトモ教唆者ニシテ被教唆者ニ對シ急迫ナル暴行ヲ加ヘ已ムヲ得サルニ出テ罪ヲ犯サシメタルトキハ被教唆者ハ第三十七條ニ依リ論ス可キモノナリ

第二、被教唆者、教唆者ノ教唆ニ因テ犯罪ヲ實行シタルコトヲ要ス

教唆者ハ人ヲ教唆シテ犯罪ノ決心ヲ爲サシメ而シテ罪ヲ犯サシムルモノナルヲ以テ教唆者ハ犯罪

ノ發意者ニシテ被教唆者ノ犯罪ハ其結果ナリ故ニ教唆者ハ智力上ノ働キヲ爲シ被教唆者ハ體力上ノ働キヲ爲スモノトス是即チ教唆者ヲ實行正犯ニ準シ同一ノ刑ヲ科スル所以ナリ茲ニ問題アリ助言ハ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ假令ハ赤貧洗フカ如キ者ニ對シ汝貧ニ苦シムヨリハ寧ロ、竊盜ヲ爲シテ苦シミヲ遁レヨト言ヒ或ハ子女多クシテ生計ニ苦シム者ニ向ヒ子女ヲ遺棄シテ氣樂ニセヨト助言シタル者ノ如キハ本條ニ所謂、教唆ナリヤ否ヤト云フニ在リ單ニ意見ヲ述ヘタルニ過キササルトキハ未タ以テ教唆ト爲スヲ得サルモ其助言ノ爲メニ全ク犯意ヲ決シテ之ヲ實行シタルトキハ教唆ナリトス蓋シ是等ノ區別ハ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ茲ニ豫メ論定スルコトヲ得サルモ教唆ト助言トハ似テ非ナルコトハ注意ス可キナリ

之ヲ要スルニ教唆トハ故意ニ犯人ヲシテ罰ス可キ行為ヲ爲スノ決意ヲ爲サシメタル所爲ヲ云フモハナルヲ以テ數人共同シテ又ハ各別ニ犯人ヲ教唆スルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ前者ハ共同教唆ニシテ後者ハ(教唆ノ通謀ナキヲ以テ)獨立シタル數人ノ教唆罪ナリ又教唆者ヲ教唆スルコトヲモ得可キモノナリ此點ニ就テハ仍ホ後ニ至リ論セントス

教唆ハ犯人ヲシテ犯罪ヲ實行スルノ決意ヲ喚起セシムル所爲ナルヲ以テ從來、學說上、教唆者ヲ無形ノ實行者ト稱シ犯罪實行者ヲ稱シテ有形ノ實行者即チ教唆者被教唆者ト稱シタルモ教唆ハ無

形ノ犯罪行為者ニ非シテ他人ノ犯罪ニ加擔シタルモノナリト論スル學者アリ曰ク教唆ハ其之ヲ罰ス可キノ原因ヲ教唆其コトノ内ニ含ムニ非ス他人ノ犯罪ヨリ其處罰ナル可キ性質ヲ受クルモノナリ換言スレハ教唆ハ正犯ニ犯罪ノ決意ヲ喚起セシムル所爲ナルヲ以テ其結果トシテ教唆ハ性質上必ス罰ス可キモノニアラス正犯ノ決意シタル行為カ罰ス可キ場合ニ限り其行シタル犯罪ノ程度ニ依リ教唆罪モ亦成立スルモノナリト、而シテ教唆ノ故意トハ自己ノ意思ニ因リ被教唆者ニ特定ノ罪ヲ犯スノ決意ヲ爲サシメタル所爲ヲ云フモノナルヲ以テ若シ自己ノ意思ニ基カスシテ他人ハ意思ニ依リ正犯ニ實行ノ決意ヲ傳達シタルトキハ教唆ハ教唆ナリトス故ニ其結果トシテ被教唆者ニ於テ教唆者ノ觀念シタル行為ト主要ノ性質ヲ異ニスル行為ヲ行フタルトキハ教唆ヲ以テ論スルコトヲ得ス例ヘハ教唆者ハ竊盜ヲ教唆シタルニ被教唆者ハ強姦ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ又教唆罪ハ原則上、實行正犯ト其運命ヲ共ニス可キモノナレハ實行正犯未遂ナレハ教唆罪モ亦未遂罪ナリ然レトモ實行正犯ノ身分ニ因リ即チ幼者又ハ精神病ノ如キ者ニテ犯罪成立セサルトキハ教唆者ハ間接正犯トシテ其實ニ任ス可キコトアルハ既ニ述ヘタルカ如シ仍ホ實行正犯又ハ教唆者ノ身分上ニ關スル影響ニ付テハ後ニ至リ論セントス

本條第二項ノ「教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ」トハ本法ノ新設ニ係ル規定ナリ舊刑法ニ於テハ此規定ナカリシヲ以テ學者中、教唆ノ教唆ハ法文ナキニ依リ罰スルコトヲ得スト論シ又實際上ニ於テモ屢々、奸佞不良ノ徒ヲ逸スルノ遺憾アリタルニ因リ本法ハ必要上、特ニ本項ヲ設ケ此疑問ヲ解決シタルモノナリ例ヘハ余甲ヲ教唆スルニ乙ヲ教唆シテ丙ヲ殺ス可キコトヲ以テシタルカ如キ場合ハ余ハ是甲ノ教唆ヲ教唆シタルモノナリ然レトモ實行正犯ヨリ觀察スレハ其教唆ノ教唆カ犯罪實行ノ原動力ナルヲ以テ實行正犯ヲ直接ニ教唆シタルモノト同一ニ罰ス可キ必要アリ、是本條第二項「教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ」ト規定シタル所以ナリ

茲ニ疑問ノ生スルハ本項教唆者ヲ教唆シタル者亦同シトハ第一項正犯ヲ教唆シタル教唆者ノ教唆者即チ第一教唆者ヲ教唆シタル第二ノ教唆者ノミヲ罰スル立法趣旨ナル乎將タ其第二ノ教唆者ヲ教唆シタル第三教唆者以下ノ教唆者ヲモ仍ホ準正犯トシテ罰ス可キ立法趣旨ナルヤノ問題はナリ法文ノ解釋上、疑ヒナキニ非ス前草案參考書ハ本條第二項ハ新ニ設ケタル規定ニシテ實行正犯ノミナラス教唆者ヲ教唆シタル者モ亦之ヲ罰スルモノナリ現行法ニ於テハ此規定ナキ爲メ往々、不良ノ徒ヲシテ其刑ヲ免レシメタルコトナキニ非ス故ニ改正案ハ此理由ニ因リ教唆者ヲ教唆シ教唆罪ヲ實行セシメタル者モ亦實行正犯ヲ教唆シタル者ニ準スルコトヲ規定シタリト説明シタルニ止マリ教唆者ノ教唆者以下ノ教唆者ニ至テハ之ヲ罰スルモノナルヤ否ヤ説明ナキヲ以テ明瞭ナラス然レトモ余ハ特ニ

明文ヲ以テ正犯ニ準スト規定シタル以上ハ文理解釋上、第一教唆者ヲ教唆シタル第二教唆者ニ限り、之ヲ罰シ其以下ノ教唆者ハ之ヲ罰セサル立法趣旨ナリト解スルモノナリ
要スルニ教唆ノ教唆及ヒ從犯ノ教唆ハ實行正犯ニ對スル間接ノ加行ナルヲ以テ前者ハ正犯ニ對スル本來ノ刑ノ範圍ニ依リ後者ハ從犯ニ對スル減輕シタル範圍ニ從ヒ罰ス可キモノナリ又從犯ノ從犯及教唆ノ從犯モ等シク正犯ニ對スル間接ノ加行ナリ然レトモ本法ニ於テハ從犯ノ從犯ハ之ヲ認メス一既ニ論シタル如ク一罪ニ對スル數個ノ教唆ハ一罪ナリ例ヘハ一ノ刺戟的、言語ニ依リ數個ノ正犯ヲ教唆シタル場合ノ如キハ教唆ノ意思、單一ナルヲ以テ縱令、多數ノ結果ヲ生スルモ一罪ニシテ實體上ノ數罪俱發ニ非ス又一人カ同一ノ犯罪ニ數回、關與シタルトキハ其干與シタル體様ノ輕キ所爲ハ其重キ所爲ニ吸收セラルルモノナリ例ヘハ教唆者カ其後、正犯トシテ又ハ從犯トシテ犯罪ノ實行ニ干與シタルトキハ前者ハ單ニ實行正犯トシ後者ハ之ヲ教唆者トシテ處分ス可キモノナリ終リニ臨ミ一、二論ス可キコトアリ即チ犯罪無能力者カ教唆シタル場合及ヒ教唆ヲ中止スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ

(一) 犯罪ノ主體ハ犯罪能力ヲ具備スルコトヲ要ストハ既ニ述ヘタル所ナリ故ニ此教唆者、被教唆者ニ付テモ亦犯罪能力者タルヲ要スルヤ論ナシ左レハ犯罪能力ナキ十四歳以下ノ幼者又ハ白癡、瘋

癡者等ヲ使囑シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ實行正犯トシテ其責ヲ負フヘキモノナリ如何トナレハ幼者又ハ白癡瘋癡者ノ如キハ是非善惡ヲ識別ス可キ能力ナキモノナルヲ以テ彼等ノ所爲ハ野犬猛獸ノ行爲ト異ナラサルニ因リ之ヲ使囑シタル者自身ニ於テ其責ニ任ス可キモノトス例ヘハ是非ノ辯別ナキ者ヲ使囑シテ放火セシメタル者ハ教唆者ニアラスシテ實行正犯ナルカ如キ是ナリ

(二) 教唆ハ之ヲ中止スルコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ元來、教唆ハ被教唆者ニ於テ教唆ノ事實ヲ實行スルニ因テ成立スルモノナルヲ以テ被教唆者カ犯罪實行ニ著手シタルトキハ最早、中止スルコトヲ得ス然レトモ未タ被教唆者ニ於テ犯罪實行ニ著手セサル以前、中止シタルトキハ其效アルヤ論ナシ之ニ反シテ教唆者、其犯罪實行ヲ中止ス可キコトヲ申入レタルモ被教唆者之ヲ肯セスシテ實行シタルトキハ中止ノ效アリヤ否ヤ是則チ異論ノアル問題ナリ教唆者ニ於テ犯罪中止ヲ申入レタルモ被教唆者之ヲ中止セスシテ犯罪ヲ實行シタルトキハ縱令、原動力ハ教唆者ニアリト雖モ中止ノ效力アリト謂ハサルヲ得ス如何トナレハ此場合ニ於テハ正犯之ヲ聽カス犯罪ヲ決行シタルモノナルヲ以テ更ニ犯罪ヲ企テ實行シタルモノト看做スモ敢テ不當ニアラサレハナリ假令ハ甲、乙ニ丙ヲ毒殺ス可シト教唆シ乙ニ其毒藥ヲ與ヘテ其方法ヲ指定シタルニ乙直ニ實行セントスルニ當リ甲其非ヲ悟リ與ヘタル毒藥ヲ取戻シタルトセハ中止ノ效アリト云フ可シ然レトモ乙尙ホ實行セシ

トシテ毒藥ヲ返戻セサル場合ニ於テハ己ムヲ得ス官ニ毒殺教唆ノ事實ヲ自首シテ公力ヲ以テ豫防スルノ外ナシト信ス

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

本條ハ從犯ヲ規定シタルモノナリ

從犯トハ正犯ヲ幫助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ謂フ而シテ此從犯ニ三種アリ即チ、第一正犯ノ犯罪實行前ノ幫助例ヘハ人ヲ殺スコトヲ知テ刀劍ヲ貸與シタル者ノ如キ、第二正犯ノ犯罪實行中ノ幫助例ヘハ強竊盜ノ案内ヲ爲ス者ノ如キ、第三正犯ノ犯罪實行後ノ幫助例ヘハ強盜ニ因テ得タル贓物ノ寄藏、故買者ノ如キ是ナリ然レトモ此事後ノ從犯(即チ犯人藏匿罪及ヒ贓物ニ關スル罪ノ如キ)ハ特ニ一罪トシテ規定シタルヲ以テ本條ニ所謂、從犯トハ犯罪實行前ノ幫助者ニ止マルモノトス

舊刑法第九九條ハ從犯ヲ規定シテ曰ク「重罪、輕罪ヲ犯ス事ヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ行爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス」ト規定シタリ故ニ舊刑法ニ於テハ正犯ノ犯罪豫備行爲ヲ幫助シタル者モ仍ホ從犯ト爲スノ嫌アリ又ル者ハ總テ從犯ナリト爲シタリ

而シテ從犯罪成立ニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一、正犯ヲ幫助シタルコトヲ要ス

從犯ハ主タル正犯アリテ初メテ存在スル從タル犯罪ナルヲ以テ正犯アルヲ要スルハ論ヲ俟タス故ニ原則上、主タル犯罪ト其運命ヲ俱ニス可キモノナリ左レハ主犯成立セサレハ從犯モ亦成立セス主犯、未遂罪ナレハ從犯モ亦未遂罪ナリト然レトモ本法ニ於テハ正犯ヲ幫助スル方法手段ヲ示ササルヲ以テ犯罪ニ要スル器具ヲ貸與シタルト犯罪ノ場所ニ誘導シタルト問ハス凡テ主刑ノ犯罪實行ヲ容易ナラシメタルトキハ從犯罪成立スルモノナリ而シテ此正犯ヲ幫助スルニ至レル原因モ亦贈與、約束、脅迫、威權等如何ナル方法手段ニ因リタルト問ハス要ハ唯、正犯ヲ幫助シタルコトニアリ

茲ニ問題アリ從犯ノ從犯ハ之ヲ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ前條、教唆者ヲ教唆シタル者ヲ罰シ本條從犯ヲ教唆シタル者モ亦之ヲ從犯ニ準シテ罰スルヲ以テ從犯ノ從犯ハ當然、之ヲ罰ス可キ

モノナルニ似タルモ本條第一項正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トスト規定シ直接ニ正犯ヲ幫助シタル者ト限定シタルヲ以テ正犯ヲ間接ニ幫助シタル從犯ノ從犯ハ之ヲ罰セサルモノトス

第二、從犯者ハ正犯ノ犯罪行為ヲ幫助スルノ意思アルコトヲ要ス

正犯、罪ヲ犯スコトヲ知テ之ヲ幫助セサレハ從犯罪成立セス換言スレハ正犯ト從犯トハ必スシモ通謀アルヲ要セサルモ正犯罪ヲ犯スコトヲ知テ之ヲ幫助スルヲ要ス、例令ハ人ヲ殺スコトヲ知テ刀劍、短銃等ヲ貸與シタルカ如シ故ニ罪ヲ犯スコトヲ知ラスシテ貸與シタルトキハ從犯ナリト云フヲ得ス又罪ヲ犯ス者ヲ防止セサル場合ノ如キモ積極的、行為ニ因テ犯罪ヲ幫助シタルモノニアラサルヲ以テ從犯ニ非サルナリ

茲ニ問題アリ例ヘハ人ノ犯罪ヲ容易ナラシムル意思ヲ以テ犯罪行為ヲ幫助シタルモ中途ニ至リ善事ニ非サルコトヲ悟リ幫助ノ所爲ヲ止メ正犯ニ對シテ犯罪實行ヲ中止センコトヲ勸告シタルニ正犯、之ヲ聽カスシテ犯罪ヲ實行シタルトキ假令ハ殺人犯ヲ幫助スル爲メ正犯ニ貸與シタル刀劍ヲ取戻シタルニ正犯、他ノ刀劍ヲ以テ遂ニ人ヲ殺シタル場合ノ如キハ最早、從犯タルノ責任ナシ此點ニ付テハ前條、教唆ヲ中止スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ト同一ナルヲ以テ参照ス可シ

本條第二項、從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ストノ規定ハ教唆者ヲ教唆シタルヲ罰スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ト等シク舊刑法上ニ此規定ナカリシニ因リ明文ナキヲ以テ罰スルコトヲ得サルヲ通説ト爲シタルモ本法ハ教唆者ノ教唆ヲ正犯ニ準シテ罰スルト同一理由ニ基キ從犯ヲ教唆シタル教唆者ヲ從犯ニ準シテ罰スルコトト爲シタリ然レトモ以上ノ理論ヲ貫カント欲セハ從犯ノ從犯モ仍ホ直接從犯ニ準シテ罰スルヲ至當ナリト雖モ從犯ノ從犯ニ至テハ特ニ明文ナキヲ以テ罰スルコトヲ得サルモノトス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

本條ハ從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ヨリ減輕ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

元來、從犯ハ正犯ノ行為ヲ幫助シタルニ止マリ正犯ニ比シ其情、輕キモノナルヲ以テ實行正犯ト同刑ニ處ス可キモノニ非ス故ニ舊刑法第百九條ト同シク本法ニ於テモ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス可キコトト爲シタリ蓋シ從犯トハ正犯ヲ幫助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ヲ云フモノナレハ正犯ノ行ハタル罪、從犯ノ知ル所ヨリ重キトキハ止タ其知リタル犯罪ニ照シテ處斷シ又正犯ニ於テ從犯ノ豫知シタル罪ヨリ輕キ罪ヲ犯シタルトキハ其輕キニ從テ從犯ノ刑ヲ減輕スヘキモノトス故ニ若シ正犯ノ犯シタル罪、從犯ノ知ラサルトキハ從犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス此點ニ付テハ前條、教唆者ノ知ラサル所爲ヲ正犯實行シタル場合ト同一ナリ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ拘留又ハ科料ニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ別段ノ規定アル場合ノ外罰セサルコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ犯罪ハ罪質、輕微ナルヲ以テ是等ノ罪ノ教唆者又ハ從犯ハ尙更、輕微ナルニ因リ之ヲ罰セサルコトト爲シ其罰スルノ必要アルモノニ限り各本條特ニ規定スルコトヲ示シタルモノナリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

本條ハ共犯人ノ身分ニ及ボス效力ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタル者ニ對スル規定ニシテ舊刑法ニハ此規定ヲカリシヲ以テ學說、二派ニ分レタリ即チ第一說ヲ主張スル學者ハ曰ク犯人ノ身分ニ因リ特ニ構

成スヘキ罪ハ其特別ノ身分ナキ者ハ共犯ヲ以テ論ス可キモノニ非ス假令ハ官吏收賄罪ノ如キ官吏タル特別ノ資格アリテ收賄スルニ因テ成立スル罪ナリ又子孫奉養ヲ闕ク罪ノ如キ子孫タル身分アリテ之カ奉養ヲ闕キ成立スル罪ナリ然レハ官名タル資格ナキ者、官吏ト共ニ賄賂ヲ收受スルモ官吏收賄罪ナリト云フヲ得ス又人ノ子孫タル身分ナキ者他人 父母ニ對シテハ奉養ノ義務ナキヲ以テ其他人ハ奉養ヲ闕クモノニアラスト第二說ニ曰ク他人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪ナリト雖モ身分ナキ者共ニ犯シタルトキハ共犯ヲ以テ論ス可キモノナリ是、共ニ犯シタル者ノ當然、負フ可キ責任ナリ然レトモ其身分ナキ者獨立シテ犯スモ尙ホ罪アリト云フニ非ス官吏タリ子孫タル身分アル者ト共ニ犯シテ初メテ成立スルモノナルコト論ナシト如斯、議論アリタルヲ以テ本法ニ於テハ特ニ本條ヲ設ケ身分ナキ者ト雖モ其犯罪行為ニ加功シタルトキハ共犯ナリト規定シテ其疑義ヲ避ケタリ

本條第二項、身分ニ因リ特ニ罪ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ハ通常ノ刑ヲ科ストノ規定ハ舊刑法第百十條ノ「身分ニ因リ罪ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ルトキハ其重キニ從テ一等ヲ減ス」正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免スヘキ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スルコトヲ得ストノ規定ト其立法主旨同一ナルモ本法ニ於テハ減輕ノ場合ニ關スル舊法ノ不備ヲ補充シタリ例ヘハ共犯人中ノ一人、本法第二百條自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル場合ニ於テハ其子孫タル身分アルモノハ通常殺

人罪ヨリ重罰セラレルト雖モ子孫タル身分ナキ者ハ第二百條ノ通常殺人罪ノ罪ニ處セラルルニ過キナルカ如キ又身分ニ因リ特ニ罪ノ輕キトキ假令ハ心神耗弱者ト共ニ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其者ハ特ニ本法第三十九條ニ依リ罪ヲ減輕セラルルモ他ノ共犯者ハ各本條ノ規定シタル通常ノ罪ニ處セラルルカ如キ則チ是ナリ

蓋シ茲ニ注意ス可キコトアリ犯人ノ身分ニ因ル影響ハ身分ナキ者ニ對シテ其效力ヲ及ボササルコト前段、論スルカ如シト雖モ之ニ反シテ犯罪情狀ヨリ來ル輕重ハ共犯者全體ニ其利害ヲ及ボスモノトス假令ハ本法第四十三條未遂罪ノ減輕免除ノ如キ又ハ第二百四十條強盜傷人罪ノ共犯人中傷害行為ニ加功セサリシ者之アリトスルモ其者モ通常強盜罪ヨリ重キ強盜傷人罪ノ罪ニ處セラルルカ如キ是ナリ(前例ハ減輕、後例ハ加重ノ場合ノ一例ナリトス)

第十二章 酌量減輕

總論

本章ハ舊刑法、第一編、第四章、第三節ト其立法趣旨ヲ同ウスルモノナリ

舊刑法ハ刑罰ノ範圍、頗ル狹隘ニ失シ實際ニ於テ刑ノ適用上、往々、權衡ヲ得サルコトアリタルヲ

以テ改正刑法ハ總則、第十三條ニ有期懲役ヲ一年以上、十五年以下ト規定シ第二編以下、各本條ニ於テモ亦舊刑法ヨリ一般ニ刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ本章ハ殆ント必要ナキニ似タリ如何トナレハ此酌量減輕ハ第三章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免ノ如キ法律ノ規定ニ基ク減輕ト異ナレハナリ然ルト雖モ彼ノ無期刑以上ノ場合ニ於テ本章規定ノ必要アルノミナラス凡百ノ犯罪事件ニ對シテハ時ニ或ハ罪刑、權衡ヲ失スルコトナキヲ保セサルヲ以テ之ヲ存スルノ必要アリ是本章ノ規定ヲ爲ス所以ナリ

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

本條ハ酌量減輕ヲ規定シタルモノナリ酌量減輕ハ立法者カ法文ニ明示シテ必ス輕減ス可キコトヲ規定シタル場合ト異ナリ犯罪ノ情狀ニ因リ憫諒ス可キ者ニ對シテ刑ヲ減輕スルモノナルヲ以テ之ヲ裁判上ノ減輕ト謂フ而シテ此酌量減輕ヲ設クル必要ハ既ニ述ヘタル如ク(一)彼ノ死刑又ハ無期刑ニ處セラル可キ場合ニアリ元來、死刑又ハ無期刑ハ分割ス可ラサル刑ナルヲ以テ其情狀大ニ恕ス可キ事情アルトキハ本條ノ規定ニ因リ死刑ヲ無期刑ニ無期刑ヲ有期刑ニ減輕スルコトヲ得ルモ若シ本條ノ規定ナクハ時ニ或ハ犯罪、權衡ヲ失ス

ルコトアルモ如何トモナス可ラス於此乎、本法ハ刑ノ範圍ヲ擴張シタルニ係ハラス尙ホ本章ヲ存シタルモノナリ(二)又酌量減輕ヲ施スト否トハ一ニ裁判所ノ認定ニ委ヌルモノナルヲ以テ例ヘハ一ノ共犯中、各犯人ノ心術ト情狀トハ必スシモ同一ナラサルコトアルニ因リ恠カル場合ニ就テハ刑ノ適用ヲ二、三ニシテ初メテ公平ナル裁判タルニ因リ本法ニ於テハ舊刑法ト等シク本章ヲ存シタルモノナリ

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

本條ハ酌量減輕ヲ適用ス可キ範圍ヲ規定シタルモノナリ
 法律ニ於テ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得ルトハ假令ハ法律上、特ニ加重ス可キ規定ヲ爲シタル併合罪ノ加重、再犯加重或ハ第二百條ノ如キ普通ノ殺人罪ヨリ一層、重罰セラルル情狀アルモ仍ホ憫諒ス可キ事情アル時ハ之ヲ酌量シテ減輕スルコトヲ得可キカ如キ是ナリ

又減輕ス可キ者トハ從犯、未遂罪ノ減輕又ハ犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免中ニ規定シタル正當防衛、危難ヲ避クル爲メノ緊急行爲、瘡痍者ノ行爲等ハ縱令、有罪ナル場合ニ於テ減輕シ得可キモノナルモ仍ホ情狀憫諒ス可キ事情アルトキハ本條ニ依リ更ニ酌量シテ減輕スルコトヲ得ルカ如キ則チ是ナリ

其他一般ノ犯罪ニ付キ本章酌量減輕ヲ適用シ得可キコト勿論ナリ

第十三章 加減例

總論

本章ハ舊刑法、第一編第三章、加減例及ヒ第六章加減順序ノ二章ヲ併合シテ修正シタルモノナリ
 舊刑法ノ加減例ハ如何ナル方法ニ因リ加減ス可キ乎ヲ規定シタルモノニテ加減順序ハ刑ヲ加減ス可キ場合ノ併合シタルトキハ何レヲ先ニス可キカラ定メタルモノナリ然ラハ此加減例ト加減順序トハ最モ密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ別章ニ規定スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ之ヲ一括シテ本章ニ規定シタリ

本章ハ法律上、刑ヲ加減ス可キ原因ノ一個又ハ數個、併發シタル場合ニ於ケル加減順序ノ標準及ヒ裁判上ノ酌量減輕ヲ與フ可キ順序ヲ規定シタルモノナリ即チ加重減輕ノ一時ニ併發シタルトキハ加重ヲ先ニス可キカラ將タ減輕ヲ先ニス可キカラ一定シタルモノナリ

此加重減輕ヲ一ニ判事ノ認定ニ任センカ其結果、犯人ノ不利益ニ及ホス影響、大ナルコトナキニ非ス假令ハ心神耗弱者、無期懲役ニ該當ス可キ刑ヲ犯シ且ツ再犯ニ係ル場合ニ減輕ヲ先ニセンカ其者

ハ有期懲役ニ減シ更ニ再犯二倍ノ刑ヲ加重スルトキハ結局、無期懲役タルヲ免レス之ニ反シテ再犯加重ヲ先ニスルトキハ縱令、再犯二倍ノ刑ヲ加重スルモ加ヘテ死刑ニ處スルコトヲ得サレハ再犯加重ハ單ニ名義ノミニ止マリ其者ハ有期懲役ニ處セラルルノ利益アルモノトス是本章ノ規定ヲ要スル所以ナリ

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

- 一、死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二、無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ

禁錮トス

- 三、有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分一ヲ減ス
- 四、罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分一ヲ減ス
- 五、拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分一ヲ減ス
- 六、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分一ヲ減ス

本條ハ法律上、減輕ス可キ標準ヲ規定シタルモノナリ

本法ハ舊刑法ト異ナリ刑名ヲ減少シテ刑ノ範圍ヲ廣汎ナラシメタル結果、減輕ノ分量ヲ定ムル方法ニ至テモ亦舊刑法ト異ナラサルヲ得ス即チ本條規定ノ如ク法律ニ基ク減輕ノ原因、一個又ハ數個アル場合ニ於テハ第一號乃至第六號ニ規定シタル標準ニ依リ之ヲ減輕ス可キモノトス

本條ハ法律上、減輕ス可キ場合ノミヲ規定シタルヲ以テ再ヒ茲ニ規定セサルモノナリ舊刑法ハ刑ノ種類ヲ細別シタルヲ以テ從テ加減ノ原因、數個アル場合ニ於テハ一個毎ニ加減スルコトト爲シタルモ本法ハ刑ノ種類ヲ減少シ刑期ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ、其原因、一個毎ニ加減セハ輕キニ失スルノ嫌アルニ因リ縱令、數個ノ減輕原因アルモ之ヲ合シテ一個トナシ一度ニ之ヲ減輕スルコトト爲シタリ然レトモ酌量減輕ニ至リテハ其性質、全ク裁判所ノ認定ニ因リ減輕ス可キモノナルヲ以テ第六十七條ニ規定スルカ如ク他ノ原因ト獨立シテ加重減輕ス可キ場合ト雖モ仍ホ酌量シテ減輕ス可キモノトセリ

本條第一號死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處ス可キモノトス而シテ第二號乃至第六號ハ無期、有期ノ懲役若クハ禁錮、罰金又ハ拘留、科料ヲ減輕ス可キ場合ノ標準ト

順序トヲ規定シタルモノナルモ一讀了解ニ難カラサルヲ以テ別ニ論セス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑

名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

本條ハ法律上、減輕ス可キ場合ニ於テハ先ツ本刑ヲ一定ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本法ニ於テハ刑ノ種類ヲ減少シ且、範圍ヲ擴張シタル結果、其適用上自由ニ刑ヲ上下スルコトヲ得

可キモノトス故ニ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ裁判所ハ先ツ其本刑ヲ一定シ而シテ後刑ヲ減

輕ス可キモノトス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩

ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

本條ハ體刑ノ一日、金刑ノ一錢ニ滿タサルトキハ之ヲ除去ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

本法ニ於テハ法律上ノ減輕ハ第六十八條ニ定メタル如ク刑期、金額ノ二分ノ一ヲ減スルヲ以テ或ル

場合ニ於テハ減輕ノ結果、一日未滿ノ時間又ハ一錢未滿ノ金額ヲ剩スコトナキニ非ス此場合ニ於テ

ハ其剩時間又ハ剩金額ノ刑ヲ科スルハ實際上、便宜ナラサルノミナラス何等ノ必要ヲモ見サルヲ以テ之ヲ除棄スルコトト爲シタルモノナリ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

本條ハ酌量減輕ヲ與フ可キ標準ヲ規定シタルモノナリ

本法ニ於テハ舊刑法ノ第九十條ヲ改メ更ニ減輕ノ程度ヲ第六十七條ニ定メタル如ク法律上ノ減輕ニ

拘ラス仍ホ酌量シテ減輕ス可キコトト爲シ法律上、減輕シタル刑ノ範圍、犯罪ニ比シ重キ場合ニ適

用ス可キコトト爲シタルヲ以テ此等ノ場合ニ於テハ法律上、減輕シタル刑ヨリ更ニ第六十八條ノ例

ニ從ヒ減輕スルモノトス

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

本條ハ加減順序ヲ規定シタルモノナリ

本條再犯加重ヲ第一號ニ置キタルハ本章初メニ於テ述ヘタル如ク再犯ハ本刑ヲ倍加ス可キ規定ナルヲ以テ是ヲ第一ニ置カサレハ他ノ減輕ヲ施スモ實益ナキカ爲メナリ故ニ若シ數多ノ加重減輕ヲ爲ス可キ原因アルトキハ先ツ本條規定ノ順序ニ依リ第一ニ加重シ而シテ法律上ノ減輕ヲ爲シ然ル後、復タ併合罪ノ加重ヲ爲ス可キモノトス蓋シ此併合罪ノ加重ヲ斯ノ如ク第三位ニ置キタル所以ノモノハ死刑、無期刑以外ノ罪ニ付テモ仍ホ併科ス可キヤ否ヤヲ定ム可キ必要アルヲ以テナリ然レトモ酌量減輕ハ裁判所ノ自由ニ減輕ス可キモノナルニ因リ罪刑、公平ヲ得セシムル爲メ最後ニ規定シタルモノナリ蓋シ酌量減輕ハ其性質ニ於テ法律上ノ加重減輕ニ先ンス可キモノニアラサレハナリ

第二編

總論

本編各章ヲ論スルニ先ダ茲ニ各章題並ニ舊刑法ヲ改廢修正シタル概要ヲ示サントス

第一章皇室ニ對スル罪、第二章内亂ニ關スル罪、第三章外患ニ關スル罪、第四章國交ニ關スル罪、第五章公務ノ執行ヲ妨害スル罪、第六章逃走ノ罪、第七章犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪、第八章騷擾ノ罪、第九章放火及ヒ失火ノ罪、第十章溢水及ヒ水利ニ關スル罪、第十一章往來ヲ妨害スル罪、第十二章住居ヲ侵スル罪、第十三章秘密ヲ侵スル罪、第十四章阿片煙ニ關スル罪、第十五章飲料ニ關スル罪、第十六章通貨偽造ノ罪、第十七章文書偽造ノ罪、第十八章有價證券偽造ノ罪、第十九章印章偽造ノ罪、第二十章偽證ノ罪、第二十一章誣告ノ罪、第二十二章猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪、第二十三章賭博及ヒ富籤ニ關スル罪、第二十四章禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪、第二十五章瀆職ノ罪、第二十六章殺人ノ罪、第二十七章傷害ノ罪、第二十八章過失傷害ノ罪、第二十九章墮胎ノ罪、第三十章遺棄ノ罪、第三十一章逮捕及ヒ監禁ノ罪、第三十二章脅迫ノ罪、第三十三章略取及ヒ誘拐ノ罪、第三十四章名譽ニ對スル罪、第三十五章信用及ヒ業務ニ對スル罪、第三十六章竊

盜及ヒ強盜ノ罪、第三十七章詐欺及ヒ恐喝ノ罪、第三十八章占有物横領ノ罪、第三十九章贓物ニ關スル罪、第四十章毀棄及ヒ隱匿ノ罪等はナリ

以上ハ本編規定ノ各種、犯罪ノ類別及ヒ規定ノ順序ナリ是ヲ舊刑法ト相對照シテ左ニ其改廢修正シタル理由ヲ説明ス可シ

- 一 舊刑法ニ於テハ第二編ヲ公益ニ關スル重罪、輕罪ニ區別シ各種ノ罪ヲ規定シタルモ恣ル區別ハ刑法、編纂上、何等ノ實益ナク却テ疑義ヲ生スル虞レナキニ非ス如何トナレハ凡ソ犯罪トシテ公益ニ關セサルモノナシ然ルヲ特ニ公益ニ關スル重罪、輕罪ト爲スカ如キハ學理上ハ暫ク措テ實際上、區別スルノ必要ナシ故ニ本法ニ於テハ如斯、實益ナキ類別ハ之ヲ全廢シタリ
- 二 舊刑法ハ第三編ヲ身體、財産ニ對スル重罪、輕罪ト爲シ身體、財産ニ關スル總テノ犯罪ヲ網羅シタルモ前段、述ヘタル如ク公益ニ關係セサル犯罪ナキト同時ニ又私益ニ關セサル罪ナキヲ以テ本法ハ此種ノ分類ヲ全廢シ唯タ同種類ノ罪ヲ順次、規定スルノ主義ヲ採リタリ
- 三 舊刑法ハ第四編ニ違警罪ナル特別罪ヲ規定シタルモ本法ハ之ヲ刪除セリ是則チ違警罪ナルモノハ多クハ地方的、犯罪ニシテ土地ノ情況、若クハ時ノ必要ニ因リ規定ス可キモノナルヲ以テ此種ノ犯罪中、特ニ刑法上、規定ヲ要スヘキモノハ拘留又ハ科料ニ處ストナシ本編、各章ニ規定シ其

他ハ悉ク特別立法ニ讓ルコトト爲シタリ

- 四 舊刑法ノ罪目中、他ノ法令ト相俟テ運用ス可キ罪鈔カラス故ニ此等ノ罪ハ時ニ或ハ實際上、他ノ法令ト抵觸シ又ハ重複シ往々、解釋上、疑義ヲ生スルコトアルヲ以テ本法ハ他ノ法令ト相俟ツ可キ犯罪ハ成ル可ク特別法ニ讓ルノ主義ヲ採リ大ニ其罪名ヲ減少シタリ縱令ハ彼ノ舊刑法第二編、第三章、第五節ノ私ニ軍用ノ銃砲、彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪、又ハ同編、第五章、第三節、傳染病豫防規則ニ關スル罪、第四節、危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造規則ニ關スル罪、第五節、健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪等ノ如キ是ナリ
- 五 舊刑法ニ於テハ國交ニ關スル罪、關如シタルヲ以テ從來、往々、意外ノ椿事ヲ惹起シテ學者ノ物議ヲ生シ刑法上ノ一大闕點ト爲シタル所ナリ殊ニ將來、國交、益々、頻繁ヲ加フルニ從ヒ、愈々、其規定ノ必要アルヲ以テ本法ニ於テハ特ニ本編、第四章ニ外國貴賓ニ對スル罪ヲ規定シ此闕點ヲ補正シタリ
- 六 舊刑法ハ第二編、第二章ニ靜謐ヲ害スル罪ト題シ各種ノ犯罪ヲ規定シタルモ本法ハ是等ノ章目ヲ廢シ又兇徒聚衆罪ヲ騷擾ノ罪ト改メ官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ヲ公務ノ執行ヲ妨害スル罪ト改メ囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪ヲ別章ト爲シ一ヲ逃走ノ罪ト爲シ一ヲ犯人藏匿及ヒ證

憑、滅、ノ、罪ト改メ是ヲ本法、第五章、第八章ト爲シ新タニ第十三章ニ秘密ヲ侵ス罪ノ一章ヲ設ケ
放火ノ罪、溢水及水利ニ關スル罪ヲ茲ニ規定シタリ

七 舊刑法第二編、第四章、信用ヲ害スル罪ノ第七節、度量衡ヲ偽造スル罪及ヒ第八節、身分ヲ詐
稱スル罪、第九節、公選ノ投票ヲ偽造スル罪、第五章、第六節、私ニ醫業ヲ爲ス罪等ハ特別法ニ
讓リ第八章商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スルノ罪ハ之ヲ修正シ第三十五章ニ信用及ヒ業務ニ對スル罪
ト改メ規定シ第九章ノ官吏瀆職罪ハ本編、第二十五章トナシ第五章、第三節官吏財産ニ對スル罪
ハ一般、財産ニ關スル罪ト共ニ規定スルコト爲シ其他ハ第十一章乃至第十九章ニ之ヲ規定セリ
八 舊刑法第三編、身體、財産ニ對スル重罪、輕罪中、第一節、謀殺故殺ノ罪ヲ本法ハ殺人ノ罪ト改メ、
第二節毆打創傷ノ罪ヲ傷害ノ罪ト爲シ第三節、殺人ニ關スル宥恕及ヒ不論罪ハ本法第一編第七
章中ニ其一部ヲ規定シ他ハ唯、犯罪ノ情狀ニ關スルモノナルヲ以テ特ニ規定セズ第五節自殺ニ關
スル罪ハ殺人ノ罪ニ併合シ、第六節擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ヲ逮捕及ヒ監禁ノ罪ト改メ第九節幼
者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ヲ單ニ遺棄ノ罪ト改メ、第十節幼者ヲ略取誘拐スル罪ヲ略取及ヒ誘拐
ハ罪ト改メ第二十三章ニ規定シ第十一節猥褻姦淫重婚ノ罪ヲ猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪ト爲シ第二十
二章ニ之ヲ規定シ第十四章、祖父母父母ニ對スル罪ハ別ニ章ヲ設ケス各章下ニ特ニ必要アルモノ

ニ限リ規定スルコトト爲シタリ

九 舊刑法第三編、第二章、第一節竊盜ノ罪、第二節強盜ノ罪ハ共ニ同質ナルヲ以テ本法ハ之ヲ
併合シテ竊盜及ヒ強盜ノ罪トナシ本編第三十六章ニ一括シテ規定シ第五節詐欺取財ノ罪ハ詐欺及
ヒ恐喝ノ罪ト改メ第三十七章ニ規定シ第三節、遺失物埋藏物ニ關スル罪ハ單ニ横領ノ罪ト爲シ第
三十八章ニ規定シ第四節家資分散ニ關スル罪ハ他ノ法令ニ讓リ第七節放火失火ノ罪及ヒ決水ノ罪
等ハ既ニ述ヘタル如ク本編、第九章、第十章ニ移シ、第六節贓物ニ關スル罪ハ第三十九章ト爲シ
第十節家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ハ之ヲ修正シテ毀棄及ヒ隱匿ノ罪ト改メ第四十章
ニ規定シタリ

以上ハ本法ニ規定シタル其概要ニシテ第一章ニ始マリ第四十章ニ終ル詳細ハ各章下ニ至リ論セント
ス

罪

罪トハ國法上刑罰ノ制裁ヲ科シ法令ニ規定シタル禁令又ハ命令事項ニ違背シタル有責者ノ不法行為
ヲ謂フモノトス

第一、刑罰ノ制裁ヲ科シ法令ニ規定シタル禁令又ハ命令ニ違背シタルコト

刑罰ノ制裁ヲ科シ法令ニ規定シタル禁令又ハ命令事項ニ違背シタル行爲ニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス舊刑法第二條ハ特ニ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ罰スルコトヲ得スト規定シタルモ法令ニ規定ナキ行爲ハ之ヲ罰セサルコト法文ヲ要セスシテ明白ナリトス

第二、不法行爲ニシテ權利行爲ニ非ルコト

不法行爲ニ非サレハ縱令、犯罪的事實ヲ現出スルモ之ヲ罰スルコトヲ得ス、左レハ法令ノ規定ニ依ル行爲、又ハ正當ノ業務行爲、正當防衛、若クハ緊急行爲等ノ如キ（本法第三十五條乃至第三十七條）各場合ハ之ヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲ス

第三、有責者ノ行爲タルコト

犯罪ノ主體タルニハ必ス責任能力ヲ有スル人タルコトヲ要スルヲ以テ心神喪失者ノ行爲、瘖啞者ノ行爲又ハ十四歳ニ滿タザル幼者ノ行爲ノ如キハ之ヲ罰セサルモノトス（本法第三十九條第四十一條）

蓋シ是等ノ一般犯罪成立要素ニ就テハ既ニ第一編、總則ニ於テ詳論シタルヲ以テ復々贅セス而シテ本編各章ハ此各種犯罪ノ特別成立要素ト其犯罪ニ對シテ科ス可キ刑罰ノ範圍等ヲ規定シタルモノナリ

第一章 皇室ニ對スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第一章ノ規定ヲ鈔シテ修正シタルニ止マリ其立法趣旨ニ至テハ全ク同一ナリ
其修正シタル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ本章規定ノ罪ニ附加刑ヲ科シタルモ本法ハ總テ附加罰金ハ之ヲ全廢スルコトト爲シタリ

二、舊刑法ハ本章不敬罪中ニ神宮ニ對スル不敬ノ所爲ヲ罰スル規定ナカリシモ本法ハ神宮ニ對スル不敬ノ所爲ヲ皇陵ニ對スル不敬ノ所爲ト同一ニ罰スルコトト爲シタリ而シテ本章ニ所謂、神宮トハ我帝國ノ宗廟タル伊勢大神宮ヲ奉稱スルモノトス

本章ハ（一）天皇陛下、三皇后、皇太子、皇太孫ニ對シ奉ル危害罪（二）天皇陛下、三皇后、皇太子、皇太孫及ヒ神宮又ハ皇陵ニ對シ奉ル不敬罪（三）皇族ニ對スル危害罪（四）皇族ニ對スル不敬罪ヲ規定シタルモノナリ

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ各陛下及ヒ殿下ニ對シ奉ル危害罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第一百十六條ノ規定ト全ク立法趣旨ハ同一ナルモ、唯其異ナル點ハ第百十六條ニ於テハ天皇、三后、皇太子ニ對シ云々ト規定シタルヲ本法ハ之ヲ天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子ト改メ其下ニ皇太孫ヲ加ヘ奉リタリ

本條各陛下及ヒ各殿下ニ對シ奉ル危害罪ノ成立ニハ、第一天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ノ御身體、御生命ニ對シ奉ルコト、第二危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫ノ御身體、御生命ニ對シ奉ルコトヲ要ス

(一) 天皇トハ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ現ニ我帝國ヲ統治シ給フ君主ヲ奉稱スルモノナリ從來學者說ヲ爲シテ曰ク本條ニ所謂、天皇ノ語中ニハ太上天皇ヲモ之ヲ包含スト論スル者アリト雖トモ是否ナリ本條天皇中ニハ太上天皇ハ之ヲ包含セス如何トナンハ皇室典範、第十條ニ天皇崩スレハ皇嗣直ニ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承クトアリテ天皇ハ御在世中、決シテ帝位ヲ去リ給フコトナキヲ以テナリ

(二) 太皇太后トハ先々帝ノ皇后ヲ奉稱シ(三) 皇太后トハ先帝ノ皇后ヲ奉稱シ(四) 皇后トハ現帝ノ皇后ニシテ即チ皇室典範、第十六條ノ規定ニ據リ皇后ニ立タセ給ヒタル御方ヲ奉稱スルモノナリ(五) 皇太子トハ皇室典範、第十三條同第十六條ニ據リ皇太子ニ立タセ給フ御方ヲ云フ(六) 皇太孫トハ同第十七條ニ據リ皇太子在ラサルトキ儲嗣タル皇孫ニシテ皇太孫ニ立タセ給フ御方ヲ奉稱スル者トス以上三后及ヒ皇太子、皇太孫ハ孰レモ天皇大權ノ御下ニ立タセ給フト雖モ吾人、一般至民ヨリ尊敬シ奉ル上ニ就テハ天皇ト異ナルコトナキヲ以テ斯ク規定シタルモノナリ
茲ニ注意スヘキコトハ以上、列舉シタル御方ノ外、縱令天皇ノ御母君又ハ御祖母君ニ在ラセ玉フト雖モ必スシモ本條ニ所謂、皇太后又ハ太皇太后ト云フヲ得サルコト是ナリ

第二、危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトヲ要ス

此危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル行爲トハ各陛下及ヒ殿下ノ御生命、御身體ニ對シ奉リ暴行又ハ脅迫其他、不法行爲アリタル場合ヲ云フモノニシテ其手段、方法如何ヲ問ハス故ニ危害ノ程度輕重ヲ論セス總テ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルモノナリ

蓋シ本條ニ所謂「危害ヲ加ヘ」トハ各陛下又ハ殿下ノ玉體、御生命等ニ對シ奉リ兇行アリタルカ若クハ自由ヲ侵シ奉ル所爲アル場合ヲ云フモノニシテ別ニ疑ヒナキモ「危害ヲ加ヘントシタルモ

ノトハ如何ナル程度迄ノ兇行ヲ意味スル乎、是大ニ研究ス可キ問題ナリト雖モ要スルニ危害ヲ加フル意思ヲ以テ兇行ヲ實行セントシタル決心ヲ事實上、顯ハシタルトキハ未タ玉體ニ對シ奉リ毫モ加害的行爲ナキモ仍ホ本條ニ據リ處分ス可キモノトス如何トナレハ本罪ノ如キハ非常ノコトニ屬スルヲ以テ其豫備、陰謀ヲモ之ヲ包含スル未遂犯ノ例外ナレハナリ

但シ御名譽ニ對シ奉リテハ次條不敬罪ノ規定アルヲ以テ本條中ニ包含セス故ニ本條ハ御身體、御生命等ヲ侵シ奉ル行爲タルヲ要スルコト論ヲ俟タス

本罪ハ危害ノ程度、輕重ヲ論セス凡テ死刑ニ處ス可キモノナルヲ以テ必ス危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル意思アルヲ要ス故ニ若シ危害ヲ加フル意思ナク知ラス識ラス各陛下又ハ各殿下ニ對シ奉リ危害ヲ及ホシタル場合ノ如キハ本條ニ據リ論ス可キモノニアラス

以上ノ條件具備スルトキハ死刑ニ處ス可キモノトス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

本條ハ各陛下及ヒ殿下ニ對シ奉ル不敬罪及ヒ神宮又ハ皇陵ニ對スル不敬罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第一百七條、天皇、三后、皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上、五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上、二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス、皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シトノ法文ヲ修正シ刑期ヲ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スト改メ神宮ニ對スル不敬罪ヲ加ヘタル外、其外立法趣旨ハ同一ナリトス

本罪成立ニハ、第一天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫及ヒ神宮又ハ皇陵ニ對シ奉ルコト、第二不敬ノ行爲アルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫及ヒ神宮又ハ皇陵ニ對シ奉ルコトヲ要ス

天皇陛下及ヒ各殿下ノ説明ハ、前條既ニ述ヘタル御方々ヲ奉稱シ神宮トハ伊勢ノ宗廟太神宮ヲ奉稱シ皇陵トハ御歷代天皇ノ御墳墓ヲ奉稱スルモノトス

第二、不敬ノ行爲アルコトヲ要ス

不敬ノ行爲トハ天皇陛下及ヒ各殿下ニ對シ奉リ罵詈、嘲弄若クハ誹毀侮辱等ヲ加ヘ又ハ神宮又ハ皇陵ニ對シ汚損毀壞或ハ墳墓ヲ發掘スル等ノ行爲アルトキハ勿論、其他、不敬ト認ム可キ行爲アリタルトキハ本條ニ所謂不敬罪ナリ故ニ其手段方法ノ如キハ之ヲ問ハサルモノトス

御歷代ノ天皇ニ對スル不敬ノ所爲モ本條ニ據リ罰スヘキモノナルヤ否ヤ從來、此問題ニ就テハ學

說二派ニ分レタリ曰ク御歷代、天皇ニ對スル不敬ヲモ本條ニ據リ罰ス可シ如何トナレハ一私人ニ關スル誹毀スラ仍ホ死者ニ對シテ誣罔ニ出テタルトキハ之ヲ罰ス況ヤ御歷代、天皇ニ對シ奉ル不敬ノ所爲アルニ於テオヤト又曰ク本條ニ所謂、天皇トハ現在我帝國、主權ヲ總攬シ給フ御方ニ限リ奉稱スルモノナルヲ以テ、御歷代、天皇ハ之ニ包含セス若シ夫レ、御歷代、天皇ヲモ仍ホ包含スルモノトセハ彼ノ歴史家カ事實ヲ直筆シテ後世ニ傳フルトキハ時ニ或ハ不敬ニ涉ルコトナキヲ保セス爲メニ事實ヲ曲筆スルノ已ムヲ得サルニ至ルヲ以テ特別ノ規定ナキ以上ハ之ヲ包含セスト解スルヲ穩當ナリ然レトモ若シ御歷代、天皇ニ對スル不敬ノ行爲、延テ現帝ノ御尊嚴ヲ瀆シ奉ルトキハ本條ニヨリ罰ス可キコト論ナシト余ハ此第二說ヲ可ト信ス

不敬ノ行爲トハ既ニ述ヘタル如ク其手段方法ハ之ヲ問ハス不敬ヲ加フル意思アルヲ要スルヲ以テ夫ノ車駕、御通過ノ際知ラス識ラス敬意ヲ表セザルトキノ如キハ不敬ナリト雖モ未タ本條、不敬ヲ加フル意思アルモノト云フコトヲ得サルヲ以テ本條ニ所謂、不敬罪ニ非ス彼ノ田中正造カ明治三十四年十二月十日天皇陛下、貴族院ニ行幸、鳳輦、御還幸ノ途路、鑛毒問題ニ關スル直訴ヲ企テタル事件ニ對シ不敬ヲ加フル意思ナキモノトシテ不問ニ附セラレタルハ其好適例ナリ

本條、不敬罪ハ豫備、陰謀又ハ未遂ヲモ仍ホ罰ス可キモノナルヤ否ヤ、是一個ノ問題ナリト雖モ

余ハ此不敬罪ハ不敬ト認ムヘキ行爲ヲ外形上顯ハシタル場合ニ果シテ不敬ナルヤ否ヤヲ理想上判定スヘキモノナルヲ以テ積極的、行爲アルヲ要スルカ故ニ本罪ハ其豫備、陰謀ハ勿論、未遂ノ所爲ハ本條不敬罪ニ非スト信ス

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシ

タル者ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第百十八條「皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス」トノ法文中(其)ノ一字ヲ刪除シタル外舊刑法ト異ナルコトナシ

本罪成立ニハ、第一皇族ノ御身體、御生命ニ對シ奉ルコト、第二危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル行爲アルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、皇族ノ御身體、御生命ニ對シ奉ルコトヲ要ス

本條皇族トハ皇室典範第三十條ニ定メラレタル太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王妃、女王等ヲ奉稱スルモノトス

而シテ本條皇族中ニハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃ハ之ヲ包含セス如何トナレハ此

御方々ニ對スル不敬罪ハ既ニ第七十四條ニ規定シタルヲ以テ本條ハ其餘ノ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定シタルモノナリ

茲ニ問題アリ攝政ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ヲ本條ニ據リ論ス可キモノナルヲ將タ第七十三條ニヨリ論ス可キモノナルヤノ問題はナリ論者、或ハ攝政ハ天皇自ラ統治權ヲ行フ能ハサル場合ニ於テ皇室典範ノ規定ニ從ヒ皇族代テ天下ノ大政ヲ行フモノナルヲ以テ其資格、天皇ト同一ナリ故ニ曰ク攝政ノ職ニ在ル者ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ取リモ直サス天皇ニ對シ奉リタル者ト同一ナルヲ以テ第七十四條ニ據リ死刑ニ處ス可シト余ハ此說ニ左袒セス如何トナレハ我帝國ノ主權ヲ總攬シ給フハ天皇陛下、御一人ナルコトハ何人モ疑ハサル所ナリ、唯其主權ヲ行ヒ玉フコト能ハサル故障アル場合ニ攝政、代テ天下ノ大政ヲ執行スルニ過キサルヲ以テ攝政ノ職ニ就ク者ハ必ス其身分、陛下ト同一ナリト云フコトヲ得ス故ニ皇室典範、第二十條、同第二十一條ノ規定スル順序ニ從ヒ攝政トナラセ給フ、御方々ニ因テ之ヲ區別シ若シ皇太子、皇太后、皇后、皇太后、太皇太后ト順次、攝政ノ任ニ就カレタルトキハ當然、第七十四條ニ據リ、罰ス可キモノ之レニ反シテ其他ノ皇族、攝政ノ職ニ就カレタルトキハ本條ニヨリ罰ス可キモノト信ス殊ニ本條ノ規定ハ天皇及ヒ皇族ト云フ臣民ノ以テ侵ス可ラサル御身分ニ對シ奉ル規定ナルヲ以テ攝政

ト云フ職ニ在ルニ因リ直ニ天皇ト御身分同一ナリト云フハ法理ノ許ササル所ナレハナリ

第二、危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル行爲アルコトヲ要ス

本條件ハ第七十四條ニ於テ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ再說セス而シテ本罪成立ニモ危害ヲ加フル意思ヲ要スルコトモ亦、既ニ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ説明セス

以上ノ條件具備シタルトキハ無期懲役ニ處ス可キモノトス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役

ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル不敬ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第一百十九條「皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上、四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上、百圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ法文ヲ改メタルモノニシテ其立法趣旨ハ舊刑法ト同一ナリトス

本罪成立ニハ、第一皇族ニ對シ奉ルコト、第二不敬ノ所爲アルコトノ二條件アルヲ要ス

本條ハ唯タ其御身分ヲ異ニスルニ止マリ第七十四條ト同一ナルヲ以テ再論セス

餘論

茲ニ一言、注意ス可キ問題アリ本章ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シテモ第一編、第四章刑ノ執行猶豫、第五章假出獄、第六章時効、第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、第八章未遂罪等幾多ノ規定ヲ適用ス可キモノナルヤ否ヤ是ナリ、此點ニ就テハ舊刑法上ニ於テモ既ニ議論ノアリタル所ナルモ特ニ明文ヲ以テ除外セサル以上ハ一般犯罪ト等シク適用ス可キモノナリト信ス

第二章 内亂ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第二章、第一節ノ規定ヲ改廢修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ第二章ヲ國事ニ關スル罪ト題シ更ニ之ヲ内亂罪ト外患罪トニ區別シタルモ元來、此二罪ハ全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ同一章ニ規定スルハ分類ノ當ヲ得タルモノニ非ラス如何トナレハ國事ニ關スル罪ハ主トシテ内國ニ於ケル暴動ヲ意味ス之ニ反シテ外患罪ハ主トシテ我帝國ヲ侵害セントスル外敵行爲ヲ謂フモノトス故ニ異ニ國家ヲ憂ヒ時ノ政府ヲ攻撃スル内亂罪ト曰ヲ

同フシテ論ス可キモノニ非ラス殊ニ外患罪ハ我君恩ニ浴シ外敵ト俱ニ我帝國ニ仇スル大逆無道ノ大罪ニシテ天、人共ニ赦ス可カラサル罪ナリ故ニ本法ニ於テハ之レヲ別章ニ規定スルコトト爲シタリ

二、國家ニ對スル犯罪ハ之ヲ區別シテ二種ト爲スコトヲ得可シ、一ヲ内亂罪ト云ヒ、一ヲ外患罪ト云フ國家ハ之ヲ主觀的ニ觀察スレハ一定ノ土地人民ヨリ成立シ一定ノ主權者之ヲ統治スル團體ヲ謂フモノトス又之ヲ客觀的ニ觀察スレハ國家ハ統治權ノ主體ナリト云フ可シ而シテ前者ニ起ル攻撃ハ國家内部ニ對スルモノナルヲ以テ内亂罪ト稱シ後者ハ國家外部ヨリ我統治權ノ主體ニ對スル攻撃ナルヲ以テ是ヲ外患罪ト稱ス即チ本章ハ内亂罪ヲ規定シ次章ハ外患罪ヲ規定シタルモノナリ三、本章規定ノ内亂罪ハ國家ノ存立ヲ危殆ナラシムルコトヲ目的トスル犯罪ニシテ其危險之ヨリ太甚シキハナク極メテ重大ナル罪ナリ然レトモ之ヲ企ツル者ヨリ觀察スレハ敢テ自家一身ノ利益ヲ目的トスルモノニ非ス故ニ國事犯ノ刑罰ハ常事犯ト異ナリ自由ヲ拘束スルニ止マルコトハ各國立法例ノ一定スル所ナルヲ以テ本法モ亦舊刑法ト等シク禁錮刑ヲ科スルコトト爲シタリ其詳細ハ既ニ第一編ニ於テ論シタルヲ以テ再說セス

本章ハ(一)内亂罪(二)内亂ノ豫備陰謀罪(三)及ヒ内亂ノ幫助罪ヲ規定シタルモノナリ

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他軍ニ暴動ニ干與シタル者ハ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ内亂罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第二百一十一條「政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス」一、首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス二、群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス三、兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス四、教唆ニ乘シテ

附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上、五年以下ノ輕禁錮ニ處ストノ法文第一項中左ノ數點ヲ修正シタルモノナリ

- 一、其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トナシ内亂ヲ起シタルモノ云々ト規定シタルモ斯レハ戰爭開始ノ場合ノミヲ意味スルノ嫌アルヲ以テ本法ハ之ヲ「暴動ヲ起シタル者」ト改メ未タ戰爭開始ニ至ラサル場合ニ於テモ仍ホ多衆合同シテ暴動ヲ爲シタルトキハ最早、本罪成立スルモノト爲シ内亂ノ意義ヲ擴張スルコトト爲シタリ
- 二、第一號「首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス」ト規定シタルモ教唆者ハ第一編共犯ノ規定ヲ適用シテ正犯ニ準スヘキモノナルヲ以テ殊更、茲ニ規定スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ單ニ「首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス」ト改メタリ

- 三、第二號群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ云々ト規定シタルモ其樞要ノ意義漠トシテ如何ナル事カ樞要ナルカ疑ナキニアラサルヲ以テ本法ハ「謀議ニ參與シ」ト改メ樞要ナル職務中主謀的合議ニ干與シタル者ノミト爲シ其據ル可キ標準ヲ明瞭ナラシメタリ
- 四、同號中「又ハ」以下ノ規定ハ本條第二號「謀議ニ參與シ」ノ下文ト其意義同一ニシテ第三號「兵器金穀」ノ一句ハ別條ニ讓リ「又ハ」以下ノ規定ハ本條第二號、末段ニ移シ第四號「教唆ニ乘シテ」

ハ之ヲ削リタルモ其他ハ本條第三號ト其意義全ク同一ナリ

以上ハ本條改正要旨ナルモ其立法趣旨ニ至テハ舊刑法ト殆ト異ナルコトナシ

本罪成立ニハ、第一朝憲紊亂ヲ目的トナスコト、第二暴動ヲ起シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、朝憲紊亂ヲ目的ト爲シタルコトヲ要ス

本條第一項ニ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシ云々ト規定シタルニ依リ政府顛覆邦土僭竊ハ朝憲紊亂以外ノ行爲ナルノ觀ナキニ非スト雖モ此二者共ニ朝憲紊亂ノ重ナル例示ニ過キス是舊刑法上ニ於テモ學說、一定シタル所ナリ然レトモ此朝憲紊亂トハ如何ナル意義ナルカノ問題ニ至テハ未ダ嘗テ適切ナル解釋アルヲ看ス本條ニ所謂、朝憲紊亂トハ我帝國憲法ニ規定シタル事項ヲ破壞又ハ變更スルコトヲ目的ト爲シタル暴動ヲ總稱シタルモノナリ故ニ憲法第一條、第二條ニ規定シタル統治ノ大權、皇位ノ廢立、其他大權事項又ハ立法、司法、行政、各機關ノ組織ノ變更若クハ臣民ニ關スル權利、義務ノ存廢、變更等ヲ目的ト爲シ多數合同ノ武力ニ訴ヘタル所爲又ハ我帝國領土ノ一部ニ割據シテ獨立ヲ企ツルカ如キ或ハ現政府ヲ顛覆シテ自ラ施政ノ大權ヲ握ラントシテ暴動ヲ起シタルトキハ内亂罪タルコト何人モ疑ハサル所ナリ此等立法(帝國議會)司法、行政、各部ニ關スル組織ノ變更、存廢或ハ兵役、納稅義務ノ免脫等ヲ目

的トシテ暴動ヲ起シタル場合ノ如キモ皆内亂罪ニシテ朝憲紊亂ヲ目的ト爲シタルモノナリ

從來、此國事犯ニ就テハ學者間、其見解ヲ異ニシ殆ト揆一スル所ナキ至難ノ問題ナリ學者或ハ定義ヲ下シテ曰ク國事犯トハ國家ノ政治的秩序ヲ破壞變更又ハ攪亂スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト又曰ク、國事犯トハ國家ノ自斷權ヲ侵害スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト又曰ク國事犯トハ國家ノ政治的秩序若クハ組織ヲ變更スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト是等ノ定義ハ孰レモ國事犯其モノノ目的ニ就テハ之ヲ言明シテ遺憾ナシト雖モ未ダ以テ完全ナリト云フコトヲ得ス如何トナレハ第一說ノ如キハ單ニ國事犯トハ國家ノ政治的秩序ヲ破壞變更シ又ハ攪亂スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト云フニ止マルヲ以テ其方法手段ハ之ヲ問ハサルニ似タリ果シテ然ラハ茲ニ一論客アリ若シ國家ノ政治的秩序ヲ破壞變更又ハ攪亂スルコトヲ目的トシテ盛ニ新聞又ハ演說等ニ因リ公言シタリトセハ是ヲ以テ直ニ國事犯ナリト云フ可キ乎(集會政社法、其他ノ法令ニ違犯スルコトアルハ格別)未ダ以テ本章、國事犯ナリト云フコトヲ得ス又此說ニ由レハ國家ノ政治的、秩序ヲ破壞、變更又ハ攪亂スルコトヲ目的トシテ強奪殺人ノ所爲アリタルトキノ如キモ仍ホ國事犯ナリト謂ハサル可ラス如何トナレハ其人ヲ殺シ財物ヲ強奪スルハ國家ノ政治的、秩序ヲ破壞、變更又ハ攪亂スルノ目的ニ出ツルモノナレハナリ然リト雖モ堂々タル一國、豈、夫レ一人、一個ノ左右シ

得ル所ナランヤ是余カ其方法、手段ヲ言明セサル定義ハ不完全ナリト云フ所以ナリ殊ニ第二説ノ國事犯トハ國家ノ自斷權ヲ侵害スルコトヲ目的トスル犯罪ナリト云フニ至テハ殆ント其意義ヲ解スル能ハス若シ夫レ此自斷權トハ國家ノ命令權ナリト解釋スレハ法令、違反ノ所爲ハ總テ國事犯ナリト謂ハサル可ラス如何トナレハ國家命令權ノ發動ニ基ク法令違反ノ所爲ハ取リモ直サス國家ノ自斷權ヲ侵害スルモノナルヲ以テナリ故ニ此定義モ亦完全ナリト云フヲ得ス

余ハ國事犯トハ一國主權ニ服従スル臣民多數ノ合同力ニ因リ國家ノ組織又ハ存立ヲ破壞變更スルコトヲ目的トスル武力的暴動ヲ謂フト定義セントス即チ我刑法上ニ於ケル内亂罪トハ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他、朝憲紊亂ヲ目的トスル暴動ヲ謂フ換言スレハ本法ニ於ケル内亂罪トハ國土ノ橫領又ハ憲法ノ變更ヲ目的トスル暴動ヲ云フモノトス而シテ暴動ヲ起ス目的政體ノ變更又ハ皇統ノ廢立ニ在ルトキハ本條ニ所謂政府顛覆ニ該當シ國土ヲ橫領スルニ在ルトキハ法文邦土僭竊ニ該當スルモノニシテ其他不法ニ憲法上ノ規定ヲ變更セントスルトキハ本章内亂罪ナリトス然レトモ其手段方法ハ必ス武力的暴動ニ因ルコトヲ要スルモノナリ而シテ本章ニ所謂暴動トハ多數合同力ニ因ル不法ノ腕力又ハ脅迫ヲ謂フモノトス

第二、暴動ヲ起シタルコトヲ要ス

本罪ノ目的ハ既ニ論シタル如ク武力ニ訴ヘ我憲法ニ規定スル事項ヲ蹂躪セントスル國家的犯罪ナルヲ以テ一人、二人ノ到底企テ及フ所ニ非ス必ス多數合同ノ勢力ニ由テ以テ國家ヲ騷亂セシムルノ所爲アルコトヲ要ス故ニ本條、規定ノ如ク首魁タル首謀者、及ヒ之カ主謀ニ參與シタル者、又ハ群衆ヲ指揮シタル者、其他、隨行シテ勢力ヲ助クル兵卒的行爲ヲ爲ス者等、多數ノ人員ヨリ組織スルヲ要ス然レトモ是等多數ノ人員必スシモ皆、軍事的訓練アル士官若クハ兵卒ナルヲ要セス如何ナル者ト雖モ我帝國陸海軍ニ對抗シテ兵火ヲ交ユルニ足ル可キ準備アル集合タルトキハ本罪ノ主體タルコトヲ得ルモノナリ然リト雖モ多數人民合同シテ我警察權ニ抵抗スルコトアルモ未タ是等ノ所爲ハ本條ニ所謂内亂罪ナリト云フヲ得ス近キハ東京日比谷事件及ヒ彼ノ足尾銅山暴動事件ノ如キ或ハ古來、往々行ハレタル竹鎗的、暴動等ハ未タ以テ國家ヲ騷亂スル内亂ト爲スニ足ラサル地方的暴動ナリ、左レハ彼ノ西南戰爭ノ如キハ本條國事犯ノ好適例ナリ

本罪成立ニハ第一、第二ノ條件ニ於テ述ヘタル如ク政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スル目的ヲ以テ多數合同ノ武力ニ訴ヘ其目的ヲ達セントスル意思アルヲ要スルカ故ニ假令、多數合同シテ如何ナル暴動ヲ爲スモ若シ其目的、朝憲紊亂ニアラサルトキハ(騷擾罪タルコトアルモ)本章内亂罪ナリト謂フコトヲ得ス

以上ノ三條件具備スルトキハ(一)首魁ハ死刑又ハ無期禁錮(二)其謀議ニ參與シタル者及ヒ群衆ヲ指揮シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮(三)其他暴動ニ要スル諸般ノ役務ニ從事シタル者ハ其情狀ニ從ヒ一年以上十年以下ノ禁錮(四)唯單ニ附和隨行シテ暴動ニ干與シタルニ止マル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス可キモノトス

本罪ハ其性質上、多數犯人ヨリ成立スル犯罪ナルヲ以テ總則共犯例ニ因リ孰レモ實行正犯トシテ處分ス可キモノニ似タリト雖モ其暴動ニ干與シタル役務ニ從ヒ情狀ニ至テモ自ラ輕重ナキニアラサルヲ以テ刑罰モ亦、多少差異ナキヲ得ス是本條役務ノ階級ニ因リ刑罰ヲ區別シタル所以ナリ

蓋シ本條第一號又ハ二號ニ據リ論ス可キモノナルヤ將タ第三號ニ據テ罰ス可キモノナルヤハ事實ノ問題ニ屬スルヲ以テ裁判所ノ認定ス可キモノトス

本條末項ニ「未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス」ト規定シタルハ犯罪自體カ國家ノ存廢ニ關スル最モ危險ナル罪ナルヲ以テ其未遂ノ時ニ之ヲ罰シ事ヲ未發ニ豫防スルノ趣旨ニ出テタルモノナリ

然ラハ本條、内亂罪ハ如何ナル程度ニ至リタルトキヲ未遂罪ト爲ス可キモノナルヤ是一個ノ問題ナリト雖モ要スルニ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭稱シ其他、朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ兵器ヲ備ヘ隊伍ヲ組

織シ其他、暴動ニ必要ナル準備行爲ヲ爲シ將ニ暴動ニ著手セントシタル時ハ本條、未遂罪ノ成立時期ナリトス

但此未遂罪ハ總テノ共犯人ヲ罰スルモノニ非ス本條三號ノ附和隨行其他單ニ暴動ニ干與シタルニ止マル附和雷同的從犯者ハ之ヲ罰セス第一號、第二號ニ規定シタル重要ナル地位ニアル者ノミニ限り罰スルモノトス是本條末項但書ノ規定アル所以ナリ

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ内亂罪ノ豫備陰謀ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第百二十五條ノ「兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス」トノ規定ト殆ント同一ニシテ前條、規定ノ内亂罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ唯、舊刑法ト異ル點ハ「兵隊ヲ招募シ又ハ兵器、金穀ヲ準備シ」云々トノ例示ヲ爲ササルニ在ルノミ

本條豫備トハ内亂主謀者カ兵隊ヲ募集シ或ハ兵器金穀等ヲ準備シ其他戰鬪行爲ニ必要ナル準備ヲ爲シタルコトヲ謂フモノトス換言スレハ内亂罪陰謀ノ一步ヲ進メタル場合ヲ云フモノナリ又陰謀トハ

内亂罪ノ豫備ニ至ラサル前即チ主謀者カ二人以上内亂企謀ノ計畫ニ關スル謀議ヲ爲シタルコトヲ謂フモノトス故ニ本罪ハ唯、單ニ希望ニ止マラス、既ニ二人以上共ニ謀議畫策シテ其犯意ヲ外部ニ發表シタルコトヲ要スルモノトス而シテ豫備陰謀ヲ特ニ罰スル所以ノモノハ屢々、論シタル如ク其所爲、自體ニ於テ既ニ重大ナルヲ以テ事ヲ未發ニ罰シテ防止セントスルニ在リ然レトモ豫備陰謀ニ止マルトキハ未タ社會ニ何等ノ實害ヲモ生ゼシメタルモノニアラサルニ因リ既遂罪ヨリ其情大ニ恕ス可キ所ナキニ非ス是本條一年以上十年以下ノ禁錮ニ處スト規定シタル所以ナリ

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ舊刑法、第二百一十一條第三號ノ一部ト第二百二十七條ヲ併合シテ内亂罪ノ從犯的幫助罪ヲ規定シタルモノナリ

内亂罪又ハ其他ノ豫備陰謀ナルコトヲ知テ(兵器、金穀銃砲彈藥等)又ハ其他ノ行爲(集合所兵器ノ製造所船舶等戰爭ニ必要ナル物件ヲ資給シ)ヲ以テ内亂罪ヲ幫助シ便利ヲ與ヘタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス可キコトヲ規定シタルモノトス本條ハ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

唯茲ニ疑ノ存スルハ本條ニ所謂、幫助者ハ總則共犯ノ特例ナルヤ否ヤノ問題はレナリ則チ第一編

第六十二條ニ「正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トスト」トノ規定アルヲ以テ本條ノ場合ニ於テモ仍ホ之ヲ適用シテ毫モ支障ナキニ似タリ然ルニ本條特ニ「兵器金穀ヲ資給シ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ」云々ト規定シ其重モナル例ヲ掲ケタルハ總則從例ニ據ラサル立法趣旨ナリトス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ

其刑ヲ免除ス

本條ハ舊刑法第百二十六條「内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シテ六月以上三年以下ノ監視ニ付スト」ト規定シタル法文ヲ修正シタルモノナリ

本條ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ企テ若クハ是等ノ情ヲ知テ兵器、金穀ヲ資給シ或ハ其他ノ行爲ヲ以テ内亂罪ヲ幫助シタル者其暴動ニ著手セサル以前、官ニ自首シタルトキハ其刑ヲ全免シテ大事ヲ未發ニ防ク政略上ノ特典ナリ但此自首ニ要スル條件如何ハ既ニ第一編、第七章、第四十二條ニ於テ詳論シタルヲ以テ再說セス

唯、同條規定ト異ナル點ハ一般、自首者ハ減刑セラルルニ止マルモ本條、自首ハ其刑ヲ全免スルモ

ハト、是是特ニ規定シタル所以ナリ

第三章 外患ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ舉グレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ此外患ニ關スル罪ヲ國事ニ關スル罪ノ一節中ニ規定シタルニ因リ其當否ニ就キ頗ル議論在リタル所ナルヲ以テ本法ハ多數ノ學說並ニ立法例ニ倣ヒ別章トシテ之ヲ規定スルニ至レリ
- 二、本章ハ主トシテ戰時ニ於ケル我帝國、軍事上ノ利益ヲ保護スルコトヲ其目的ト爲シ舊法ノ不備關點ヲ補充シ以テ遺漏ナカラシメタルモノナリ
- 三、舊刑法第三百三十三條及第三百三十四條ハ外患ニ關スル罪ト云フヨリ寧ロ國交ニ關スル犯罪ナルヲ以テ本法ハ國交ニ關スル罪ノ章下ニ之ヲ移シタリ
- 四、本章ノ罪ハ事重大ニシテ且ツ其危險モ亦前章國事犯ト異ナラサルニ因リ其未遂罪ノミナラス豫備及ヒ陰謀ヲモ仍ホ之ヲ罰スルコトトナシタリ

茲ニ一、二ノ注意ス可キコトアリ即チ(一)刑法ト軍律トノ關係(二)敵國ノ意義(三)戰時ト平時トノ分界即チ是ナリ

(一) 刑法ト軍律トノ關係

本章ニ規定スル所爲ニシテ或ハ軍律ノ支配ヲ受クル事アリ本章第八十二條第一項第二項及ヒ第八十六條ノ所爲ハ軍律ニ於テモ亦之ヲ罰スル明文アリ(法文多少異ナルモ其旨趣ニ於テハ同一ナリ)即チ常人ト雖モ敵前若クハ軍中又ハ臨戰合圍地ニ在リテ之ヲ犯シタルトキハ軍律ヲ以テ支配シ若シ本法ニ規定アリテ軍律ニ規定ナキ罪ハ軍人軍屬ト雖モ本法ヲ適用シ軍律ニ規定アリテ本法ニ規定ナキモノハ常人ニ對シテモ仍ホ軍律ニ從ヒ處斷スルモノトス

(二) 敵國ノ意義

本法第八十一條乃至第八十五條ニ敵國ノ語アリ此敵國トハ如何ナル意義ヲ有スルヤ惟フニ國際公法上國家ト國家トノ戰爭ハ通常平和的手段即チ新條約ノ締結第三國ノ仲裁等ニ依リテ紛議ノ解ケサル時ニ方リ開始スルモノナリ但時ニ或ハ平和的手段ト戰爭トノ中間ニ國際法上ノ暴力ナルモノアリ(即チ報復、報仇、平時、封鎖、第三國ノ干涉等是ナリ)故ニ法文ニ所謂、敵國トハ是等戰爭ニ至ラサル暴力ヲモ仍ホ包含スルモノナルヤ將タ國際公法上ノ純然タル戰爭ノミヲ指スモノナ

ル乎換言スレハ敵國トハ總テ日本帝國カ戰ヲ宣シタル外國又ハ外國軍隊ノミヲ謂ヒ平時暴力ノ如キ開戰ニ至ラサルモノハ之ヲ包含セサル乎本章ハ外患ニ關スル罪ト題シ第八十一條ニ戰端ト規定シ又同法條ニ敵國トアルニ徴スルモ我帝國ト外國又ハ外國軍隊トノ間ニ國際公法上ノ所謂戰爭開始シタル場合ヲ謂フモノトス蓋シ刑法上、如何ナル場合ヲ我帝國ノ敵國ニシテ又戰爭ナルカハ國際公法上ノ原則ニ因テ決ス可キモノナリ故ニ國際紛議ヲ生シタルトキ外國ノ辭柄如何ニ不當不理ナルモ如何ニ戰爭開始ノ止ム可ラサル狀況、顯著ナルモ我帝國カ其外國若クハ外國軍隊ト國際法上戰爭ト認ム可キ事實ノ開始セサル間ハ未タ以テ敵國ト云フコトヲ得ス去レハ國際紛議ニ就キ國際談判、調停、仲裁其他ノ平和的、手段破レ更ニ進ンテ報復、報仇、平時封鎖等ノ抵抗ヲ爲スニ至ルモ仍ホ敵國ニ非ス殊ニ報復、報仇若クハ平時封鎖ノ如キ行爲ハ往々戰爭ニ至ラスシテ止ムコトナキニアラス故ニ刑法上敵國トハ我日本帝國ト國際法上ノ戰爭開始ノ場合ヲ意味スルモノトス

(三) 戰時ト平時トノ分界

第八十一條乃至第八十九條ニ規定スル行爲ハ平時ニ在リテハ他ノ罪ト成ルハ格別、外患罪トシテ本章各本條ヲ適用スルコトヲ得ス故ニ戰時ト平時トノ分界ヲ定ムルコト最モ緊要ナリトス

凡ソ國家ト國家トノ間ニ一ノ紛争ヲ生シタルトキハ新條約ノ締結又ハ第三國ノ仲裁等ニ依テ干戈ヲ交ヘルニ至ラス落著スルコトアリ若シ此ノ如キ平和的、手段ニ依テ無事ニ落著セサル時ハ竟ニ戰端ヲ開クニ至ルモノトス而シテ戰爭開始ノ場合ニ於テハ敵國ニ通知シ同時ニ國民ニ布告スルヲ以テ通例ト爲スモ其通知若クハ布告前既ニ國際公法上ヨリ觀察シテ抗敵行爲アリタルトキハ其抗敵行爲アリタル時ヨリ開戰ト看做シ又宣戰ノ布告若クハ通知ノアリタルトキハ其宣戰公布若クハ通知ノ日ヨリ開戰ト看做ス可キモノトス故ニ本法ノ適用上ニ付テハ宣戰公布ノ有無ニ關セス國際公法上ノ原則ニ照シ裁判所ハ開戰時期ヲ定ムルコトヲ得可シ然レトモ本章規定ノ犯罪ハ戰時ヲ以テ犯罪成立條件ト爲シ其影響スル所、極メテ重大ナルヲ以テ最モ慎重ナル注意ヲ要スルナリ

本章ハ(一)外國ト通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪(二)敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪(三)要塞陣營軍隊艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪(四)兵器彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル罪(五)敵國ヲ利スル爲メ軍用物件ヲ損壞シ又ハ使用不能ニ至ラシメタル罪(六)帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他直接ニ戰闘ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル罪(七)敵國ノ間諜ヲ爲シタル罪(八)敵國ノ間諜ヲ幫助シタル罪(九)軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル罪(十)其他敵國軍事上ニ利益ヲ與ヘ又ハ帝國軍事上ノ利益ヲ害シタル罪(十一)其未遂罪及ヒ豫備陰謀罪等ヲ規定シタル

モノナリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ

帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ外國ト通謀シ我帝國ト戰端ヲ開カシ、又ハ敵國ニ與シ我帝國ニ抗敵シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百二十九條ヲ修正シテ第三百三十條前段ノ一部ヲ加ヘタルモノナリ舊刑法ハ外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムル場合ヲ闕キタルニ依リ本法ハ之ヲ補ヒタルモノナリ

本條ハ(一)外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪(二)敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪ヲ規定シタルヲ以テ之ヲ區別シテ論セントス

(一) 外國ト通謀シテ外國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪

本罪成立ニハ、第一外國ト通謀シタルコト、第二帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、外國ト通謀シタルコトヲ要ス

如何ナル所爲アレハ以テ外國ニ通謀シタリト謂フ可キ乎ハ事實ノ問題ナリト雖モ要スルニ通謀ト

ハ二人以上ノ間ニ一定ノ罪ヲ犯ス意思ノ交通シタル状態ヲ謂フモノトス

例ヘハ日本臣民ニシテ外國ニ對シ日本ト戰端ヲ開カシムル目的ヲ以テ之ニ必要ナル諸般ノ協議ヲ爲スカ如キコトハ即チ本條ニ所謂、通謀ノ一例ナリ

第二、帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコトヲ要ス

法文戰端ヲ開カシメト云ヒ、戰端ヲ開クニ至ラシメト云ハサルヲ以テ少ナクトモ實際、外國ガ我日本帝國ニ對シ國際公法上ノ所謂、戰爭行為ヲ開始シタルヲ要ス故ニ未ダ開戦ニ至ラサルトキハ縱令、他ノ條件ヲ具備スルモ本罪ノ既遂罪ト云フコトヲ得ス而シテ本罪モ外國ニ通謀シ我帝國ト戰端ヲ開カシムルノ故意アルヲ要スルモノナリ故ニ止タ我帝國ニ對シ軍事上ノ不利益ヲ與ヘ又ハ外國ニ軍事上ノ利益ヲ與フルノ意思アリタルニ止マルカ如キ場合ハ第八十六條ノ本罪タルコトアルハ格別、本條ヲ以テ論ス可キモノニ非ス

(二) 敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪

本罪成立ニハ、第一敵國ニ與シタルコト、第二帝國ニ抗敵シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、敵國ニ與シタルコトヲ要ス

敵國ニ與シタルコトハ我帝國ニ於テ宣戰ヲ公布スルカ又ハ戰爭ト認ム可キ事實アリタル後敵國

戰鬪力ニ加ハリタル所爲ヲ謂フ故ニ開戰前例ヘハ外國カ我日本帝國ニ對シ戰爭ニ至ラサル暴力即チ報復、報仇等ノ抵抗ヲ爲ス時ニ方リ其外國ニ與シテ帝國ニ抵抗シタル者ノ如キハ本條ニ所謂、敵國ニ與シタルモノト云フコトヲ得ス故ニ此種ノ所爲ハ本條規定ノ範圍外ナリ然ラハ如何ナル所爲アル時ハ敵國ニ與シタリト云フコトヲ得ル乎、法文上何等ノ看ル可キモノナシト雖モ敵國ノ軍籍ニ入りタルトキ又ハ好シテ敵國軍艦ニ乗込ミタル等ノ場合ノ如キハ其一例ナリ

茲ニ一ノ注意ス可キコトハ外國ニ與シタル事實アルモ我帝國ニ抗敵ノ所爲ナキトキハ第八十六條ノ罪ト成ルコトアルモ未タ本條ニ問フコトヲ得ス如何トナレハ本條ハ敵國トアルヲ以テ必ス開戰後ニ係ル行爲タルコトヲ要スレハナリ

第二、帝國ニ抗敵シタルコトヲ要ス

抗敵トハ何ソヤ要スルニ公然戰鬪行爲ヲ以テ我帝國ヲ代表スル戰鬪力ニ抵抗スル所爲ヲ謂フニアリ茲ニ一疑問アリ即チ抗敵所爲アリトハ實際ニ戰鬪行爲ニ加ハリタルヲ要スル乎或ハ唯タ戰鬪ノ意思ヲ以テ敵國軍隊ニ投シタル事實アルヲ以テ足ル乎解釋上敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル事實アルニ止マルトキハ本罪ノ未遂ナリ左レハ其與スル外國軍隊カ我日本帝國ノ敵國ナルコトヲ知リテ我帝國ニ對スル抗敵行爲ヲ爲スノ意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)罪ノ既遂罪ハ執レモ(二)死刑ニ處ス可キモノトス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ

敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲

役ニ處ス

本條ハ我帝國陸海軍、軍用物件ヲ敵國ニ交付シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第三百十條後段以下ノ規定ニ修正ヲ加ヘ是ヲ二項ニ分チタルモノナリ而シテ第一項ハ要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建物等其交付ノ目的物、比較的、重要ナル場合ヲ規定シ第二項ハ其他軍用ニ供スル物件ヲ交付シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ(一)要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪(二)兵器彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪
本條第一項ノ罪ハ、第一我帝國ノ軍用ニ供スル要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ

建造物タルコト、第二敵國ニ交付シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物タルコトヲ要ス

本條規定ノ要塞、陣營、軍隊、艦船トハ讀テ字ノ如ク明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物トハ練兵所又ハ武器庫、火藥製造所、艦船製造所ノ如キ物ヲ云フニ在リ

第二、敵國ニ交付シタルコトヲ要ス

本條特ニ敵國ニ交付シタル者ト規定シタルヲ以テ我帝國カ外國ト戰爭開始ノ後、其外國ニ對シ本條列舉ノ各軍用ノ土地、建物ヲ賣買讓與其他ノ名義ヲ以テ敵國ニ交付シタルヲ要ス而シテ交付トハ有價又ハ無價ニテ敵國ニ引渡ス所爲ヲ云フコトモ亦、明瞭ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

以上ノ條件具備シタルトキハ死刑ニ處ス可キモノトス

(二) 兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付スル罪

本條第二項ノ罪ハ、第一兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物タルコト、第二敵國ニ交付シタルコトノ二條件アルヲ要スルモ本罪ニ就テハ前罪ニ於テ説明シタル以外ノ軍用品タル兵器、彈藥、金穀被服等ノ物品ヲ云フモノナルヲ以テ別ニ説明セス茲ニ注意ス可キハ本條(一)罪ノ軍用ニ供スル土地、物件ヲ敵國ニ交付スルノ所爲ハ軍律ニ於テモ罪トシテ罰スル明文アリ而シテ軍籍ニ在ル軍人、軍屬之ヲ

犯ストキハ常ニ軍律ヲ適用シ常人ノヲ犯シタルトキハ本法ヲ適用スルヲ原則ト爲シ敵前、軍中臨戰地、合圍地等ニ於テ犯シタルトキハ例外トシテ軍律ヲ適用ス可キコト是ナリ(陸軍刑法及ヒ海軍刑法參照)以上ノ條件具備スルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス可キモノトス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

ト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ敵國ヲ利スル爲メ軍用物件ヲ損壞シ又ハ使用不能ニ至ラシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ本條ニ列舉シタル物ヲ毀壞シ又ハ之ヲ使用スルコト能ハサルシムルカ如キハ實際上、頻繁ニ生ス可キ犯罪ナルヲ以テ刑法上之ヲ規定スルノ必要アリ然ルニ舊刑法ハ是等ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ陸海軍刑法ニ基キ本條ヲ設ケタルモノナリ

本罪成立ニハ、第一敵國ヲ利スル目的ナルコト、第二要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物タルコト、第三損壞若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、敵國ヲ利スル目的ナルコトヲ要ス

本罪ハ我帝國ト戰爭ヲ開始シタル外國ヲ利スル目的ナルコトヲ要スルカ故ニ未タ我國ト戰爭開始セサル外國又ハ外國臣民ニ軍事上ノ利益ヲ與フル爲メ帝國軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用不能タラシムルコトアルモ（其外國又ハ外國人ヲ利スルニアルトキハ）敵國ヲ利スルト云フコトヲ得ナレハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス

第二、要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線、其他軍用ニ供スル場所又ハ物タルコトヲ要ス

本條要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他云々ト規定シタルニ依ルモ軍用ニ供スル場所又ハ物件ヲ例示シタルモノナルヲ以テ此他軍用ニ供スル道路、橋梁、造船所其他ノ物ト雖モ苟モ我帝國軍用ニ供スル場所ハ總テ本條中ニ包含スルモノトス

第三、損壞シ若クハ使用不能ニ至ラシメタルコトヲ要ス

本條損壞トハ物質的ニ破損滅盡セシムル所爲ヲ謂フモノニテ使用スルコト能ハサルニ至ラシメトハ物質的ニ破損セサル使用不能ニ至ラシメタル所爲ヲ謂フニ在リ故ニ本罪ハ犯人、敵國ヲ利スル目的ヲ以テ此等ノ所爲ヲ行フト雖モ未タ其結果、損壞若クハ使用不能ニ至ラサルトキハ本條ノ既遂罪ニ非ス如何トナレハ法文ニ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者云々トアルヲ以テナリ

以上ノ條件具備シタルトキハ（一）死刑又ハ（二）無期懲役ニ處ス可キモノトス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

本條モ亦舊刑法ノ闕如セル所ニシテ帝國ノ軍用ニ供セサル物又ハ直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル場合ニ關スル規定ナリ

本罪成立ニハ、第一帝國ノ軍用ニ供セサル兵器彈藥其他、直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物タルコト、第二 敵國ニ交付シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物タルコトヲ要ス

シタル所ナルモ本條ハ我帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥例ヘハ現時、帝國軍隊ニ於テ採用スル以外ノ兵器、彈藥ノ如キ物其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物例ヘハ物ノ性質上、軍用品トシテ備フル物ニ屬セサルモ一朝、戰端ヲ開ク場合ニ於テハ直接ニ必要ナル物件例ヘハ軍用以外ノ車馬、石炭若クハ糧餉ノ如キ物ヲ交付シタル時ニ成立ス然レトモ如何ナル物カ帝國ノ軍用ニ供セサル兵

器彈藥ニシテ其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ナルヤハ要スルニ事實ノ問題ナリト雖モ其交付ノ目的物、軍用品ニ係ルトキハ第八十二條ニ依リ非軍專用ノ兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ニ係ルトキハ本條ノ規定ヲ適用ス可キモノトス

第二、敵國ニ交付シタルコトヲ要ス

本條敵國トハ交戰中タルコトヲ意味シ交付トハ敵國ニ引渡スコトハ既ニ説明シタル所ナルニ因リ別ニ説明セズ

以上ノ條件具備スルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

本條ハ舊刑法第三百三十一條ヲ修正シタルモノニシテ間諜並ニ機密漏泄ノ罪ヲ規定シタルモノナリ舊刑法ハ間諜方法及ヒ敵國ノ間諜幫助ノ方法等ヲ示シタルモ本法ハ之ヲ刪除シテ概括的ニ規定シタルヲ即チ舊刑法、第三百三十一條ハ軍情機密云々トアリタルモ其意義、稍ヤ不明瞭ノ嫌アリシニ依リ本法ハ本條第二項ヲ以テ明ニ「軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ」ト規定シタリ

本條第一項ハ(一)敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シタル罪(二)敵國ノ間諜ヲ幫助シタル罪ヲ規定シ第二項ハ(三)軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲ス罪

本罪成立ニハ、第一敵國ノ爲メナルコト、第二間諜ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、敵國ノ爲メナルコトヲ要ス

本條敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シタルアルヲ以テ戰時タルヲ要スルコト疑ヲ容レヌ故ニ帝國ト戰争開始セサル外國若クハ帝國ノ敵手國タル外國ニ非サル第三國ノ爲メニ間諜ヲ爲シタルトキハ本條ニ所謂、敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シタル者ト云フコトヲ得ス

然ラハ平時、外國ノ間諜ト成リタル者ハ如何ニ處分ス可キ乎、舊刑法ニ於テモ此點ニ付テハ明文闕如シタル所ニシテ本法ニ於テモ亦法文ノ認ム可キモノナシト雖モ本章ハ主トシテ戰時ニ於ケル帝國軍事上ノ利益ヲ保護スルコトヲ目的ト爲シ戰時ヲ其前提ト爲シタルニ因リ戰争開始セサルトキハ敵國ナルモノナキヲ以テ本問ノ所爲ハ刑法上之ヲ罰ス可キ法條ナシト信ス

第二、間諜ヲ爲シタルコトヲ要ス

本條間諜トハ敵國軍狀ヲ探索報告スル目的ヲ以テ交戰國一方ノ爲メ扮裝シテ自己ノ眞狀ヲ隠シ他

ハ、交戰國一方ニ入込ム者ヲ謂フ而シテ其間諜ハ我帝國臣民ナルト外國人タルトヲ問ハス又其間諜カ探索シテ通知若クハ報告シタルコトノ秘密事項ナルト否トヲ問ハス戰爭地内ニ入込ミ軍事上ノ狀況ヲ探索シタルトキハ本罪成立ス故ニ若シ單ニ戰地ニ入込ミタルニ止マルトキハ本罪ノ未遂罪ナリ而シテ其間諜ト爲リタル者ノ身分、公務員ナルト否ト又敵國ヨリ報酬ヲ受ケ若クハ其約束ヲ爲シタルト否トノ如キハ之ヲ問ハス日露戰爭ノ際露國軍隊ニ捕ハレ軍律ニ處セラレタル横川、沖氏ノ如キハ其好適例ナリ

(二) 敵國ノ間諜ヲ幫助スル罪

本罪成立ニハ、第一敵國ノ間諜タルコト、第二幫助シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、敵國ノ間諜タルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル敵國間諜ノ意氣ニ就テハ(一)罪ニ於テ説明シタルヲ以テ再說セス

第二、幫助シタルコトヲ要ス

間諜幫助トハ間諜ヲ援助シテ便宜ヲ與フル所爲ヲ謂フモノニシテ此敵國間諜幫助者ハ日本人タルト外國人タルトヲ問ハス又幫助ノ方法ニ就テハ法文別ニ明示セサルヲ以テ如何ナル方法ニ依リタルヲ問ハス苟モ敵國ニ便益ヲ與ヘタル事實アル以上ハ本罪成立ス但シ軍人ノ所爲ニ係ルトキハ軍

律ニ依テ處斷ス可キモノナリ(陸海軍刑法參照)而シテ敵國間諜ヲ幫助スル意思ヲ要スルコトハ

説明ヲ要セスシテ明瞭ナリ

(三) 軍事上ノ機密ヲ漏泄スル罪

本罪成立ニハ、第一軍事上ノ機密タルコト、第二敵國ニ漏泄シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、軍事上ノ機密タルコトヲ要ス

本罪成立ニハ帝國軍事上ノ秘密タルコトヲ要スルカ故ニ若シ其事實カ日本帝國ニ於テ既に公然、何人モ知ル可キコトニ屬スルトキハ本條ノ問フ所ニ非ス然ラハ如何ナル事ヲ軍事上ノ機密ト謂フ可キ乎ハ事實上ノ問題ナリト雖モ軍機、軍略例ヘハ兵器製造ノ精練又ハ軍隊ノ編成員數ノ如キ其他攻撃防禦ノ方法等ハ總テ本條軍事上ノ秘密ナリトス

第二、敵國ニ漏泄シタルコトヲ要ス

敵國ニ漏泄スルトハ我帝國軍事上ノ秘密事項ヲ敵國ニ告知スル所爲ヲ謂フ而シテ其告知ノ方法ハ口頭ヲ以テ告知スルト將タ書狀若クハ電報、電話ヲ以テ通告スルトヲ問ハス敵國ニ知ラシメタルトキハ本條漏泄ナリトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)死刑又ハ(二)無期懲役若クハ(三)五年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

本條ハ前五條以外ノ方法ヲ以テ敵國ヲ利シ我帝國ヲ害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第三百二十二條「陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ニ缺乏ヲ致シタルトキハ」云々ト規定シタル場合ノ外總テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ我帝國軍事上ノ利益ヲ害シタル場合ヲ規定シタルモノナリ前數條ハ種々ノ場合ヲ規定シタルモ尙ホ本章規定ノ犯罪ハ國家ノ生存ニ關スル事情容易ナラサル罪ナルヲ以テ概括シテ廣ク各場合ヲ網羅シテ本條ヲ規定シタルモノトス

本條ハ(一)第八十一條乃至第八十五條ニ規定シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘタル罪(二)第八十一條乃至第八十五條ニ規定シタル以外ノ方法ヲ以テ我帝國軍事上ノ利益ヲ害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 本罪成立條件ニ就テハ前五條ニ於テ既ニ説明シタル所ト同一ナルモ唯其異ナル點ハ第八十一條乃至第八十五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘタルコトヲ要スルニア

ラ蓋シ第八十一條乃至第八十五條ニ記載シタル以外ノ方法トハ如何ナルコトヲ指スカハ要スルニ事實ノ問題ナルヲ以テ裁判所ノ認定スヘキ範圍ニ屬スルモノナリ

(二) 我帝國軍事上ノ利益ヲ害シタル罪モ亦第八十一條乃至第八十五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與フル行爲ノ結果ハ同時ニ帝國軍事上ノ利益ヲ害スルコトアルモ未タ必スシモ否ラサル場合ナキニアラサルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケタルモノナリ

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ前六條ノ罪ニ付テハ其未遂罪ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

抑モ未遂罪ハ犯人既ニ犯罪ノ實行ニ着手シタルモ未タ豫期シタル目的ヲ遂ケサルトキニ成立スルモノナルヲ以テ通常責任ノ免除又ハ減輕ノ理由ト成ルモノトス(第一編第八章參照)

而シテ本條ニ前六條ノ未遂罪トハ(一)外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシムル罪(二)外國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪(三)要塞、陣營、軍隊、艦船、其他軍用ニ供スル場所、又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪(四)兵器、其他軍用ニ供スル場所又ハ物件ヲ毀壞又ハ使用不能ニ至ラシメタル罪(五)軍用ニ供セサル兵器、彈藥、其他直接戰闘ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル罪(六)敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シタル罪(七)敵國ノ間諜ヲ幫助シタル罪(八)帝國、軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル罪(九)以上、列舉以

外ノ方法ヲ以テ敵ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘタル罪及ヒ帝國、軍事上ノ利益ヲ害シタル罪等ノ未遂罪ヲ云フモノニシテ以上、各罪ハ孰レモ其未遂ノ所爲ヲ罰スルモノトス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ本章ノ罪ハ事態、重大ナルヲ以テ其豫備、陰謀ヲモ仍ホ處罰スルコトヲ規定シタルモノナリ
本條前段ハ犯罪ノ豫備ニ關シ後段ハ犯罪ノ陰謀ニ關スル規定ナリ蓋シ犯罪ノ豫備ハ通常之ヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲ス(第一編第四十三條)舊刑法ハ其第一百一一條ヲ以テ犯罪實行ニ著手セサル以前ノ行爲ハ之ヲ罰セサルヲ通例ト爲シタルヲ以テ本法モ亦舊刑法ト同シク犯罪ノ豫備ハ之ヲ罰セサルヲ以テ原則ト爲シタリ然リト雖モ此原則ハ絕對的ニ非ス若シ犯罪ノ性質、本章ノ如ク國家ノ生存ニ關スル事態、重大ナルトキハ豫備ノ所爲ト雖モ尙ホ之ヲ罰シ大罪ヲ未遂ニ防止スルノ必要アリ是本條ヲ設ケタル所以ナリ

豫備ノ意義ニ就テハ第一編、總則ニ於テ既ニ詳論シタルヲ以テ復タ論セス

本條、後段陰謀モ亦通常罰セサルヲ以テ原則ト爲ス其之ヲ罰セサル理由ハ豫備ヲ罰セサルト同一ナルニ依リ茲ニ論セサルモ犯罪ノ陰謀トハ如何ナルコトヲ言フカニ就テ一言セントス犯罪ノ陰謀トハ一定ノ罪惡ヲ計畫シ二人以上竊カニ之ヲ決議シタル狀態ヲ謂フモノトス故ニ陰謀ノ成立ニモ三條件アルヲ要ス

第一、一定ノ罪ヲ犯サントスルノ決心アルコト即チ犯意ノ確定シタルコトヲ要ス、第二二人以上タルコトヲ要ス自己、單獨ニ犯罪ヲ計畫シテ決心シタルモ是ヲ他人ニ告ケサル間ハ自己ノ希望タルニ過キサルヲ以テ未タ以テ陰謀アリト云フヲ得ス、第三二人以上ノ間ニ議決シタルコトヲ要ス故ニ唯タ他人ニ向テ自己ノ決心ヲ吐露シタルモ他人之ニ同意セザリシトキハ陰謀罪、成立セス故ニ陰謀トハ二人以上ノ間ニ一定ノ犯罪ニ就キ秘密計畫ヲ議定シ將サニ之ヲ事實ト爲サントスルノ決心ヲ云フモノニシテ刑法ハ此二人以上ノ間ニ成立シタル決心ヲ罰スルモノトス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

本條ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ付テモ亦本章ヲ適用ス可キコトヲ規定シタルモノナリ
本條ハ舊刑法、第二百二十九條「外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ」云々同
第三百十條「交戰中敵國ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都城要塞又ハ兵器、彈藥、艦船其他軍用ニ關スル土地、家屋、物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ」云々トノ規定中同盟國ニ關スル部分ヲ一括シテ本條ヲ設ケタルモノナリ其立法上ノ趣旨ハ舊刑法ト異ナルコトナシ

前數條ハ帝國ニ對スル規定ナルモ我同盟國ニ對スル行爲モ亦其利害上、我帝國ニ對スルト同一ナルヲ以テ特ニ本條ヲ規定シタルモノナリ抑モ國家ハ自存ノ目的ヲ達スル爲メニ外國ト結合スルコトアリ此結合ニ二種アリ一ヲ國際公法上ノ同盟、一ヲ國家間ノ聯合是ナリ而シテ本條ニ所謂、同盟トハ二以上ノ國家カ條約ニ因リ共同利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ互ニ義務ヲ負フ關係ヲ謂フモノトス蓋シ此關係カ戰時ナル時ハ戰時同盟ト云ヒ平時ナル時ハ平時同盟ト云フ即チ平時同盟トハ日英同盟ノ如キ是ナリ戰時同盟トハ條約ニ依リ我帝國ト敵ヲ同フシテ共ニ戰爭行爲ヲ爲ス外國ヲ云フニ外ナラス然レトモ茲ニ一ノ疑問アリ所謂、戰時同盟國トハ我帝國ト敵ヲ同フシテ戰フ外國ヲ云フモノナル乎或ハ戰時同盟國ノ條約ヲ締結シタル外國ノミヲ云フモノナル乎ノ問題はナリ本條別ニ何等ノ制限ナキヲ以テ余ハ外國ト戰爭ヲ開始シタル場合ニ於テハ我帝國カ事實上、他國ト同盟シタルモノト看做シ本章ヲ適用スルコトヲ得可シト信ス

第四章 國交ニ關スル罪

總論

本章ハ改正刑法ノ創設ニ係ル規定ニシテ第九十條以下第九十四條ニ至ル五ヶ條ヨリ成立シ其規定ス

ル所ハ(一)帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル暴行又ハ脅迫罪(二)是等ノ者ニ對スル侮辱罪(三)帝國ニ派遣セラレタル外國使節ニ對スル暴行又ハ脅迫罪(四)是等ノ者ニ對スル侮辱罪(五)外國ヲ侮辱スル罪(六)外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル罪(七)外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令違背ノ罪等はナリ

本章各罪、成立ニ關スル條件及ヒ刑罰ヲ説明スル前ニ當リ本章立法趣旨ヲ略述セントス

近世國際交通ノ發達ト共ニ我國ニ於テモ國交ニ關スル罪ヲ規定スルノ必要ニ迫ラレタリ而シテ其國交ニ關スル罪トハ、第一外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス罪、第二我國ノ局外中立命令ニ違背スル罪、第三外國ノ君主若クハ大統領又ハ使節ニ對シテ暴行又ハ脅迫若クハ侮辱ヲ加フル罪等はナリ

此等ノ罪ハ國際上ノ和親ヲ保チ平和ノ交通往來ヲ圓滿ナラシムル爲メニ規定スルノ必要アリ然ルニ舊刑法ニ於テハ單ニ右第一、第二ニ關スル罪ノミヲ第三百三十三條、第三百三十四條ニ規定シタルニ止マリタルモ近時、國交、益々、頻繁ナルニ隨ヒ各國貴賓ニ對スル規定ヲ闕クハ一國刑法典トシテ非常ナル不備、闕點ナルヲ以テ本法ハ更ニ其範圍ヲ擴張シテ我帝國ニ滞在スル外國ノ君主、大統領若クハ使節ニ對スル暴行脅迫又ハ是等ノ者ニ對スル侮辱罪及ヒ外國ニ對スル不敬罪等ノ法條ヲ新設シ舊刑法ノ規定ヲ修正總括シテ國交ニ關スル罪ト題シ本章ヲ規定シタルハ寔ニ其當ヲ得タリト謂フ可

蓋シ此國交ニ關スル罪ヲ刑法上、認ムルニ就テハ立法上、二主義アリ一ハ相互主義ト謂ヒ、一ハ單獨主義ト謂フ

第一、相互主義トハ外國刑法ニ於テモ同シク本章ノ如キ規定ノ存スル場合ニ限り我國ニ於テモ其規定ヲ適用スルノ主義是レナリ假令ハ伊、和等ノ刑法ノ如キハ之ニ屬ス

第二、單獨主義トハ右ニ反シ外國刑法ニ於テ本章ノ如キ規定ヲ設クルト否トヲ問ハス之ヲ罰スルノ主義是ナリ

此ノ第二主義ハ近世、文明國ノ一般ニ認ムル立法例ナルヲ以テ我改正刑法ニ於テモ、此ノ第二ノ主義ヲ採用シタルモノナリ

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加

ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以

下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條第一項ハ帝國ニ滞在スル外國ノ君主若クハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ通常ノ暴行又ハ脅迫罪ニ問ハス特ニ本條ニ依テ處分シ外國貴賓ヲ尊敬スルコトト爲シタリ

本條第二項ハ此等ノ貴賓ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル場合ニ於テモ通常侮辱罪ヲ適用セスシテ特ニ本條ニ依リ處分スルコトヲ規定シタルモノナリ

本條第二項、但書ヲ以テ「外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス」ト規定シタルハ本條、侮辱罪ハ通常誹毀罪ト其性質同一ナルヲ以テ親告罪ト爲シタルモノナリ是則チ各國、其人情、風俗及ヒ慣習ノ異ナルニ因リ往々、我國ニ於テ侮辱罪ニ相當スルト認ムルモ彼國ニ於テ之ヲ侮辱罪ト爲サ、ルコトアルヲ以テ其起訴、不起訴ヲ我當該檢事ニ一任セスシテ貴賓ノ所在國、政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルコト、爲シタルモノトス

而シテ之ヲ告訴ト云ハスシテ請求ト規定シタル所以ノモノハ我國、法制上、告訴ニ就テハ一定ノ形式アルヲ以テ、是等、形式ヲ外國政府ニ命スルハ徒ラニ手續上ノ繁累ヲ感セシムルニ止マリ實益ナキニ依リ簡便ヲ主トシテ斯ク規定シタルニアリ

本條ハ是ヲ第一項ノ罪、第二項ノ罪トニ區別シテ論セントス

一、帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル暴行脅迫罪

本罪成立ニハ、第一帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ナルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコトヲ要ス

茲ニ所謂外國トハ我日本帝國以外ノ國ヲ謂フモノニシテ其條約國タルト否トハ之ヲ問ハス又政體ノ如何ニ拘ハラズ、苟モ國際公法上獨立國ト公認セラル、國家ハ凡テ本條ニ謂フ外國ナリトス故ニ主權者ノ君主ナルト大統領ナルトノ如キハ各國、國內法令ノ定ムル所ナレハ之ヲ總稱シテ國家統治ノ大權ヲ總攬スル者ヲ君主又ハ大統領ト云フニ在リ而シテ大統領トハ共和政體ノ國ニ於テ或階級ノ者或ハ一般人民ヨリ選舉シタル主權者ニシテ國內及ヒ外國ニ對スル最高機關ヲ謂フ又君主トハ世襲的主權者ヲ云フモノニシテ我帝國ノ如キハ純然タル君主國ノ適例ナリトス

本法ニ外國ノ君主又ハ大統領ノミヲ規定シ外國皇族ニ對シテハ別ニ之ヲ優遇セズ蓋シ此立法上ノ當否ニ就テハ第十六議會ニ於テ多少ノ異論アリタルモ我立法者ハ之ヲ認メス故ニ外國皇族ニ對スル不敬ノ所爲ハ通常規定ニ依リ之ヲ罰スルノ主義ヲ採リタルモノナリ

第二、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

暴行又ハ脅迫ナル語ハ本條ノ外、尙ホ第九十五條、第一百條、第一百七十六條、第一百七十七條、第二百七

條、第二百八條、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十六條、第二百三十八條等ニ規定シタルモ之カ定義ヲ下シタル法文ナキヲ以テ其範圍、極メテ不明ナリト雖モ要スルニ暴行トハ不法ノ腕力ヲ使用スル所爲ヲ謂フ故ニ人ノ身體、生命ニ傷害ヲ加フルモ亦家屋其他ノ物件ヲ破壊スルモ皆是廣義ニ所謂、暴行ナリ然レトモ普通刑法上暴行又ハ脅迫ト記載シタル場合ニ於ケル暴行ナル意義ハ不法ノ腕力ニ因リ他人ノ身體ヲ強制スル所爲ヲ謂フモノニシテ之ニハ二個ノ制限アリ

(一) 所爲ノ結果、疾病若クハ創傷ヲ致シタルトキハ暴行ナルモ第二百五條及ヒ第二百六條第二百七條ニ規定シタル傷害罪ナリ故ニ手ヲ下シテ疾病創傷ニ至ラサル行爲(即チ不法ノ腕力)ヲ暴行ト解スルヲ正當ナリトス

(二) 腕力ヲ加フル目的、人以外ノ物件ニ在リテ毫モ人ノ身體ニ及ハサルトキハ是又刑法上、燒燬、破壞、損壞等ノ語ヲ用ヒタリ(第九十八條乃至第二百二十九條、第四百十七條、第九十條、第九十一條、第二百六十條、第二百六十一條、第二百六十二條)、故ニ暴行トハ全然、之ヲ區別シタルコトヲ知ル可キナリ然リト雖モ之カ爲メニ直接、他人ノ身體ニ手ヲ觸レサレハ暴行ニアラスト解スルハ狹キニ失スルヲ以テ若シ家屋、物件ニ不法ノ腕力ヲ加ヘ他人ノ身體ヲ強制スルノ目的ニ出テタルトキハ之ヲ暴行ナリト云フニ妨ケナシ假令ハ外國君主又ハ大統領カ内地ヲ旅行スル場合ニ其通行ヲ妨害セントシテ直接、其身體ニ不法ノ腕力ヲ加ヘサルモ精神ヲ強制

スル目的ニテ馬車ヲ奪フテ通行ヲ抑止シタル場合ノ如キハ暴行ヲ加ヘタルモノト云フ可シ又脅迫トハ人ノ精神上ニ畏怖ノ感念ヲ生セシメ(不法ノ腕力ヲ用ヒスシテ)人ノ自由ヲ妨害スル所爲ヲ謂フモノトス

若シ一國貴賓タル外國ノ君主又ハ大統領ヲ脅迫スルカ如キコト在リトセハ取リモ直サス其所屬國家ヲ侮辱スルモノナルヲ以テ是等ノ所爲ヲ罰スルコトハ國際公法ノ發達ト共ニ各國立法例ノ認ムル所トナレリ故ニ本法ニ於テモ特ニ之ヲ規定シテ此等ノ貴賓ヲ優待スルノ旨趣ニ出テタルモノナリ本罪モ亦、帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ナルコトヲ知リテ而シテ故ラ此等ノ者ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加フルノ意思アルコトヲ要スルハ論ナシ又犯人カ其暴行脅迫ヲ加ヘントシタル遠因如何モ亦論セス要ハ外國ノ君主若クハ大統領ナルコトヲ知リテ暴行又ハ脅迫ヲ加フルヲ要スルニアリ

以上ノ條件具備シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

二、帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル侮辱罪

本罪成立ニハ、第一外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコト、第二侮辱ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコトヲ要ス

本條件ニ就テハ前項、既ニ述ヘタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第二、侮辱ヲ加ヘタルコトヲ要ス

本條侮辱ヲ加フルトハ罵詈、嘲笑、其他誹毀トナレ可キ言語又ハ舉動ヲ爲シタルヲ要スルモノニテ其侮辱ノ手段方法ノ如キモ之ヲ限定セサルヲ以テ苟モ君主又ハ大統領ノ名譽ヲ毀ケ尊嚴ヲ害スル所爲アル以上ハ本罪成立シ其實ノ有無ハ之ヲ問ハス而シテ本罪モ外國ノ君主又ハ大統領ナルコトヲ知テ而シテ故ラ既ニ述ヘタル如キ不敬ニ涉ルノ所爲アルヲ要スルモノナリ

以上ノ條件具備シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

蓋シ本罪ハ直ニ之ヲ處分スルコトヲ得ルモノニ非ス外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス可キモノトス是既ニ述ヘタル如ク果シテ被害者ハ侮辱ナリト感シタルヤ否ヤヲ知ルノ必要アリ若シ夫レ毫モ其意ニ解セサル者ニ對シテ強テ之ヲ侮辱ナリト公認スルノ必要ナキヲ以テナリ是第一項暴行脅迫罪ト異ナル所以ナリ又特ニ請求ト云ヒ告訴ト云ハサル理由ニ就テハ既ニ述ヘタル所ナルヲ以テ復タ贅セス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ我日本帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル暴行又ハ脅迫及ヒ侮辱ノ罪ヲ規定シタルモノナルモ其立法趣旨ニ至テハ總テ前條ト同一ナリ唯、前條ハ外國ノ君主若クハ大統領ナルニ本條ハ外國政府ヨリ派遣セラレタル使節ナルトノ差異アルニ過キス
本條モ亦便宜上、第一項ト第二項トニ區別シテ説明セントス

一、帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル罪
犯罪成立ニハ、第一帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ナルコトヲ要ス

本條帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節トハ自國政府ヲ代表シテ我帝國ニ滯留シ國際公務ヲ處理スル外交機關ヲ謂フモノトス

蓋シ本條ハ其使節トハ如何ナル者ナル乎ヲ規定セサルモ國際公法上、使節トハ其本國ヲ代表スル資格ヲ以テ外國ニ滯在スル公務員ヲ謂フモノニシテ近世、獨立國間ニ於テハ孰レモ國家交通機關

トシテ外國ニ自國官吏ヲ派遣シ又ハ接受スル權利及ヒ義務アルコトハ國際公法上、一般ニ公認セラレタル所ナリ蓋シ其之ヲ派遣スルノ必要ニニアリ、一ハ國際交通機關トシテ自國政府ヲ代表シ他國ニ常住シテ自國及ヒ自國臣民ヲ保護スル外交官假令ハ公使館常住ノ外國公使ノ如キ者是レナリ、一ハ臨時國際交渉談判ノ必要起リタル場合ニ於テ自國政府ヲ代表スル資格ヲ以テ派遣セラレハ外交官假令ハ國際條約若クハ媾和條約、締結其他、特別使命ヲ帶ヒテ特派セラレタル公使ノ如キ是ナリ

而シテ其職務權限又ハ代表部分ノ異ナルニ從ヒ各其名稱ヲ異ニセリ則チ全權大使、全權公使、特命全權公使、代理公使等はナリ然レトモ自國政府ヲ代表シテ在留國ニ於テ使命ノ外交事務ヲ執ル點ニ於テハ皆孰レモ同一ニシテ是等外國使節ハ各本國ヲ代表スルモノナルヲ以テ其名譽ト尊嚴トヲ保護スルモノトス

第二、使節ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

使節ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトハ我帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節タルコトヲ知テ前條ニ於テ説明シタル如ク暴行又ハ脅迫ヲ加フルコトヲ要スルニ在リ
以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

二、帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル侮辱罪
 本條第二項ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シテ侮辱ヲ加ヘタル者ハ云々但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スルト規定スルヲ以テ本罪成立ニハ、第一帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト、第二侮辱ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要スルモ前條、既ニ説明シタル所ト同一ニシテ唯、其異ナル點ハ前條ハ外國ノ君主大統領ナルニ本條ハ外國使節ナルトノ差異アルニ過キサルヲ以テ別ニ説明セス

本罪モ亦被害者ノ請求ヲ待テ之ヲ處罰スルモノニシテ其理由モ亦前條ト同シク侮辱罪ノ性質上、被害者本人ノ請求ヲ待テ其罪ヲ斷ス可キモノト爲シタルニ過キス
 茲ニ一問題アリ本條被害者ノ請求アルヲ要スト爲シタルヲ以テ被害者ノ意思ヲ推測シテ他人ヨリ請求スルヲ得サルハ勿論ナリ故ニ若シ被害者請求ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ如何、外國政府ハ之ニ代テ請求スルコトヲ得サルヘシ又被害者他人ニ其請求ノ委任狀ヲ交付シタル後ニ死亡シタルトキハ如何トノ問題生スルモ恣カ場合ニ於テハ委任狀一般ノ性質ニ從ヒ死亡後ハ其委任ノ効ナシト云フヲ至當ナリトス然レトモ被害者一旦、請求シタル後裁判確定セサル前死亡シタルトキハ依然公訴ヲ繼續スルコトヲ得ルカ然リ一旦、請求シタル以上ハ被害者ノ意思ニ反スルノ虞ナキ

ヲ以テ檢事ハ獨立シテ公訴ヲ繼續スルコトヲ得可キモノトス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ外國ヲ侮辱スル罪ヲ規定シタルモノナリ
 國家ハ國際公法上、法人格ヲ有スルモノナルヲ以テ對外主權ノ作用トシテ權利義務ノ主體タルモノトス故ニ名譽權、財產權等ヲ有スルコト國內法令ノ下ニ創設セル法人ト異ナルコトナシ換言スレハ國家モ亦一私人ト等シク國際公法上、人格ヲ有シ公權、私權ヲ享有スルモノトス左レハ本法ニ於テモ此國家ノ人格ヲ認メ外國ニ對スル侮辱ヲ一個ノ犯罪トシテ罰スル主義ヲ採用セリ
 本罪成立ニハ、第一外國ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ナルコト、第二外國ノ國旗其他ノ國章タルコト、第三損壞、除去又ハ汚穢シタルコトノ三條件アルヲ要ス
 第一、外國ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ナルコトヲ要ス
 國交、益々、頻繁ヲ加ヘ和親、交通ヲ主トスル近時ノ國際關係ニ於テハ個人的、私憤ニ出ツルト將タ忠君愛國ノ思念ニ出テタルトヲ問ハス外國ニ對シテ侮辱ヲ加フルカ如キ言動ヲ爲シタル者ハ

之ヲ嚴罰ス可キモノトス然ルニ從來、此種ノ暴擧ヲ爲ス者、一再ニ止マラザリシヲ以テ本法ハ將來ノ爲メ此規定ヲ爲シタルモノナリ若シ外國ニ對シテ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其外國、國旗ヲ損壞除去又ハ汚穢スルカ如キ者アルトキハ却テ國家ノ災害事端ヲ惹起セシムルモノナルヲ以テ我帝國ノ爲メ最モ患フ可キ不忠ノ臣民ナリ蓋シ此侮辱ノ意義ニ就テハ既ニ前二條ニ於テ詳論シタルヲ以テ茲ニ説明セス

第二、外國ノ國旗其他ノ國章タルコトヲ要ス

國旗トハ國章ヲ附シタル國家ノ旗幟ヲ謂ヒ國章トハ國家ヲ表章ス可キ徽章ヲ謂フモノトス各國、孰レモ自國ヲ表章スル國旗、國章ヲ有スルモノナルニ依リ外國ノ國旗、國章等ヲ損壞シ又ハ除去シ汚穢スルカ如キ所爲アルトキハ取リモ直サス其外國ヲ侮辱シタルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ保護スルモノナリ蓋シ本條、國旗、國章トハ如何ナルモノヲ云フヤ未タ我國、刑法學者中之ヲ解說シタル者ナシ獨逸刑法第三百三條ハ惡意ヲ以テ外國官廳ノ公ノ徽章又ハ外國ノ國章ヲ奪取シ破棄シ汚損シ又ハ之ヲ凌辱シタル者ハ云々ト規定シ同第三百三十五條ニ帝國又ハ聯邦國君主ノ官廳ノ公ノ徽章又ハ聯邦國ノ國章ヲ奪取シ破棄シ汚損シ又ハ凌辱シタル者ハ云々ト規定シ徽章ト國章ト明ニ區別シタリ然レトモ獨逸刑法學者ハ公ノ徽章ト國章トハ區別ナシト論シ或ハ二者區別アリト論シ議

論一定セス「リスト」氏ハ公ノ徽章ト國章トハ區別ヲ認メス二者全ク同一ナリト論シ「ラルス」氏ハ公ノ徽章トハ自國國民ニ對スル關係ヲ表スル紋章ヲ云フ例ヘハ裁判所又ハ稅務署ノ紋章ノ類是ナリ之ニ反シテ國章トハ外國ニ對スル關係ヲ表スル國ノ境界標又ハ紋章ヲ云フ例ヘハ公使館、領事館ヲ表スル紋章ノ類是ナリト又「ガイエル」氏ハ公ノ徽章トハ國權ノ成立ヲ公ニ表スル記號特ニ境界標ノ如キモノヲ云フ國章トハ君主ノ記號ニシテ旗紋章ノ如キモノヲ云フト論セリ

第三、損壞、除去又ハ汚穢シタルコトヲ要ス

本條外國ノ國旗、國章ノ損壞、除去又ハ汚穢ノ意義ハ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス而シテ本罪成立ニハ外國ノ國旗又ハ國章ナルコトヲ知テ之ヲ毀損シ或ハ除去シ若クハ汚穢スルノ意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス但被害政府ハ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス可キコトハ既ニ第九十條ニ於テ説明シタル所ト同一ナリトス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シ

タル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ舊刑法、第三十三條ヲ修正シタルモノナリ
 舊刑法ニ於テハ「戰端ヲ開ク」ト規定シタルヲ本法ニ於テハ「戰闘ヲ爲ス」ト改メタリ若シ夫レ舊
 法ノ如ク戰端ヲ開クト云フトキハ戰爭ヲ開始スルノ意義ニ解ス可キモノナルヲ以テ戰爭ナル語ヲ實
 際ニ適用スルニ就テ如何ナル場合ヲ戰爭ト云フヲ得ヘキカ疑問ナキニアラサルヲ以テ寧ロ之ヲ戰闘
 ト爲シ對手ノ一人タル場合ニ於テモ尙ホ廣ク適用スルコトト爲シタルモノナリ
 又舊刑法ハ其戰端ヲ開ク豫備ノ所爲ノミヲ罰スルコトト爲シタルモ是亦實際ニ適セサルノ嫌アルヲ
 以テ本法ハ其陰謀ノ所爲ヲモ仍ホ之ヲ罰スルコトト爲シタリ
 而シテ本條ノ罪ハ「自首シタルトキハ其罪ヲ免除ス」ト規定シ危險ヲ未發ニ防止スルノ主義ヲ採用
 シタルモ此自首ノ有效條件ニ就テハ既ニ第一編、第七章ニ於テ説明シタルヲ以テ茲ニ説明セス
 本罪成立ニハ、第一外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ナルコト、第二豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコトノ
 二條件アルヲ要ス

第一、外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ナルコトヲ要ス

既ニ述ヘタル如ク外國トハ我日本帝國以外ノ國家ニシテ一定ノ土地、人民アリテ主權者之ヲ統治
 シ國際公法上、現ニ一國ト認メラルル團體ヲ云フモノナルコト既ニ述ヘタル如シ而シテ其一國ト

認メラレタル外國ニ對シテ私ニ戰闘ヲ開クノ目的ヲ以テ戰爭ニ必要ナル豫備又ハ陰謀ヲ爲スカ如
 キ所爲ハ和親交通ヲ主トスル今日ニ於テハ縱令、一人ノ企テナリト雖モ仍ホ外國トノ平和ヲ破
 リ我帝國ノ事端ヲ醸成スルモノナルヲ以テ之ヲ嚴罰スルモノトス
 茲ニ問題アリ本罪構成ニハ日本臣民タルコトノ一條件ヲ要スルヤノ問題はナリ余ハ特ニ此條件ヲ
 要セスト信スルモノナリ如何トナレバ日本臣民トハ我帝國ニ國籍アリテ日本帝國版圖内ニ居住ス
 ル者ハ勿論、我帝國ニ居住スル者ナル以上ハ縱令、外國人ナリト雖モ仍ホ日本帝國内ニ居住スル
 トキハ我國法ノ支配ヲ受ク可キモノナルコトハ本法第一編、第一章法例ノ明カニ規定スル所ナル
 ヲ以テ若シ是等、外國人、本邦ニ在リテ私ニ戰闘ヲ開クノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルトキハ本條ニ
 據リ論ス可キモノトス(第一條第二條參照)舊刑法第三十三條ハ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キ云
 ヲト規定シタルニヨリ解釋上、外國政府ヲ敵トシテ戰フ場合ニ限リ罪ト爲シタルヲ以テ縱令、多
 數、外國臣民ト爭鬪スルモ其意思、單ニ外國臣民ト戰フニ止マリ外國政府ヲ敵トスル意思ナキ場合
 ニ於テハ之ヲ罰スルコト能ハサルノ不都合アリシヲ以テ本法ハ之ヲ戰闘ト改メ其不都合ヲ避クル
 コトト爲シタリ

本條私ニ戰闘ヲ爲ストハ一人カ共同シテ武力的爭鬪ヲ爲ス行爲ヲ謂フモノナリ蓋シ此外國ト戰

闘ヲ爲スノ權ハ天皇ノ大權ノ一ニ屬スル(憲法第十三條)ヲ以テ縱令、外國政府又ハ人民如何ニ暴狀ヲ逞フスルモ之ヲ討伐懲懲スルハ我天皇ノ大權ニ屬シ一私人ニ許ス可キモノニアラス然レトモ既ニ我帝國ト開戦シタル外國ニ對シテ竊ニ戰闘スル者ノ如キハ本條ノ間フ所ニアラス是私ニ戰闘ヲ爲スモノニアラスシテ我帝國軍勢ヲ補助スルモノナルヲ以テナリ

第二、其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコトヲ要ス

如何ナル所爲アルトキハ戰闘ヲ爲スニ足ル可キ豫備又ハ陰謀ナルヤハ法文別ニ之ヲ規定セサルモ要スルニ兵隊ヲ募集シ又ハ一人カ軍器ヲ準備シテ遠征隊ヲ組織シタル場合ノ如キハ戰闘準備ト認ム可キ有形的行爲ナリ而シテ其準備、陰謀ノ意義如何ニ就テハ前章既ニ評論シタルヲ以テ參照ス可シ

以上ノ條件具備スルトキハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス可キモノナルモ本條但書ハ「自首シタルトキハ其刑ヲ免除ス」ト規定シ此種ノ犯罪ハ自首シタルトキハ其刑ヲ全免シ自首ヲ獎勵シテ大害ヲ未發ニ豫防スルニアリ

蓋シ自首シテ本刑ヲ免除セラルルニハ既ニ第一編第七章第四十二條ニ於テ説明シタル如ク事未タ發覺セサル前、當該官署ニ自首シタルコト等、一般自首ニ關スル條件ヲ要スルモノトス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ舊刑法、第三百三十四條ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ニ至テハ異ナルコトナシ

本罪成立ニハ、第一外國交戦ノ際タルコト、第二局外中立ニ關スル命令ニ違背シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、外國交戦ノ際タルコトヲ要ス

本條ハ外國ト外國トノ間ニ戰爭開始シ我帝國之ニ關係ナキ場合ヲ規定シタルモノナリ而シテ此「外國交戦ノ際」トノ規定中ニハ其外國、國內戰爭ノ起リタル場合ヲモ尙ホ包含スルモノト解ス可シ如何トナレハ縱令、一國內ノ戰爭ナリト雖モ其叛徒ニシテ他國ヨリ交戦主體タルハ承認ヲ受ケタルトキハ國際法上、戰爭主體ト認ムルモノナレハナリ

蓋シ外國交戦ノ際單ニ我帝國ニ於テ局外中立ノ態度ヲ執リタル事實アルヲ以テ足レリトセス必ス局外中立ニ關スル命令アルヲ要ス是則テ事、外國ノ出來事ニ關スルニ因リ一般臣民ハ果シテ我國局外中立ヲ布告シタルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキヲ以テ(本條局外中立ニ違背ト云ハスシテ)特ニ「局外中立ニ關スル命令ニ違背」云々ト規定シ(其布告シタル命令ニ違背スルノ所爲ヲ罰スルコトト

爲シ)タレハナリ

第二、局外中立ニ關スル命令ニ違背シタルコトヲ要ス

本條局外中立ニ關スル命令違犯トハ外國間ニ於テ戰爭開始シタルニ際シ我國局外中立ヲ宣言シ尙ホ其中立ニ必要ナル禁令又ハ命令ヲ布告シタルコトヲ謂フ然レトモ此禁令又ハ命令ハ其布告ヲ待テ後チ、知ル可キ事項ニ屬スルヲ以テ茲ニ豫メ説明スルヲ得スト雖モ要スルニ交戰國ノ一方ニ對シテ利益又ハ不利益ト爲ル可キ軍用品ヲ供給スル行爲ヲ禁スルモノニシテ兩交戰國ニ對シテ不偏不黨ノ地位ヲ表スルコトヲ稱スルモノナリ而シテ其局外中立ノ布告事項ニ違背シタルトキハ本罪成立ス其詳細ハ戰時國際公法ニ於テ論ス可キモノナルヲ以テ深ク論セサルモ我帝國ニ於テ戰時局外中立ヲ布告シタル以上ハ其布告ハ之ヲ知ラスト稱シテ本罪ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス然レトモ全ク罪ヲ犯ス意思ナクシテ違背シタルトキハ一般原則ニ從ヒ本罪モ亦成立セス故ニ本罪成立ニハ必ス局外中立令ニ違背スルコトヲ知ルノ意思アルヲ要スルコト論ヲ俟タス
以上ノ條件具備シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處セララルモノトス
茲ニ注意ス可キハ本章規定ノ犯罪ハ未遂罪ヲ罰スル明文ナキヲ以テ本章各種ノ犯罪ハ其未遂ノ所爲ハ之ヲ罰セサルモノト知ル可シ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章、第二節及ヒ第八節ノ規定ヲ合シテ之ヲ修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、官吏ト人民トノ間ニ生スル犯罪ニ二種アリ、一ハ官吏ノ一人ニ對スル罪、一ハ一人ノ私人ノ官吏ニ對スル罪是ナリ孰レモ公益ニ關スル罪ナルコトハ二者同一ナルモ、一ハ一人ノ私人カ公力ヲ濫用シテ其職務ノ執行ヲ侵害スルニ因テ成立シ、一ハ官吏其職權ヲ濫用シテ私權ヲ妨害スルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ二者全ク其性質ヲ異ニスルモノトス故ニ本法ニ於テハ前者ヲ本章ニ規定シ後者ヲ本編第二十五章ニ規定スルコトト爲シタリ
- 二、舊刑法ハ官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモ其範圍、極メテ狹隘ニ失シ他ノ公吏議員ニ對シ此規定ヲ適用スルコト能ハサル不都合アリタルヲ以テ本法ハ廣ク公務員ト爲シ官吏公吏議員等ノ職務執行ノ安全ヲ期シタリ
- 三、舊刑法并ニ確定草案中ニハ本章ニ公務員ニ對スル侮辱罪ヲ規定シタルモ衆議院ノ發議ニ因リ遂

ニ削除セラルルコト爲リタリ

四、舊刑法ハ封印破棄ニ關スル罪ヲ規定シタルモ此封印破棄ノ所爲ハ本來公務ノ執行ヲ妨害スル罪ノ一種ニ過キササルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ本章ニ規定シ且ツ官ノ封印ヲ破毀シテ物件ヲ竊取シタルモノニ對スル罪ハ本編第三十六章ニ移シテ規定シタリ

本章ハ(一)公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪(二)封印若クハ差押ノ表示ヲ損壞又ハ無效ナラシムル罪等ヲ規定シタリ

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加

ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭

セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

本條ハ公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百九條ニ官吏ト在リタルヲ修正シテ廣ク公務員ト改メタル外、立法趣旨ハ變更シタル所ナシ、唯舊刑法カ職務執行ノ原由ヲ列舉シタルモ斯カル事項ハ之ヲ舉クルノ必要ナキヲ

以テ本法ハ之ヲ削除シタリ

而シテ本條第二項ノ一分ハ明治二十二年法律第二十八號第四條ヲ修補シテ移シタルモノニテ同條ニ議員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ト規定シタルヲ況ク公務員ニ關スル規定ト爲シタルモノナリ

本條モ亦、便宜上、第一項第二項ニ區別シテ各其成立條件ヲ説明セントス

一、公務員ノ職務執行ニ對スル暴行又ハ脅迫罪

本罪成立ニハ、第一公務員ノ職務執行ニ對スルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、公務員ノ職務執行ニ對スルコトヲ要ス

公務員カ法律命令ニ依リ其職務ヲ執行スルニ當リ此等ノ者ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ公務員ナルト一私人ナルトヲ問ハス職務ヲ執行スル權ナキ者ナル以上ハ本罪成立スルモノナリ如何トナレハ公務員モ職務權限外ニ於テハ一私人ト同一ナレハナリ職務執行ヲ妨害スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者トハ其職務執行ヲ受クル者ナルト否トヲ問ハス暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタルトキハ利害關係ノ有無ニ拘ラス官吏抗拒罪構成ストノ判例アリ

茲ニ問題アリ若シ其公務員ノ執行セントスル行爲ノ不法ナルトキハ之ヲ抗拒スルコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ本問ニ就キテハ從來、消極、積極ノ二説アリト雖モ本條職務ノ執行トハ法令ノ認ムル範圍ニ於ケル行爲ヲ云フモノトス故ニ法令ノ認メサル行爲ハ職務ノ執行ニ非サルヲ以テ其不法行爲ニ對シテハ之ヲ防衛スルコトヲ得可シトノ積極論ヲ可トス

舊刑法ハ職務執行ノ原因ヲ列舉セシ爲メ適用上、狹隘ニ失シ往々、法網ヲ脱セシムルノ不都合アリシヲ以テ本法ハ單ニ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ云々ト概括的ニ規定シ法令ニ基ク職務ノ執行ナル以上ハ行政(處分命令ノ執行)又ハ司法命令(判決、決定、命令ノ執行)ナルト否トヲ論セス總テ本罪成立スルモノトセリ此公務員ノ意義ニ就テハ第一編第一章第七條ニ於テ詳論シタル所ナルモ之ヲ要スルニ公務員トハ我法律命令ノ規定ニ依リ任命若クハ認許セラレテ國家ノ公務ヲ執行スル人ノ資格ヲ謂フモノトス本法第七條ハ「公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員、其他ノ職員ヲ謂フ」ト定義シタレハ彼ノ國會、縣會、郡會、市町村會ノ議員其他、各公撰ニ依ル議會ノ議員、行政各部及ヒ司法官廳ノ官吏ハ皆之レ公務員ナリトス茲ニ問題アリ本條、公務員中ニ外國ノ官吏、公吏ヲ包含スルヤ否ヤノ問題はナリ例ヘハ外國ノ官吏、公吏カ我帝國内ニ於テ日本臣民ニ對シ自己ノ職務ヲ執行セントシタル場合ノ如キ是ナリ本問ニ就テ

ハ二説アリ第一説ハ日本政府ニ於テ其外國ノ官吏公吏ノ資格ヲ承認シタルトキハ我公務員ト同一ナルヲ以テ此場合ニ限リ本條中ニ包含スト第二説ハ本條ハ我帝國公務員ノ職務執行ニ對スル罪ナルヲ於テ外國ノ官吏公吏ハ是ヲ包含セスト余ハ本條ノ解釋論トシテハ第二説ヲ可トスルモノナリ

第二、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

公務員ノ職務ヲ妨害スル手段ハ暴行又ハ脅迫タルヲ要ス然レトモ其暴行脅迫ノ結果、職務ノ執行ヲ爲シ得サリト否トヲ問ハス又不法ノ腕力ニ因リ公務員ノ身體ヲ強制シテ妨害シタルト間接ニ其職務執行ヲ妨害シタルトヲ問ハス苟モ公務員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキハ本罪成立スルモノトス故ニ假令ハ彼ノ稅務官吏ノ帳簿ヲ検査セントスルニ際シ之ヲ戶外ニ持チ出シ其検査ヲ妨害シタルカ如キ又ハ戸ヲ内ヨリ押ヘテ帳簿ノ検査官吏ヲ屋内ニ入ラシメサルトキノ如キハ直接身體ニ不法ノ腕力ヲ加ヘテ職務執行ヲ妨害シタルモノニ非スト雖モ仍ホ職務ノ執行ヲ妨害シタルモノナリ而シテ脅迫モ亦言語タルト舉動タルトニ論ナク公務員ノ目前ニ危害アルノ狀ヲ示シテ職務執行ノ自由ヲ強制シ因テ職務執行ヲ妨害シタルトキハ本罪成立ス故ニ本罪ニハ公務員ノ職務執行ヲ妨害スルノ意思アルヲ要ス換言スレハ公務員ノ職務執行ナルコトヲ知テ故ラ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルヲ要スルヲ以テ若シ公務員タルコトヲ知ラス暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルトキハ假令、職務ノ執行ナ

リシ場合ト雖モ(第三十二章脅迫罪タルコトアルハ格別)本條ニ據リ論スルコトヲ得ス

二、公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ辭職セシムル爲メナルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ辭職セシムル爲メナルコトヲ要ス

本條第二項ハ「公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職務ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者亦同シ」ト規定シテ其職務ノ執行中ナルト否トヲ問ハサルヲ以テ公務員タル資格アル者ニ對シ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ職務ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルトキハ本罪成立ス故ニ第一項トハ其目的ニ就テハ全ク異ナルモ暴行脅迫ヲ加ヘテ自由ヲ強制スル點ニ就テハ同一ナリ例ヘハ公務員ヲシテ或ル處分ヲ爲サシメトハ執達吏ヲシテ差押命令ナキニ他人ノ財産ヲ不法ニ差押フルコトヲ強制スルカ如キヲ云ヒ若クハ爲ササラシメトハ執達吏カ適法ナル差押命令ニ基キ財産差押ヲ執行セントスルニ之ヲ強制シテ

差押ヲ爲ササラシムルカ如キヲ云フ又其職ヲ辭セシムル爲メトハ公務員タル資格ヲ退クコトヲ強制スルカ如キヲ云フモノトス而シテ其暴行又ハ脅迫ノ結果、其職務ノ執行ヲ遂ケタルト否ト又辭職シタルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

第二、暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要ス

此暴行又ハ脅迫ノ意義ニ就テハ前項既ニ説明シタルヲ以テ再說セサルモ本罪ハ前罪ト異ナリ或ル處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ若クハ辭職セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要スルノ差異アリ

以上ノ條件具備スルトキハ第一項ノ罪及ヒ第二項ノ罪共ニ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キモノトス

餘 論

舊刑法第四百十一條ハ「官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ」規定トシ本法確定成案第九十六條ハ公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ加ヘ又ハ面前ニ非スト雖モ公然其職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル

者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處スル公務所ニ對シ公然侮辱ヲ加ヘタル者亦同シト規定シ在リタルヲ衆議院ニ於テ削除セラレタリ是ヲ削除シタル理由ハ公務員又ハ公務所ニ對スル侮辱モ一般私人ト同一ニ第三十四章名譽ニ對スル罪ニ依テ保護スレハ可ナリト云フニアリ余輩ハ本條削除ヲ實際上極メテ遺憾ト爲スモノナリト雖モ今其當否ハ之ヲ論セス

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方

法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効ナラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百

圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ無効タラシメタル罪ヲ規定シタルモノナ

リ
公務員カ法律又ハ命令ノ定ムル所ニ依リ自己ノ權限ニ屬スル職務ノ執行ヲ爲スニ當リ人民ノ家屋若クハ物件等ヲ差押ヘテ所有者又ハ占有者ノ自由處分ヲ禁止スル場合ニ當リ一々、看守人ヲ置クカ如キハ到底其手數ト費用トニ堪ヘサルヲ以テ之ニ代ユルニ封印又ハ差押ノ方法ニ因テ其目的ヲ達スルコト有リ此場合ニ於テ其差押又ハ封印ノ效力ヲ失ハシメタルトキハ本罪成立スルモノトス本條ハ舊刑法第七十四條ニ「官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者

ハ二月以上、二年以下ノ重禁錮ニ處ス」若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フトノ規定ヲ修正シ本法ハ之ヲ擴張シテ差押ノ標示ヲ損壞シタル場合ニモ尙ホ之ヲ適用スルコトト改メ從來、實際上ニ於テ生シタル弊害ヲ除去シタルモノナリ

本罪成立ニハ、第一公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコト、第二封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ無効タラシメタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコトヲ要ス

公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示トハ公務員ノ財産上ニ施シタル處分禁止ノ封印又ハ差押ノ標目ヲ謂フモノトス一例ヲ舉クレハ執達吏カ債務者ノ財産中ノ筆筒ニ對シ開閉ヲ禁スル爲メ施シタル封印ノ如キ又ハ差押物件ニ對シ差押物タルコトヲ標示スル爲メ貼付シタル紙片ノ如キ是ナリ

本罪ハ公務員カ裁判所其他官署ノ命令ニ因リ職務ヲ以テ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルトキハ何人ト雖モ取消又ハ解除ノ命令若クハ判決ナキ以上ハ其差押物件ニ施シタル封印又ハ標示ヲ破棄スルコトヲ得サルモノトス故ニ其後差押ノ必要全ク消滅シタルトキト雖モ仍ホ公務員ノ命令アルニ非ラサレハ之ヲ損壞又ハ無効ナラシムルコトヲ得民事裁判所ノ命令ニ基キ執達吏ニ於テ封印

ヲ施シタル以上ハ縱令、債務ヲ經濟シテ差押ノ理由消滅シタル後ト雖モ債務者ハ自ラ其封印ヲ除去スルコトヲ得ストノ判例アリ

第二、封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞又ハ無効タラシメタルコトヲ要ス

本條封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シトハ封印又ハ差押物ノ標示ヲ毀損若クハ破壞スル所爲ヲ謂フモノトス換言スレハ其差押ノ封印又ハ標示物ヲ物質的ニ無効ナラシムル所爲ヲ云フニ在リ然レトモ本罪成立ニハ必スシモ差押ノ效用ヲ全滅セシメタル場合ノミヲ云フニ非ス其差押又ハ差押ノ標示タル效用ヲ失ハシメタルトキハ本罪成立スルモノトス是即チ法文ニ「其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシメタル者」云々ト規定シタル所以ナリ故ニ封印又ハ差押標示ヲ剝キ取リ除去シ或ハ其他差押物件ヲ使用シ若クハ變更シタル場合ノ如キハ本條ニ所謂封印又ハ差押ノ標示ヲ無効タラシメタルモノトス如斯本罪ハ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ之ヲ無効タラシメタルトキハ其物件ヲ竊取横領若クハ損壞、傷害等ノ所爲ナキモ成立スルモノニシテ若シ其物件ヲ竊取、横領又ハ損壞若クハ傷害シタルトキハ第一編、第九章、第五十四條ノ規定ニ依リ其重キ竊盜罪又ハ横領罪若クハ毀棄罪等ニ依リ論ス可キモノナリ
本罪モ亦故意ヲ以テ其封印又ハ標示ヲ損壞シ若クハ無効タラシメタルヲ要ス然レトモ之ヲ損壞又

ハ無効ナラシメタル目的如何ハ之ヲ問ハス苟モ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ナルコトヲ知テ之ヲ損壞又ハ無効タラシメタルトキハ本罪成立ス

以上ノ條件具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

茲ニ注意ス可キコト在リ本章公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪ハ其未遂ヲ罰セサルヲ以テ(一)公務員ノ職務執行ヲ妨害セントシ(二)又ハ公務員ヲ侮辱セントシ(三)公務員ノ施シタル封印又ハ標示物ヲ損壞若クハ無効タラシメントシタルニ止マリ其行爲ノ實行ニ著手セサルトキハ之ヲ罰セサルモノトス

第六章 逃走ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章、第二節中、囚徒逃走罪ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ唯タ語句ヲ改メ適用ノ範圍ヲ擴張シタルニ止マリ立法趣旨ニ至テハ舊法ト異ナル所ナシ
其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ノ囚徒ナル語ハ文字上、二人以上ノ囚人タルコトヲ要スルカ如キ語弊アルヲ以テ本法ハ

之ヲ囚人ト改メタリ

二、舊刑法ハ囚人ニ關スル罪ノミヲ規定シタルモ自由ヲ拘束スル爲メ一定ノ場所ニ拘禁スル者ハ必
スシモ囚人ノミニ限ラス懲治場留置者又ハ留置人ノ如キ者逃走シタルトキ若クハ是等ノ者ヲ奪取
スル者アリタルトキハ之ヲ罰スル必要アルヲ以テ本法ハ汎ク法令ニ因リ拘禁セラレタル者ト改メ
タリ

三、舊刑法、第四百三十三條ハ再犯ノ規定ヲ改メ同第四百四十四條但書ハ、數罪俱發ノ規定ヲ改メタル
結果之ヲ規定セス

四、舊刑法ハ本章ノ刑、一般ニ稍ヤ輕キニ失シタルヲ以テ本法ハ之ヲ重クスルノ主義ヲ採リタリ
本章ハ(一)被拘禁者逃走ノ罪(二)被拘禁者ヲ奪取スル罪(三)被拘禁者ヲ逃走セシムル罪等ヲ規定シタリ

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ既決未決ノ囚人逃走罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百四十二條第一項及ヒ同第四百四十四條ヲ併合シタルモノナリ而シテ本條ニ所謂、
囚人トハ既決、未決ヲ問ハス凡テ監獄ニ拘禁セラルル者ヲ總稱ス、舊刑法ハ未決ノ囚人ノミヲ特
ニ入監中ト規定シタルモ本法ハ之ヲ既決、未決ノ囚人ト改メ其語弊ト疑義トヲ避ケタリ

本罪成立ニハ、第一既決、未決ノ囚人タルコト、第二逃走シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、既決、未決ノ囚人タルコトヲ要ス

既決ノ囚人トハ有罪ノ判決確定シテ其刑ノ執行ヲ受クル爲メ獄舎ニ拘禁セラルル者ヲ云ヒ未決ノ
囚人トハ犯罪ノ有無未タ判明ナラス被嫌疑者トシテ獄舎ニ拘禁セラルル者ヲ云フニ在リ(既ニ主
刑ノ執行、終リタル者又ハ一定ノ住居ナキ者、或ハ引取人ナキ者ニ對シテ監獄内ノ別房ニ留置シ
タル者、及ヒ懲治場、留置人等ノ如キハ本條ニ所謂、囚人ニ非ス次條規定)左レハ總テ此等ノ者、
一旦、獄舎ニ拘禁セラレタル以上ハ監獄内ヨリ逃走シタルトキニ限ラス警察署又ハ監獄ニ護送
中、若クハ裁判所、法廷等ヨリ逃走スルモ仍ホ本條、囚人逃走罪ナリ

茲ニ問題アリ(現行刑事訴訟法上ノ)保釋、責付ノ許可ヲ得テ獄外ノ生活ヲ爲ス者及ヒ勞役ニ留
置セラレタル者、逃走シタルトキモ本條ニ所謂、既決、未決ノ囚人逃走ナルヤ否ヤ是ナリ本條ハ
破獄ノ所爲ヲ罰スル立法趣旨ナルヲ以テ保釋、責付ニ因リ拘禁セラレサル者及ヒ換刑處分等ニ依
リ勞役場ニ留置セラルル者ノ逃走ハ本條中ニ包含セサル立法趣旨ナリ然レトモ勞役場、留置人ノ
逃走ハ本章第九十九條中ニハ包含スルモ單ニ逃走シタルニ止マルトキハ刑法上罰セサル立法趣旨
ナリ而シテ既決ノ囚人其刑期限内逃走シタルトキハ如何ニ處分ス可キヤノ疑問アリ未決ノ囚人逃

走シタルトキハ刑期ナルモノ之ナキモ既決ノ囚人ハ一定ノ刑期アルモノナルヲ以テ其逃走前言渡サレタル刑ノ執行終リタル後逃走罪ノ刑ヲ執行セラルルモノナリ例ヘハ十年ノ懲役ニ處セラレタル者、逃走シテ逃走罪ニ依リ一年ノ懲役ニ處セラレタルトキハ先ツ前ノ十年ノ執行ヲ終リ更ニ一年ノ刑ヲ執行セラルルカ如キ是ナリ

第二、逃走シタルコトヲ要ス

逃走トハ當該官吏ノ監督區域ヲ脱スル所爲ヲ謂フ故ニ拘禁セラルル獄内又ハ彼ノ外役先ヨリ逃走スルトヲ問ハス苟モ當該公務員ノ監督區域ヲ脱シタルトキハ本罪成立ス蓋シ本條ハ其囚人、逃走ノ際、毫モ暴力ヲ加ヘスシテ逃走シタル場合ヲ規定シタルモノナリ假令ハ既決、未決ノ囚人、監房ノ戸ニ鎖鑰ヲ施ササリシテ奇貨トシテ逃走シ或ハ外役ニ服スル際、監視者ノ隙ニ乗シテ逃走シタルカ如キ是ナリ若シ、械具ヲ損壞シ又ハ暴行脅迫ヲ加ヘテ逃走シタルトキハ次條ニ依リ論ス可キモノナリ而シテ本罪成立ニハ逃走スル意思アルコトヲ要ス若シ囚人タル者、逃走スル意思ナク監守人、拘禁スルコトヲ忘却シタル爲メ一定ノ拘禁所ヲ離レタル場合ノ如キハ本條逃走罪ニ非ス以上ノ條件具備シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者、拘禁場又ハ

械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上、通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ舊刑法、第四百二十二條第二項ノ獄舎、獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行、脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上、三年以下ノ重禁錮ニ處スルトノ規定同第四百四十四條及ヒ第四百四十五條ノ囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時、云々トノ規定ヲ併合シテ之ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ハ特ニ三人以上ノ場合ニ限リ重ク罰スルコトト爲シタルモ三人以上ニ限ル必要ナク二人以上ノ場合ニ於テモ仍ホ嚴罰ス可キ必要アルヲ以テ本法ハ之ヲ二人以上ト改メタリ

本罪成立ニハ、第一既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者ナルコト、第二逃走スルニ當リ本條規定ノ手段ニ因テ逃走シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者ナルコトヲ要ス

本條ニ所謂既決未決ノ囚人トハ前條ニ於テ述ヘタル如ク有罪ノ判決確定シタル者ト未タ判決確定ニ至ラサル被拘禁者ヲ云フ又勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者トハ刑事訴訟法ニ規定シタル程式ニ依リ豫審判事等ノ發シタル令狀ノ執行ヲ受ケタル者ヲ云フニ在リ

茲ニ問題アリ不法ノ命令ニ因リ拘禁セラレタル者逃走シタルトキハ本罪成立スルヤ否ヤ是ナリ本

問ニ就テモ消極、積極ノ二説アリト雖モ余ハ本條、解釋論トシテハ消極説ヲ可トス
第二、逃走スルニ當リ本條ニ定ムル手段方法ニ因テ逃走シタルコトヲ要ス

其逃走スルニ當リ本條ノ規定シタル手段ニ因リ逃走スルトハ拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上ノ囚人通謀シテ逃走スル等、本條規定ノ手段方法ニ因リタルヲ要ス(一)拘禁場トハ被告人ヲ拘禁スル爲メ特ニ一定ノ設備ヲ爲シタル場所ヲ云フモノニシテ警察署ノ支關若クハ巡查駐在所ノ控所等ハ茲ニ所謂、拘禁場ト云フコトヲ得ス(二)拘禁場ノ損壞トハ單ニ其門戸、鎖鑰、障壁、天井、床板等ノ損壞ノミナラス圍障ノ石垣、板塀等ノ破損ヲモ包含スルモノトス(三)械具トハ連鎖、手錠ノ如キ械具ヲ云フモノニシテ臨時ニ使用スル縛繩ノ如キ物モ仍ホ包含ス故ニ逃走ノ際之ヲ破壞セス假令ハ連鎖ヲ附シタルママ看守ノ隙ニ乘シテ逃走シ後之ヲ損壞シタル場合ハ第九十七條ノ犯罪タルコトアルモ本條ニ依リ論ス可キモノニ非ス(四)暴行、脅迫トハ既ニ前數章ニ於テ説明シタル如ク人ノ身體ヲ強制スル不法行爲ヲ云フモノニテ假令ハ看守ヲ毆打シ若クハ制縛シ或ハ不法ノ腕力ヲ看守者ニ加フル狀ヲ示シテ看守者ヲ畏怖セシメタル場合ノ如キ是ナリ然レトモ茲ニ注意ス可キハ本法中暴行、脅迫ヲ爲シト規定シ(本條ノ如キ)又暴行、脅迫ヲ加ヘ(第九十條第九十五條又ハ暴行脅迫ヲ以テ第七十七條第二百三十六條)ト規定シタルハ暴行脅迫ヲ加フ

ル對手人アルトキハ加ヘト規定シ別ニ對手人ナキ場合ニ暴行、脅迫ヲ加フル場合ハ爲シト規定シ是ヲ區別スル立法趣旨ナリト云フ(議會ニ於ケル政府委員ノ説明)(五)二人以上、通謀即チ二人以上協議ノ上逃走シタルトキハ其通謀ノ一事ニ依リ暴行脅迫ヲ加ヘス逃走スルモ本條ニ依リ論ス可キモノナリ是犯スニ易ク防クニ難キカ故ニ嚴罰スルモノナリ蓋シ法文、二人以上、通謀云々ト規定シタルヲ以テ若シ通謀ノ事實ナキ以上ハ縱令、同時ニ多數ノ囚人逃走スルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス而シテ本罪成立ニハ被拘禁者タル者逃走スル意思アルヲ要スルハ論ヲ俟タサルナリ
以上ノ條件具備シタルトキハ三月以上、五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ被拘禁者ヲ奪取シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
舊刑法、第四百七十七條ハ「囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者」云々ト規定シタルモ此囚徒ヲ劫奪スルノ所爲トハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ其逃走ヲ助ケタルノ所爲ニ外ナラサルヲ以テ本法ハ拘禁者ヲ奪取シタル者ト修正シ奪取ノ所爲、暴行又ハ脅迫ニ出テタルト其他ノ方法ニ因リタルト問ハス苟モ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタルトキハ本條ニ問フ可キコトト爲シ

タリ本罪成立ニハ、第一法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコト、第二被拘禁者ヲ奪取シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、法令ニ因リ拘禁セラレタル者ナルコトヲ要ス

此法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ如何ナル者ヲ云フ乎ハ前二條ニ於テ既ニ説明シタル者ト殆ト同一ナルモ既決、未決ノ囚人以外ニモ仍ホ拘禁セララル者ナキニ非サレハ本條法令ニ因リ拘禁セラレタル者中ニハ彼ノ罰金ヲ完納セサル爲メ勞役場ニ留置セラレタル者、或ハ民法上ノ懲戒ニ依リ拘禁セララル者、民法第八百八十二條等ヲ包含ス故ニ本條法令ニ依リ拘禁セラレタル者トハ前二條ノ既決、未決ノ囚人ヨリ其範圍廣キモノトス是注意ス可キ點ナリ

第二、被拘禁者ヲ奪取シタルコトヲ要ス

本條ニ所謂、奪取トハ看守人又ハ護送者ヨリ被拘禁者ヲ奪ヒ取ル所爲ヲ謂フ換言スレハ看守人又ハ護送者ノ監視ノ範圍内ヨリ被拘禁者ヲ脱セシメテ自由ノ地位ニ置ク所爲ヲ云フ蓋シ本條單ニ奪取シタル者云々ト規定シ別ニ暴行、脅迫ヲ加ヘテ奪取シタル者ト規定セサルモ通常監視スル義務アル者ヨリ奪取スルニ就テハ多少暴行又ハ脅迫ノ手段ニ出ツルモノナルヲ以テ本條、殊更、暴行、脅迫ノ文字ヲ加ヘサルモ被拘禁者ヲ奪取スルニ該リ監視人ノ身體若クハ精神ヲ強制シテ奪取シタ

ルトキハ次條第二項ニ依リ論ス可キモノトス

以上ノ條件具備シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給

與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前記ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ被拘禁者ノ逃走ヲ補助スル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百四十六條同第四百四十七條ニ該當スル法文ヲ合シテ一條ト爲シタルモノナリ舊刑法、第四百四十六條ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器、其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シ云々ト規定シタルモ其逃走ノ方法ヲ指示スルノ所爲ハ逃走ヲ容易ナラシムル行爲ノ一例ニ過キス故ニ如斯規定スルハ却テ狭キニ失スルノ嫌アルヲ以テ本法ハ之ヲ逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ト改メタリ

(一) 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他、逃走ヲ容易ナラシム可キ行為ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ナルコト、第二逃走セシムル爲メ器具ヲ給與シ又ハ其他逃走ヲ容易ナラシメタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、法令ニ依リ拘禁セラレタル者タルコトヲ要ス

本罪ニ於ケル法令ニ依リ拘禁セラレタル者トハ前條規定ノ拘禁者ト同一ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシメタルコトヲ要ス

本條被拘禁者ヲ逃走セシムル目的トハ被拘禁者ヲ拘禁場ヨリ脱出セシムル希望ノ意思ヲ謂フ換言スレハ目的トハ總テ標的ノ定リタル意思ノ發動作用ヲ云フニ外ナラス此點ニ付テハ仍ホ第十六章及ヒ第十七章ニ至リ論ゼントス而シテ本條ニ所謂、器具トハ銃、鎗、合鍵、鑿、鑿、刀、劍等、總テ獄舎、獄具ヲ損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開クニ足ル可キ物件ヲ云フ故ニ是等ノ器具ヲ給與シテ破獄ノ所爲ヲ爲サシメ其他、破獄ノ方法、手段ヲ指示シ逃走ノ所爲ヲ容易ナラシメタルヲ要ス但シ茲ニ注意ス可キハ器具ヲ給與シ其他、逃走ヲ容易ナラシム可キ所爲ヲ爲シタル者ハ獨立ノ一罪ニシテ破拘禁者カ逃走シタルト否トヲ問ハス、故ニ此囚徒ヲ逃走セシムル罪ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ其

逃走ノ方法ヲ指示スルニ因テ成立スル罪ナリ囚徒カ逃走ニ著手スルト否トニ關係ナク又囚徒カ逃走ノ意思ヲ中止シタルト否トヲ問ハス本罪成立ストノ判例アリ而シテ逃走セシムル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ説明セス

(二) 前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪

本罪成立ニハ、第一被拘禁者タルコト、第二逃走セシムル目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、被拘禁者タルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、逃走セシムル目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコトヲ要ス

逃走セシムル目的ノ意義ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ茲ニ説明セス而シテ本條ニ所謂、暴行又ハ脅迫ヲ爲シトノ意義モ亦第九十九條ニ於テ説明シタル所ト同一ナリ例ヘハ看守人又ハ護送者ヲ毆打シ若クハ制縛シ其隙ニ乘シテ被拘禁者ヲ逃走セシムルカ如キ(暴行)又危害ヲ加フル狀ヲ示シ看守者又ハ護送者ノ意思ノ自由ヲ強制シ被拘禁者ヲ逃走セシムルカ如キ是ナリ而シテ被拘禁者ヲ逃走セシムル意思ヲ要スルコトモ亦説明ヲ要セスシテ明カナリ

以上ノ條件具備シタルトキハ(一)三年以下(二)三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ

逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ看守者又ハ護送者カ被拘禁者ヲ逃走セシムル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ看守ノ責任アル者カ被拘禁者ヲ逃走セシメタル場合ノ規定ニシテ舊刑法第四百八條ノ「囚

徒ヲ看守シ又ハ護送スル者、囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シトノ規定ト其立法趣旨

同一ナリトス

蓋シ是等看守者ハ拘禁者ヲ自ラ看守ス可キ義務アル者ナルヲ以テ看守ノ責任ナキ者ノ逃走セシメタ

ル場合ヨリ一層、其情狀、重キモノトス

本罪成立ニハ、第一被拘禁者ヲ看守スル者ナルコト、第二被拘禁者ヲ逃走セシメタルコトノ二條件

アルヲ要ス

第一、被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者ナルコトヲ要ス

看守又ハ護送スル者トハ職トシテ被拘禁者ヲ看守ス可キ職務ヲ有スル者ヲ云フ假令ハ監獄署ノ看

守ノ如キ又護送者トハ警察又ハ監獄若クハ裁判所等へ被拘禁者ヲ護送ス可キ職務ヲ有スル巡查、

憲兵又ハ看守等ノ如キ者ヲ云フニアリ但シ臨時、雇人タル車夫、馬丁ノ如キ者モ本條中ニ包含ス
ルヤ否ヤハ疑問ナリト雖モ法文、看守又ハ護送者トアルヲ以テ雇人ハ包含セスト解スルヲ正當ナ

第二、被拘禁者ヲ逃走セシメタルコトヲ要ス

前條ハ看守ノ責任アル者、以外ノ第三者ノ行爲ニ屬スルニ依リ被拘禁者逃走シタルト否トヲ問ハ

サルモ本條ハ逃走セシメタルトキニ始メテ犯罪ノ既遂ナルヲ以テ逃走セシメントシテ之ヲ遂ケサ

ルトキハ本罪ノ未遂ナリ是注意ス可キ點ナリ本條看守者又ハ護送者ハ被拘禁者ヲ逃走セシムル意

思アルヲ要ス故ニ若シ不注意ニ因リ逃走セラレタル場合ノ如キハ其過失ノ責任ヲ免レサルハ勿論

ナリト雖モ本條ニ依リ論ス可キモノニ非ス

以上ノ條件具備スルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノナリ

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ舊刑法ト同シク本章ノ罪ハ總テ其未遂罪ヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ

本章規定ノ罪ニ付キ總テ其未遂ノ所爲ヲ罰スル所以ノモノハ破獄、逃走ヲ企ツルカ如キ者ハ執レ

モ社會ニ對シテ虎ヲ野ニ放ツニ等シキ危險アルヲ以テ此等社會ノ危險ヲ豫防スル爲メ嚴罰スル趣

旨ニ外ナラス

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章、靜謐ヲ害スル罪ノ第三節中、罪人ヲ藏匿スル罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ本章ノ罪ニ對シ輕禁錮ノ刑ヲ科シタル爲メ學者ノ批難シタル所ナルヲ以テ本法ハ懲役ニ處スルコトト爲シ親族ヲ庇護スル爲メ餘義ナク犯シタル場合ニ限り罰セサルコトト改メタリ

- 二、舊刑法ハ罪證湮滅ノ罪ト題シ其規定スル所單ニ他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ罪證トナル可キ物件ヲ隱蔽シタル場合ノミヲ規定シタルニ依リ實際上、狹キニ失シタルヲ以テ本法ハ廣ク他人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪無罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シテ裁判權ヲ妨害シタル場合等ヲ罰スルコトト改メタリ

本章ハ(一)罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪(二)他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル罪ヲ規定シタリ

第三百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ罪人ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第五百十一條「犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上、一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フコトノ規定ヲ修正シタルモノナリ

本法ハ既ニ前章ニ於テ述ヘタル如ク舊刑法ノ囚徒ノ文字ハ之ヲ拘禁者ト改メタリ而シテ監視ニ付セラレタル者ヲ加ヘサルハ第一編、總則ニ於テ詳論シタル如ク監視制度ヲ全廢シタル結果ナリ
蓋シ本法ニ於テハ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ハ事態、極メテ輕微ナルヲ以テ其犯人ヲ藏匿又ハ

隠避スルモ之ヲ罰セス罰金以上ノ刑ニ處ス可キ罪ヲ犯シタル者ノミニ對シ本條ヲ適用スルコトト改メタリ是舊刑法ト異ナル點ナリトス

本罪成立ニハ、第一罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコト、第二藏匿シ又ハ隠避セシメタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコトヲ要ス

(一) 本條罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者トハ拘留科料以外ノ刑(即チ罰金懲役禁錮死刑等)ニ該當ス可キ罪ヲ犯シタル者ヲ總稱ス茲ニ注意ス可キハ本條罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ト規定シタルヲ以テ單ニ罰金以上ノ罪ヲ犯シタルトノ嫌疑ヲ受ケタルニ止マルトキハ本條ニ依リ論スルコトヲ得サルニ似タルモ此ノ場合モ仍ホ本條中ニ包含スルコト是ナリ(二) 拘禁中逃走シタル者トハ罪ヲ犯シ若クハ犯シタル者トシテ嫌疑ヲ受ケ拘禁中、脱獄逃走シタル者ヲ謂フ故ニ此拘禁中逃走シタル者中ニハ既決ノ囚人ハ勿論、縱令、罰金以上ノ罪ヲ犯ササルモ嫌疑ヲ受ケタル者ハ總テ包含スルモノトス

第二、藏匿シ又ハ隠避セシメタルコトヲ要ス

(一) 藏匿トハ自己ノ監視範圍ニ居留セシメ犯罪ノ檢舉ヲ免レシムル所爲ヲ謂フ故ニ罰金以上ノ刑ニ

該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中、逃走シタル者ナルコトヲ知テ自己ノ家屋ニ潜伏セシメタルトキハ勿論其他ノ場所ト雖モ自己ノ勢力範圍ニ潜伏セシメテ犯罪搜查權ノ發動ヲ妨ケタルトキハ本條ニ所謂藏匿ナリ(二) 隠避トハ犯人ノ發見又ハ檢舉ヲ免レシムル爲メ他ニ退去セシムル所爲ヲ謂フ故ニ罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコトヲ知テ犯罪搜查權ノ發動ヲ妨ケル爲メ旅費ヲ與ヘテ犯罪ノ地ヲ逃走セシメタル所爲ノ如キハ本條隠避ナリ要スルニ藏匿又ハ隠避ハ罪人ヲ保護シ若クハ援助スル所爲ヲ云フモノニテ孰レモ學說上ノ所謂事後ノ從犯タル所爲ナリ左レハ本條藏匿又ハ隠避ハ自ら進テ積極的ニ保護シ若クハ援助シタルコトヲ要ス左レハ若シ犯人カ逃走スルヲ見テ默過シ逃走ヲ容易ナラシメタルニ止マリ又ハ犯人自ら自己ノ邸内ニ潜伏シタルコトヲ見テ相當官署ニ申告セサル場合ノ如キハ未タ本條藏匿又ハ隠避ノ所爲アリト云フコトヲ得ス

茲ニ問題アリ本罪成立ニハ檢事ノ起訴以後ニ其罪人ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタルコトヲ要スルヤ否ヤノ問題はナリ本條、罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ云々ト規定シタルヲ以テ檢事ノ起訴以後ノ所爲タルヲ要スルニ似タリト雖モ余ハ檢事ノ起訴後ト否トヲ問ハス又犯罪搜查ニ著手シタルト否トヲ問ハス苟モ罰金以上ノ

刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ニ對シ其發見ヲ不能ナラシメ若クハ困難ナラシムル意思ヲ以テ藏匿又ハ隱避セシメタルトキハ本罪成立スト信スルモノナリ

本罪成立ニハ必ス罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者ナルコト又ハ拘禁中逃走シタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル意思アルコトヲ要ス故ニ犯罪人又ハ脱獄、逃走者ナルコトヲ知ラス自宅ニ同居セシメ若クハ旅費ヲ與ヘテ他ニ退去セシメタル場合ノ如キハ(其實犯人ナルモ又ハ拘禁中ノ逃走者ナルモ)本條ニ依リ論スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第四百條

他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若ク

ハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰

金ニ處ス

本條ハ證憑湮滅又ハ證憑ノ偽造變造ニ關スル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第五十二條「他人ノ罪ヲ免レンシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上、六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ヲ修正シタルモノナリ

舊刑法ハ單ニ罪證、隱蔽ノ場合ノミヲ規定シタルヲ以テ其適用上、狹キニ失シ極メテ不便ナリシニ依リ本法ハ廣ク他人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪、無罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造シタル證憑ヲ使用シタル場合ニ關スル規定ト改メタルコト既ニ述ヘタル如シ本條ハ(一)他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シタル罪(二)他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ偽造變造シタル罪(三)他人ノ刑事被告事件ニ關シ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一)他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シタル罪

本罪成立ニハ、第一他人ノ刑事被告事件ニ關スルコト、第二證憑ヲ湮滅シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、他人ノ刑事被告事件ニ關スルコトヲ要ス

本條他人ノ刑事被告事件トハ自己以外ノ者刑事被告人トシテ訴追セラレタル場合ヲ總稱ス故ニ自己ノ刑事被告事件ニ關シ利益ノ爲メ有罪ノ證憑ヲ湮滅シ又ハ自己ノ親族ニシテ其被告人ノ利益ノ爲メニ證憑ヲ湮滅セシメタル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス(次條參照)

第二、證憑ヲ湮滅シタルコトヲ要ス

證憑トハ證據徵憑ヲ謂フ而シテ證據トハ被告人ノ自白、公務員ノ作成シタル檢證調書、證據物件、

證人及ヒ鑑定人ノ供述等ヲ云フモノニシテ、**徵憑トハ被害者ノ告訴狀、盜難屆、被告人及ヒ共犯人ノ供述、參考人ノ供述等ヲ云フ故ニ本條證憑トハ是等證據ト徵憑トノ集合ヲ總稱ス**左レハ本條證憑湮滅トハ犯人ノ刑事被告事件ニ關スル證據、**徵憑ヲ不能ナラシメタル所爲ヲ謂フ**換言スレハ他人ノ刑事被告事件ニ關スル人證ト物證トヲ問ハス總テ證據、**徵憑ヲ不明ナラシメ又ハ亡失セシメタルコトヲ云フニアリ然ルニ舊刑法ハ他人ノ罪ヲ免レシメンコトヲ圖リ其罪證トナル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ト規定シ物件以外ノ證人又ハ犯跡等ヲ不明ナラシメタル場合ノ如キハ之ヲ罰スルコトヲ得サルノ不都合アリタルヲ以テ本法ハ廣ク他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ヲ湮滅シト改メ犯罪ノ痕跡ヲ失ハシムル所爲ハ總テ本條證憑ヲ湮滅シノ中ニ包含セシメタリ蓋シ茲ニ注意ス可キハ他人ノ刑事被告事件ナルトキハ結局、有罪ナルト無罪ナルトヲ問ハス總テ本條他人ノ刑事被告事件ナルコト是ナリ然レトモ茲ニ疑ノ存スルハ檢事ノ捜査中、未タ公訴ノ提起以前ニ於テ有罪、無罪ノ證憑ヲ湮滅シタルトキモ尙ホ本條ニ依リ論スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題是ナリ本條他人ノ刑事被告事件云々ト規定シアルヲ以テ檢事ノ起訴ナキ以前ハ未タ被告事件ト云フコトヲ得スト論スル者アリト雖モ余ハ既ニ罪ヲ犯シタル以上ハ犯罪捜査ニ著手シタルト否トヲ問ハス其存在スル證憑ヲ湮滅シタルトキハ本罪成立ス而シテ本罪モ亦他人ノ刑事被告事件ノ有罪、無罪ニ關スル證憑ナ**

ルコトヲ知テ不明ナラシメ又ハ亡失セシムル意思アルコトヲ要ス然レトモ他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ナルコトヲ知ラス犯罪ノ痕跡タル足跡又ハ血痕等ヲ亡失セシメタル場合ノ如キハ縱令有力ナル證憑ナルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス

(二) 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ偽造變造シタル罪

本罪成立ニハ、第一他人ノ刑事被告事件ニ關スルコト、第二證憑ヲ偽造、變造シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、他人ノ刑事被告事件ニ關スルコトヲ要ス

他人ノ刑事被告事件トハ自己以外ノ者刑事被告人トシテ訴追セラレタル場合ヲ謂フコト既ニ述ヘタルヲ以テ再說セス

第二、證憑ヲ偽造、變造シタルコトヲ要ス

本條證憑ノ偽造トハ他人ノ刑事被告事件ニ關シ、**虛構不實ノ證據、徵憑ヲ作爲スル所爲ヲ謂フ又證憑ハ變造トハ他人ノ刑事被告事件ニ關シ既ニ存在シタル證據、徵憑ヲ増減、變換スル所爲ヲ謂フ而シテ茲ニ所謂、證憑モ亦人證ト物證トヲ問ハス他人ノ刑事被告事件ニ關スル有罪、無罪ノ證據、徵憑ヲ總稱スルコト既ニ述ヘタルカ如シ例ヘハ犯罪當日ハ他所ニ宿泊シタルト偽リ宿帳ヲ偽造シ**

又ハ四月一日宿泊シタルヲ五月一日ト宿帳ヲ變造シタルカ如キ是ナリ而シテ他人ノ刑事被告事件ニ關スル證據ナルコトヲ知テ偽造、變造スル意思ヲ要スルコトハ明瞭ナルヲ以テ説明セス

(三) 他人ノ刑事被告事件ニ關シ偽造變造ノ證據ヲ使用シタル罪

本罪成立ニハ、第一他人ノ刑事被告事件ニ關スルコト、第二偽造、變造ノ證據ヲ使用シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、他人ノ刑事被告事件ニ關スルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ説明シタルヲ以テ再説セズ

第二、偽造變造ノ證據ヲ使用シタルコトヲ要ス

偽造、變造ノ證據ヲ使用スルトハ他人ノ刑事被告事件ニ關シ作爲シタル偽造變造ノ證據徵憑ヲ行使スル所爲ヲ謂フ而シテ本條、行使トハ刑事裁判權ヲ執行スル公務所又ハ公務員例ヘハ裁判所又ハ檢事局ニ對シ偽造又ハ變造ニ係ル證據徵憑ヲ提供シタルカ如キ是ナリ茲ニ注意ス可キハ本罪ニ於ケル偽造、變造ノ證據ノ使用トハ其、偽造、變造ニ係ル證據ヲ立證ノ用ニ供シタルコトヲ云フニ在リ故ニ本罪成立ニハ他人ノ刑事被告事件ニ關スル偽造變造ノ證據ナルコトヲ知テ當該公務所又ハ公務員ニ對シ提供シタルコトヲ要スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)(二)(三)共ニ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第二百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益

ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罪セス

本條ハ本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ且ツ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ罰セサルコトヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第一百五十三條「前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス」トノ規定ト同一趣旨ノ規定ナリ唯本法ハ前二條ニ於テ述ヘタル如ク廣汎ナル規定ト改メタル結果、本條ヲ以テ縱令、被告人又ハ逃走者ノ親族タリトモ其犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰スルモノトス故ニ本條、前二條ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ且ツ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタル場合ニ限り之ヲ罰セサルコトヲ規定シ其是ヲ罰セサル理由ハ立法者カ親族間ノ情誼上、餘義ナク犯シタルモノト認メタルニ外ナテス而シテ本條ニ所謂、親族トハ民法、第四編、第七百二十五條六親等内ノ血族、配偶者、三等親内ノ姻族ヲ云フモノトス(民法第七百二十五條乃至第七百二十八條參照)

第八章 騷擾ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章、靜謐ヲ害スル罪ノ第一節、兇徒聚衆ノ罪ヲ修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ本章ノ罪ヲ兇徒聚衆ノ罪ト題シタルモ其用語穩當ナラサルヲ以テ本法ハ之ヲ騷擾ノ罪ト改メタリ

二、舊刑法ハ本罪ノ目的、不明確ナリシモ本法ハ廣ク内亂ノ目的以外ノ目的ヲ以テ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ニ總テ適用スルコトト改メタリ

三、舊刑法ハ暴動ノ際、人ヲ殺死シ若クハ家屋、船舶、倉庫等ヲ燒燬シタル場合ヲ規定シタルモ本法ハ本章ニ之ヲ規定スル必要ナキヲ以テ特ニ規定セス

本章ハ(一)多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪(二)暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサル罪ヲ規定シタルモノナリ

第六百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ

區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百二十七條「兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス」其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス」附和隨行シタル者ハ二十圓以上、二十圓以下ノ罰金ニ處ス」トノ規定ヲ修正シタルモノナリ

舊刑法ハ暴動ヲ爲ス場合ヲ例示シタルモ特ニ例示スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ト改メタリ又舊刑法ハ本章暴動罪ノ教唆者ヲ處罰シタルモ本法ハ教唆者ハ之ヲ罰スル必要ナシトシテ規定セス蓋シ本罪ニハ必ず一定ノ目的ヲ要スルモノニ非スト雖モ彼ノ村祠ノ祭

禮ニ於テ多衆與ニ乘シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得サル立法上ノ精神ナリ(草案理由書參照)

本罪成立ニハ、第一多衆聚合シタルコト、第二暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、多衆聚合シタルコトヲ要ス

既ニ一言シタル如ク本罪ハ何等ノ目的ヲ問ハス之ヲ達スル爲メ内亂罪、以外ノ目的(即チ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ潛竊シ其他、朝憲ヲ紊亂スルコト以外ノ目的)ヲ以テ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ本罪成立ス故ニ例ヘハ從來、往々行ハレタル町村民、合同シテ竹槍、蓆旗ヲ押立テ豪家ニ押寄せ賑賑ヲ強要シタル百姓一揆ノ如キ或ハ水利其他ノ事件ニ付キ請願セントシテ多衆合同シテ公務所又ハ公務員ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ノ如キ是ナリ要スルニ内亂罪ノ目的以外ニ於テ一定ノ目的ヲ有スル多衆聚合ハ總テ本條、多衆聚合ノ目的ナリトス(第二章内亂ノ罪參照)故ニ近カキハ彼ノ東京日比谷騷擾事件及ヒ足尾銅山騷擾事件ノ如キハ其好適例ナリ蓋シ多衆聚合トハ二人以上、數十數百人ノ聚合ヲ謂フモノナリト雖モ何人以上ヲ以テ多衆聚合ト爲スヤハ事實上ノ問題ナリ然レトモ法文ニ依リテモ必ず首魁、指揮者、附和隨行者等、數十人以上ノ團體ヲ要スルコト明ナリ

第二、暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコトヲ要ス

暴行トハ不法ノ腕力ヲ使用スル所爲ヲ謂ヒ脅迫トハ人ノ自由ヲ強制スルニ足ル害惡ノ通知ヲ謂フコトハ既ニ本編、第五章ニ於テ詳論シタルヲ以テ再說セス要スルニ本罪ハ多衆合同ノ勢力ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ加フルニ因テ成立スル罪ナリ然レトモ茲ニ注意ス可キハ縱令、數人共同シテ暴行脅迫ヲ加フルモ財物ヲ奪取スル目的ニ出タル彼ノ強竊盜罪ノ如キ法令上、特ニ明文ヲ設ケタル場合ハ本條多衆聚合罪ニ非サルコト是ナリ而シテ本罪成立ニハ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲ス意思アルヲ要スルコト明ナルヲ以テ別ニ說明セス

以上ノ條件、具備シタルトキハ、一首魁即チ主謀者ハ一年以上、十年以下ノ懲役又ハ禁錮、二他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ卒先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上、七年以下ノ懲役又ハ禁錮、三附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令

ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ多衆聚合シテ公務員ノ解散命令ヲ受ケ仍ホ解散セサル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第三百二十六條「兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上、三年以下ノ重禁錮ニ處ス」附和隨行シタル者ハ二圓以上、五圓以下ノ罰金ニ處ス」トノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ殆ト同一ナリ唯本條教唆者ヲ加ヘサルハ前條ニ於テ一言シタル如ク之ヲ處罰スル必要ナキニ因ルモノトス

本罪成立ニハ、第一暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シタルコト、第二當該公務員ヨリ解散命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シタルコトヲ要ス

本條暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シタルコトトハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ或ル一定ノ目的ヲ達スルコトヲ謀リ多衆聚合シタル所爲ヲ謂フ要スルニ前條ハ多衆聚合シテ既ニ暴行又ハ脅迫ニ著手シタル場合ヲ規定シ本條ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ或ル一定ノ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シタルニ止マル場合ニ關スル規定ナリ換言スレハ本條ハ前條多衆聚合罪ノ豫備的行爲ニ著手シタル場合ナリ

第二、當該公務員ヨリ解散命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルコトヲ要ス

當該公務員ヨリ解散命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルコトトハ不穩ノ集會ニ對シ解散ヲ命スル行政警察權ヲ有スル官吏例ヘハ府縣知事、警視總監、警部長、郡長、警部、其

他、特別法令ニ依リ權限ヲ有スル公務員ノ説諭ヲ三回以上、受クルモ仍ホ解散セサルコトヲ謂フ故ニ縱令、公務員ナルモ解散ヲ命令スル職權ナキ官吏ノ説諭ヲ受ケ解散セサル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス之注意ス可キ點ナリ而シテ本條解散命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セストハ解散ノ命ヲ三度以上受ケ離散セサル不作爲ヲ謂フコト明瞭ナルヲ以テ別ニ論セス但シ確定成案ニハ當該公務員ノ命令ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハトアリタルヲ衆議院ニ於テ三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハト修正シタルモノナリ
本罪ハ當該公務員ヨリ解散命令ヲ三回以上受クルモ仍ホ解散セサル意思ヲ以テ解散セサルニ因テ成立スル罪ナルヲ以テ公務員ノ説諭ヲ一回又ハ二回受ケ其命ニ服シ解散シタルトキハ本罪成立セサルコト論ヲ俟タス

以上ノ條件具備スルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

總論

本章ハ舊刑法、第三編、第二章、財産ニ對スル罪ノ第七節放火及ヒ失火ノ罪ヲ修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、舊刑法ハ本章放火及ヒ失火ノ罪ヲ他ノ財産ニ關スル罪中ニ規定シタルモ元來、放火及ヒ失火ノ罪ハ寧ロ公共ニ危害ヲ及ホス罪ナルヲ以テ本法ハ是ヲ同種ノ罪ト共ニ規定スルコトト爲シタリ
- 二、舊刑法ニ於テモ本章放火、失火ノ罪ハ稍ヤ詳細ニ規定シタルモ仍ホ脫漏セル點尠ナカラサルノミナラス其規定スル所頗ル明瞭ヲ關キタルヲ以テ本法ハ其不備關點ヲ補修シタリ
- 三、舊刑法ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタル者ト人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ニ放火シタル者トヲ區別シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ナルトキハ縱令、放火ノ當時、偶々人ノ現在スルコトアルモ人ノ住居シタル家屋トシテ罰スルコト能ハサル不都合アリタルヲ以テ本法ハ斯ル場合ハ人ノ住居スル家屋ト同一ニ罰スルコトト爲シタリ
- 四、舊刑法ハ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己所有ノ家屋其他ノ物件ニ對シ放火シタル場合ノ規定ヲ關キタルモ差押ヲ受ケ物權ヲ設定シ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ノ如キハ其物上ニ有スル他人ノ權利ヲ害スルコト他人ノ所有物ニ放火シタルト異ナラサルヲ以テ本法ハ此等ノ場合ニ關スル規定ヲ新設シタリ

五、舊刑法ハ火災ノ際、鎮火用ノ物件ヲ隱匿シ又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル所爲ヲ罰スル規定ヲ關キタルモ斯ル所爲ハ是カ爲メニ社會ノ靜謐ヲ害スルコト大ナルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ罰スル規定ヲ設ケタリ

六、舊刑法ハ火ヲ失シ他人ノ家屋、財産ヲ燒燬シタル場合ノミヲ罰シ自己ノ家屋財産ナルトキハ之ヲ罰セザリシモ靜謐ヲ害スル點ニ就テハ自己ノ物ト他人ノ物トヲ區別ス可キ理由ナキヲ以テ本法ハ自己ノ家屋、財産ヲ燒燬シタル場合ニ於テモ仍ホ之ヲ罰スルコトト爲シタリ

本章ハ(一)火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪(二)火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪(三)火ヲ放テ(一)ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル罪(四)ニ記載シタル自己ノ所有物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル罪(五)ノ罪ヲ犯シ因テ(一)ニ記載シタル物ニ延燒セシメタル罪(六)放火罪ノ未遂罪(七)放火罪ノ豫備罪(八)火災ノ際、鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル罪(九)自己ノ所有ニ係ル差押物、物權ヲ負擔シタル物若クハ保險ニ付シタル物ヲ燒燬シタル罪(十)他人ノ物ニ對スル失火ノ罪及ヒ自己ノ所有物ニ對スル失火ノ罪(十一)火藥、汽鐘其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメタル罪(十二)瓦斯電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ

流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル罪等ヲ規定シタリ

第百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、

電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ

懲役ニ處ス

本條ハ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百二條「火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス」トノ規定ト同第四百五條「火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶、汽車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス」トノ規定ヲ合シタルモノナリ

舊刑法ニ於テハ家屋、船舶、汽車ノ燒燬ノミニ付テ規定シ是ト殆ト同一ナル電車及ヒ鑛坑等ヲ保護セザリシヲ以テ本法ハ更ニ電車、鑛坑ヲ加フルコトニ爲シタリ

而シテ舊刑法ハ本罪ニ對シ單ニ死刑ニ處スト規定シタルニ依リ其刑ノ範圍狹キニ失シ情狀憐ム可キ者ニ對シテモ仍ホ無益ノ酷刑ヲ科スル場合ヲ生シ實際家ノ極メテ不便ヲ感シタル所ナルヲ以テ本法ハ刑ノ範圍ヲ擴張シ其情狀ニ應シ適宜ノ刑ヲ科スルコトト爲シタリ

本罪成立ニハ第一、火ヲ放タルコト、第二現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑タルコト、第三燒燬シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ放タルコトヲ要ス

火ヲ放タルコトトハ放火ノ目的物自體若クハ其目的物ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタル所爲ヲ謂フ詳言スレバ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑自體若クハ是等ノ物ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタル所爲ヲ云フニアリ例ヘハ人ノ住居スル家屋ノ軒場ニ火ヲ移シ又ハ其軒下ニ積置キタル芝草等ニ火ヲ移シタル場合ノ如キ是ナリ

第二、現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑タルコトヲ要ス

(一)現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物トハ木造ト石造ト煉瓦造トヲ問ハス總テ人ノ生活ノ本據トシテ常住起臥ノ爲メ築造シタル家屋又ハ臨時人ノ住居シタル家屋ヲ謂フ本法ニ於テハ既ニ一言シタル如ク住居ニ使用スル目的ヲ以テ築造シタル家屋ト否トヲ區別セス現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在シタルトキハ其家屋ノ大小種類ノ如何ヲ問ハス本條ニ所謂、建造物ナリ左レハ人ノ住居ニ使用スル目的ヲ以テ建築セサルモ若シ放火ノ當時、人ノ現在シタルトキハ總テ人ノ

現在シタル建造物ナリト是舊刑法ト異ナル點ナリ(二)汽車、電車、トハ陸上ニ於テ人及ヒ貨物ヲ運搬スルコトヲ目的トスルモノニシテ蒸氣力又ハ電氣力ニ因テ運轉スル車輛ヲ謂フ(鐵道營業法)然レトモ本條特ニ汽車、電車ト特定シタルヲ以テ夫ノ人車、馬車ノ如キハ本條中ニ包含セス(三)艦船トハ水上ニ於テ人及ヒ貨物ヲ運搬スルコトヲ目的トスルモノニシテ蒸氣力其他ノ機械力ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ故ニ鐵製ト木製トヲ問ハス軍艦商船其他ノ運送船ハ總テ本條艦船中ニ包含ス(四)鑛坑トハ金銀、銅鐵、鉛石炭、石油其他、鑛業條例第二條ニ規定シタル總テノ鑛物ヲ採掘スル坑口ヲ謂フ(明治二十三年法律第八十七號鑛業條例參照)

茲ニ注意ス可キハ本條ハ例示的規定ニ非スシテ制限的規定ナルコト是ナリ

第三、燒燬シタルコトヲ要ス

燒燬トハ文字自ラ示ス如ク火力ヲ以テ目的物ヲ燒盡スルコトヲ謂フ然レトモ此燒燬ノ意義ニ就テハ從來、頗ル議論ノアリタル所ナリ或ハ目的物、全部ヲ燒盡シタルコトヲ要スト論シ或ハ目的物一部ノ燒失モ仍ホ燒燬ナリト論スルモノアリ素ヨリ文字上ノ意義ニ就テハ目的物全部ノ燒盡ニアラサレハ燒燬ト云フコトヲ得サルニ似タルモ法律上ノ意義ニ就テハ放火ノ目的物全部燒失セサルモ仍ホ燒燬ト云フコトヲ得ヘシトハ近時學者ノ通說ナルモ如何ナル程度ノ燒失ヲ以テ燒燬ト爲ス

ヤ換言スレハ本章放火罪ノ既遂未遂ヲ定ムル標準如何ニ就テハ頗ル議論ノアル問題ナリ要スルニ本條、放火罪ノ既遂トハ放火ノ目的物其大部分燒失シテ用法ヲ失フ程度ニ至リタル時ヲ謂フニアリ仍ホ此點ニ就テハ第一百三十三條ニ至リ詳論セントス

而シテ本條、建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑トハ國家ノ所有ニ屬スルト私人ノ所有ナルトヲ問ハス茲ニ問題アリ本條放火ヲ放テ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル場合ニ其現在シタル人ヲ死傷ニ致シタルトキハ如何ニ處分ス可ヤノ問題是ナリ本法ハ他ノ條章ニ於テ本問ト同一場合ニ於テハ特ニ刑ヲ設ケ又ハ傷害罪ト比較シ重キニ從テ處斷ス可キコトヲ規定シナカラ第百二十四條、第百二十六條、第百四十五條、第百八十一條、第百九十六條、第二百五條、第二百十四條、第二百十六條、第二百十九條、第二百二十一條此點ニ付キ本章中別ニ規定ナキモ放火ノ當時、人ノ現在スルコトヲ知テ放火シタル結果、人ヲ死傷ニ致シタルトキハ本條、放火罪ト傷害罪トノ二罪併發ナリ若シ其現在スル人ヲ燒死セシムル目的ヲ以テ放火シテ死傷ニ致シタルトキモ本條、放火罪ト殺人罪トノ二罪併發ナルコト論ヲ俟タス而シテ本罪成立ニハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑タルコトヲ知テ燒燬スル意思アルヲ要ス若シ火ヲ放ス意思ナキ行爲ニ基ク燒燬ナルトキハ失火罪ヲ

構成スルコトアルモ本條、放火罪ニ非ス是、注意ス可キ點ナリ獨逸刑法第三百六條ハ故意ニ左ニ掲クル物件ヲ燒燬シタル者ハ放火ノ罪トシ云々ト規定シ明ニ一定ノ目的ヲ燒燬スル意思ヲ要スルコトト規定シタリ

以上ノ條件具備シタルトキハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス茲ニ一言ス可キハ本法ハ保護主義ニ基キ各種ノ罪ニ對スル科刑ノ範圍ハ通常、最重刑死刑ナルトキハ最短期ヲ五年若クハ三年ト爲シ最重刑無期ナルトキハ最短期ヲ三年ト爲シ其犯情ニ因リ裁判所ニ量定ヲ一任シタルコト是ナリ

第九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦

船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共

ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

本條ハ人ノ住居セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法第四百三條、火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス、トノ規定同第四百五條、第二項、其人ヲ乘載セサル船舶、汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス、トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ前條ト同一ナルモノノ現在セサル汽車、電車ハ次條ニ入ル可キモノナルヲ以テ本條中ニ規定セス而シテ第二項ハ舊刑法、第四百七條、火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス、トノ規定ニ本法ハ前條ト同一理由ニ基キ艦船ト鑛坑トヲ加ヘタルモノナリ

本條ハ(一)火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル他人ノ建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪(二)火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル自己、所有ノ建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル他人ノ建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪

本罪成立ニハ、第一火ヲ放タルコト、第二現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル他人ノ建造物、艦船若クハ鑛坑タルコト、第三燒燬シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ放タルコトヲ要ス

火ヲ放タルコトトハ放火ノ目的物若クハ其目的物ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタル所爲ヲ謂フコト既ニ前條ニ於テ説明シタルヲ以テ再説セス

第二、現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物、艦船若クハ鑛坑タルコトヲ要ス

(一) 現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物トハ人ノ生活本據トシテ起臥常住セス又ハ現ニ人ノ在住セサル家屋ヲ謂フ故ニ明屋又ハ人ノ住居用ニ築造セサル神社、佛閣其他、土藏、物置等ノ如キハ本條ニ所謂、人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物ナリ左レハ若シ放火ノ當時、自己以外ノ他人ノ住居ニ使用シ又ハ他人ノ現在シタルトキハ縱令、人ノ生活本據トシテ築造セサル建築物ナルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス(二) 艦船若クハ鑛坑ノ意義ニ就テハ既ニ前條ニ於テ述ベタルヲ以テ再説セス
以上、現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物、艦船若クハ鑛坑ハ必ス他人ノ所有ニ係ルコトヲ要ス若シ自己ノ所有ナルトキハ本條第二項ニ依リ論ス可キモノトス是、本條件中、特ニ他人ノ文字ヲ加ヘタル所以ナリ

第三、燒燬シタルコトヲ要ス

燒燬ノ意義ニ就テモ既ニ説明シタルヲ以テ再説セス茲ニ問題アリ本條、火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ

使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル場合ニ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ如何ニ處分ス可キヤノ問題はナリ人ノ現在スルコトヲ知ラス人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建築物、艦船若クハ鑛坑ト信シテ放火シテ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ本條、放火罪ト過失傷害罪トノ二罪併發ナリ

(二) 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル自己所有ノ建築物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪

本罪成立ニハ、第一火ヲ放タルコト、第二現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル自己所有ノ建築物、艦船若クハ鑛坑タルコト、第三燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ放シタルコトヲ要ス

放火ノ意義ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ贅セス

第二、現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル自己、所有ノ建築物、艦船若クハ鑛坑タルコトヲ要ス

本條第一項ハ他人ノ所有ニ係ル建築物、艦船若クハ鑛坑ノ燒燬シタル場合ニ關スル規定ナルモ本

項ハ自己ノ所有ニ係ル建造物、艦船鑛坑ヲ自ラ燒燬シタル場合ニ關スルノ差異アルニ止マリ其他
ハ第一項ト同一ナルヲ以テ別ニ論セス

第三、燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本條第一項ハ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタルトキハ直ニ放火罪成立スルモ本罪ハ自己ノ所有ニ係ル人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ナルヲ以テ之ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルトキニ非サレハ罰セサルモノトス是注意ス可キ點ナリ而シテ本項ニ所謂、公共ノ危險ヲ生セシメタルコトハ公衆ニ危懼ノ念ヲ抱カシムル所爲ヲ謂フニ在リ仍ホ此點ニ付テハ次條以下ニ至リ詳論セントス以上ノ條件具備シタルトキハ(一)罪ハ二年以上ノ有期懲役(二)罪ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險

ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法第四百四條「火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草、肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス」トノ規定ト同第四百六條「火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草、竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタルモノハ輕懲役ニ處ス」トノ規定ヲ合シテ修正シタルモノナリ

本條第一項ハ前二條ニ記載シタル以外ノ物件ニ放火シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル場合ニ關シ第二項ハ自己ノ所有ニ係ル本條第一項記載ノ物ヲ燒燬シタル場合ニ關スル規定ナリ

元來、自己ノ所有物ハ之レヲ自由ニ處分スルコトヲ得可キモノナルヲ以テ燒燬スルモ之ヲ罰スルコトヲ得サルニ似タリ然レトモ火ヲ放テ物ヲ燒燬スルカ如キハ社會ノ靜謐ヲ害スル行爲ナルヲ以テ本法ハ特ニ罰スル規定ヲ設ケタルモノナリ

本條ハ(一)火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル罪(二)火ヲ放テ自己ノ所有物ニ係ル前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル罪

本罪成立ニハ第一、火ヲ放テタルコト、第二前二條ニ記載シタル以外ノ物タルコト、第三燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ放チタルコトヲ要ス

本條件ハ前二條ニ於テ説明シタル所ト同一ナルヲ以テ別ニ贅セス

第二、前二條ニ記載シタル以外ノ物タルコトヲ要ス

前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタルコトハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑又ハ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑以外ノ物ヲ燒燬シタルコトヲ謂フ換言スレハ前二條ニ記載シタル以外ノ有體物ヲ燒燬シタル場合ヲ總稱ス左レハ本條ニ所謂、物トハ民法第八十五條ノ有體物ニシテ同第八十六條ノ動産、不動産等ヲ謂フ故ニ前二條ニ包含セサル他人所有ノ汽車、電車、人車、鐵道、馬車、人力車、其他廢屋及ヒ柴草、肥料等ヲ貯フル屋舎又ハ山林ノ竹木、田野ノ穀麥等ノ如キ其他、有ニル有體物ハ其公有ナルト私有ナルトヲ問ハス總テ本條、物中ニ包含スルモノトス

第三、燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本條、因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルハ火ヲ放テ前二條ニ例示シタル以外ノ物ヲ燒燬シ爲メニ公衆ニ危險ノ念ヲ抱カシメタル所爲ヲ謂フ故ニ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬スルモ因テ公共ノ危險ヲ生セシメサルトキハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス如何トナレハ本條第一項特ニ前二條ニ記

載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處スルト規定シタルハナリ然レトモ斯ル場合ハ火力ニ因リ他人ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者トシテ第四十章毀棄罪ニ依リ論スルノ外ナシ第十五議會ニ提出シタル草案第二百二十九條ハ本項ノ場合ヲ單ニ火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處スト規定シテ其第二項ヲ以テ前項ノ物、自己ノ所有ニ係ルトキハ放火ノ爲メ公共ノ危險ヲ生シタルトキニ限り一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處スルト規定シ他人ノ物ヲ燒燬シタルトキハ公共危險ノ有無ヲ問ハス罰スル主義ナリシヲ確定成案ニ至リ本條ノ如ク改メタリ蓋シ本條公共ノ危險トハ必スシモ他人ノ財産ニ害ヲ及ホシタルコトノミヲ意味スルモノニ非ス火ヲ放テ物ヲ燒燬スル所爲自體、既ニ公共的危險行爲ナルニ因リ一束ヲ燒燬スルモ時ト場所ニ因テ公共ノ危險ヲ生スルコトナキニ非サレハ公共危險ノ有無ハ實際ニ臨ミ決ス可キ事實上ノ問題タリ左レハ前二條ニ規定シタル他人ノ物ノ燒燬ハ當然公共ノ危險ヲ生シキカ故ニ殊更ニ本條件ニ付規定スル所アラサルモ其物自體ノ燒燬ノミニテハ當然危險ヲ生セサル場合ニ於テハ公共ノ危險ヲ生シタルトキニ限り罰ス可キコトヲ特記スルノ必要アルヨリ斯クハ規定シタルナリ

(二) 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ自己ノ所有ニ係ル物ヲ燒燬シタル罪

本罪成立ニハ、第一火ヲ放チタルコト、第二前二條ニ記載シタル以外ノ自己ノ所有ニ係ル物タルコト、第三燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ放チタルコトヲ要ス

本條件ハ既ニ屢々説明シタルヲ以テ別ニ贅セス

第二、前二條ニ記載シタル以外ノ自己ノ所有ニ係ル物タルコトヲ要ス

前二條ニ記載シタル以外ノ物ノ意義ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ再說セサルモ本條第一項ハ他人ノ所有ニ係ルモノヲ燒燬シタル場合ニ關シ本項ハ自己ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ニ關スル規定タルノ差異アルニ過キス

第三、燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ要ス

既ニ一言シタル如ク自己ノ所有物ヲ燒燬スルハ一種ノ處分行爲ナルヲ以テ之ヲ罰スルハ甚タ酷ニ失スルノ嫌ナキニ非スト雖モ火ヲ放チ物ヲ燒燬スルカ如キハ公衆ニ不安ノ念ヲ抱カシムル所爲ニシテ稍モスレハ他ニ延燒スルノ虞アルニ因リ特ニ自己ノ所有物ナルモ之ヲ燒燬シタルトキハ本條ニ依リ罰スルモノトス然レトモ如何ナル場合ヲ以テ其物ノ燒燬カ公衆ノ危險ヲ生スルモノナルヤハ時ト場所ニ因ル事實上ノ問題ナリ一例ヲ舉クレハ人家稠密ノ場所ニ於テ自己所有ノ塵芥其他

ノ物ヲ堆積シテ燒燬シ他人ヲシテ火事ト誤認セシメタル場合ノ如キハ本條ニ所謂、公共ノ危險ヲ生セシメタルモノナリ左レハ極メテ少量ナル塵芥ヲ燒燬シタル場合ノ如キハ未タ以テ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノト云フコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)罪ハ一年以上十年以下ノ懲役(二)罪ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第一百十一條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八條又ハ

第九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ

懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ自己ノ所有物ヲ燒燬シ因テ他人ノ物ニ延燒セシメタル場合ノ處分ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ナリ即チ本條第一項ハ第九條第二項ニ規定シタル自己ノ所有ニ係リ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シ因テ第八條現ニ人

ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑同第百九條現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ニ延燒セシメタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キコトヲ規定シ第二項ハ第百八條第百九條第一項ニ規定シタル物以外ノ自己ノ所有物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメ第百八條第百九條第一項記載以外ノ他人ノ物ニ延燒セシメタル場合ハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

蓋シ本條ハ孰レモ自己ノ所有物ヲ燒燬スル意思ヲ以テ放火シタル結果他人ノ所有物ニ延燒シタル場合ナルカ故ニ其刑輕シト雖モ若シ初メヨリ他人ノ物ニ延燒セシムル意思ヲ以テ自己ノ家屋其他ノ物ニ放火シ遂ニ延燒セシメタルトキハ其目的物ノ區別ニ從ヒ第百八條、第百九條第一項、第百十條第一項ノ罪成立スルコト論ヲ俟タス

第百十二條 第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ第百八條ノ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪、第百九條ノ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル罪ノ未遂罪ハ之ヲ處罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ如何ナル程度ニ達シタルトキヲ以テ第百八條、第百九條、放火罪ノ既遂ト爲スヤハ既ニ第百八條ニ

於テ一言論シタル如ク從來頗ル議論ノアリタル所ナリ、今其ノ學說ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一說、放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタルトキハ本罪ノ既遂ナリト

第二說、放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件自體ニ傳火シタルトキハ本罪ノ既遂ナリト

第三說、放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件火勢上、當然、燒失ス可キ狀況ニ達シタルトキハ本罪ノ既遂ナリト

第四說、放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件ノ大部分、燒失シ現形ヲ亡失シテ其用法ヲ失ヒタルト

キハ本罪ノ既遂ナリト

第一說ハ放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタルトキハ放火罪ノ既遂ナリト云フニ在レトモ元來、放火罪トハ火ヲ放テ或ル一定ノ目的物ヲ燒燬スル所爲ヲ云フモノナルヲ以テ第一說ノ如ク其目的物ニ傳火ス可キ媒介物ニ火ヲ移シタルニ止マルトキハ未タ燒燬ノ條件ニ達セサルヲ以テ本罪ノ既遂ナリト云フコトヲ得ス又第二說ハ放火罪ノ目的物タル家屋其他ノ物件ニ自體ニ傳火シタルトキハ本罪ノ既遂ナリト云フニアレトモ其傳火ハ放火ノ所爲ニ著手シタリト云フコトヲ得可キモ未タ本罪、構成條件タル燒燬ノ結果ヲ生セシメタルモノニ非サルヲ以テ目的物、自

體ニ傳火シタルニ止マルトキハ第一説ト等シク犯罪ノ既遂ナリト云フコトヲ得ス、第三説放火罪ノ目的物タル家屋、其他ノ物件、火勢上、當然、燒失ス可キ狀況ニ達シタルトキハ最早、犯罪、既遂ノ時期ニ近カシト雖モ尙ホ消防、其他ノ障礙ニ因リ燒失セサルコトアレト目的物、自體ノ性質上、其用法ヲ失ハサルトキハ未タ一概ニ犯罪ノ既遂ナリト斷定スルヲ得ス第四説ハ放火ノ目的物タル家屋、其他ノ物件ノ大部分燒失シ其用法ヲ失シタルトキヲ以テ放火罪ノ既遂ト爲スニ在リテ放火及ヒ燒燬ノ條件共ニ具備スルヲ以テ最モ正當ナル見解ナリト信ス但シ實際ノ判例ハ從來、第三説ナルカ如シ、放火罪完成ノ時期ハ其建造物全部ヲ燒盡シタル場合ニ始メテ完成スルニ非ス苟モ建造物ニ移リタル火カ犯人使用ノ燃燒物ノ火力ヲ籍ラス獨立シテ燃燒作用ヲ繼續シ得ヘキ狀態ニ在ルトキハ實際燒燬シタル部分ノ大小廣狹ヲ問ハズ犯罪ハ此時ニ於テ完成ストノ判例アリ

第一百三十三條 第一百八條又ハ第一百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ第一百八條及ヒ第一百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其放火ノ豫備ヲ爲シタル者ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

第一百八條及ヒ第一百九條第一項ニ規定シタル建造物、艦船、鑛坑等ハ人ノ住居シ若クハ現在スル處アルノミナラス最モ重要ナル財物ナルヲ以テ是等ノ物ニ放火スル目的ヲ以テ其準備ヲ爲スカ如キハ事、極メテ危險ナルニ由リ其準備行為ヲ罰シテ大害ヲ未然ニ防止スルモノトス然ラハ本條、放火罪ノ豫備トハ如何ナル所爲ヲ云フカハ一概ニ論定スルコトヲ得サル事實問題ナリト雖モ要スルニ放火ハ所爲ニ接著シタル豫備の行為ヲ謂フ一例ヲ舉クレハ家屋其他ノ物ニ對シ放火スル目的ヲ以テ媒介物ニ石油ヲ注シ家屋其他ノ物ノ存在スル場所ニ到リタル場合ノ如キ是ナリ如斯、其豫備ノ範圍、極メテ廣汎ナルヲ以テ本條ハ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得ト規定シ其刑モ亦極メテ輕ク規定スルコトト爲シタリ、例ヘハ離婚其他ノ原因ニヨリ嫉妬ノ餘リ前後ノ思慮ナク放火セント準備シタル場合ノ如キハ本條但書ニ依據シ情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得可キモノトス

第一百四十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ火災ノ際、鎮火ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

從來、火災ノ際、其鎮火ヲ妨害シタル實際問題、往々生シタルヲ以テ本法ハ必要上、本條ヲ新設シ

タルモノナリ本罪成立ニハ、第一火災ノ際タルコト、第二鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、火災ノ際タルコトヲ要ス

本條、火災ノ際トハ放火ト失火トヲ問ハサルハ勿論、天災、地變ニ基ク火災ヲモ包含スルモノトス

第二、鎮火用ノ物ヲ隠匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタルコトヲ要ス

(一)鎮火用ノ物トハ消防用ノ機械、其他ノ器具ヲ總稱スルモノニテ、隱匿トハ既ニ本編、第七章ニ於テ述ヘタル如ク他人ノ發見ヲ妨クル所爲ヲ謂フニ外ナラス、(二)損壞トハ鎮火用ノ物件タル機械、其他ノ器具ヲ物質的ニ破損シ其用ヲ爲サザラシメタル所爲ヲ謂フ、(三)其他ノ方法ヲ以テ妨害シタル者トハ火災ノ消防ヲ妨クル所爲ノ如キ是ナリ例ヘハ水道ヲ堰キ止メ水ヲ流下セシメス若クハ消防夫ノ通行ヲ妨ケタル所爲ノ如キ是ナリ蓋シ火災ニ臨ミ鎮火用ノ物件ヲ隠匿シ又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨クルカ如キ所爲ハ最モ惡ム可キ所爲アルヲ以テ嚴罰スル必要アリ

本罪成立ニハ火災ノ際、鎮火用ノ物件ナルコトヲ知テ隱匿シ又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害スル意思アルヲ要ス若シ其意思ナク燒燬スルヲ虞レテ他ニ運搬シ又ハ鎮火ノ爲メニ使用シテ損壞シタル場合ノ如キハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス

以上ノ條件具備スルトキハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處ヌ可キモノトス

第一百五條 第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所

有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

本條ハ差押ヲ受ケ物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ燒燬シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本罪成立ニハ、第一自己ノ所有ニ係ル第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物ナルコト、第二差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノタルコト、第三燒燬シタルコトヲ要ス

第一、自己ノ所有ニ係ル第九條第一項及ヒ第十條第一項ニ記載シタル物タルコトヲ要ス

火ヲ放テ自己ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ト雖モ若シ其物カ差押ヲ受ケ又ハ物權ヲ設定シ或ハ賃貸借ノ目的物トナリ或ハ保險ニ付シタルモノナルトキハ之ニ因テ其物上ニ有スル他人ノ權利ヲ害シ損害ヲ被ラシムルコト他人ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ト同一ナルヲ以テ本法ハ特ニ本條ヲ新設シ他人ノ物ヲ燒燬シタル場合ト同一ニ處分スルコトト爲シタリ蓋シ本條ニ所謂第九條第一項、第

百十條第一項ニ記載シタル物トハ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑其他ノ所有物ヲ謂フモノトス

第二、差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノナルコトヲ要ス

(一) 差押ヲ受ケトハ法令ノ規定ニ依リ差押ヲ受ケタル動産、不動産ヲ謂フ蓋シ本條ニ所謂差押ヲ受ケトハ主トシテ民事訴訟上、強制執行ニ因ル差押ヲ意味スルモノニテ假差押ノ如キハ本條、差押物中ニ包含セサル立法趣旨ナリ(二) 物權ヲ負擔シトハ民法、第二編、第一章ニ規定シタル各種ノ權利(例ヘハ地上權、永小作權、地役權、抵當權等)ヲ設定シタル物ヲ謂フ(詳細ハ民法、第二編、物權編參照)(三) 賃貨物トハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物ノ使用及ヒ收益ヲ爲サシムル爲メ賃金ヲ支拂フコトヲ約シテ引渡シタル物ヲ謂フ(其詳細ハ民法第三編第二章、第七節參照)(四) 保險ニ付シタルモノトハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアル可キ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約シタル物ヲ謂フ(詳細ハ商法、第三編、第十章、第一節、第三百八十四條、以下參照)自己ノ物ニ保險ヲ付シ自ラ放火シ保險金ヲ詐取セントシタル實例往々之アリタルヲ以テ必要上之ヲ規定シタルモノナリ

第三、燒燬シタルコトヲ要ス

以上他人ノ各種、權利ノ目的ト爲リタル物ヲ燒燬シタルトキ例ヘハ權利者ヨリ債權執行ノ爲メ差押ヲ受ケタル物又ハ債權者ニ對シ債務ノ擔保トシテ抵當權ヲ設定シタル建造物其他賃貸シタル家屋其他ノ有體物若クハ火災、天災等ニ付キ保險ヲ付シタル被保險物ヲ燒燬シタル場合ノ如キハ他人ノ所有物ヲ燒燬シタル場合ト始ト同一ナレハナリ而シテ本罪ハ其目的物上ニ有スル他人ノ權利ヲ害スル所爲ヲ罰スル趣旨ナルヲ以テ必ス其目的物ニ對シテ差押ヲ受ケタルコト物權ヲ設定シタルコト又ハ賃貸シタルコト若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス以上ノ條件具備スルトキハ目的物ノ區別ニ從ヒ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ト同一ニ處斷ス可キモノトス

第一百十六條 火ヲ失シテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第

百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記

載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

本條ハ失火ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法、第四百九條「火ヲ失シテ人ノ家屋、財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス」トノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ殆ト同一ナリ

本罪成立ニハ、第一火ヲ失シタルコト、第二第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物タルコト、第三燒燬シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、火ヲ失シタルコトヲ要ス

本條「火ヲ失シタルコトヲ謂フ」トハ、放火ノ意思ナクシテ不注意ニ因リ火ヲ失シタルコトヲ謂フ從來、失火罪ニ就テハ實際家ノ最モ困難ヲ感シタル所ナリ如何トナレハ火災ノ虞ル可キコトハ何人モ之ヲ識ル所ナルヲ以テ通常、注意スルモ尙ホ且意外ノ邊ヨリ火ヲ發スルコト往々之アル所ナレハナリ故ニ本罪ハ寧ロ公益上ヨリ其結果ヲ罰スル犯罪ナリト云フノ外ナシ然レトモ本條、火ヲ失シタル獨逸刑法第三百九條ト等シク過失ニ因リ火ヲ失シ物ヲ燒燬シタル場合ト解釋ス可キモノナリ故ニ充分、注意シタルニ係ハラズ豫想セサル意外ノ邊ヨリ火ヲ發シタル場合ハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス過失ノ意義ニ就テハ仍ホ第二十八章、過失傷害罪ニ至リ詳論セントス

第二、第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物タルコトヲ要ス

舊刑法、第四百九條ハ「火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者」ト規定シ自己ノ家屋財産ヲ燒燬シタル場合ハ之ヲ罰セザリシモ本法ハ既ニ前數條ニ於テ述ヘタル如ク自己ノ所有物ト雖モ之ヲ燒燬シタルトキハ罰スル主義ヲ採リタルヲ以テ火ヲ失シ第八條現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑、第九條第一項現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑タルトキハ本條第一項ニ依リ罰スルモノトス

第三、燒燬シタルコトヲ要ス

燒燬ノ意義ニ付テハ既ニ屢々説明シタルヲ以テ別ニ論セス

本條第二項「火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者亦同シ」トハ本章第九條第二項「前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危険ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス」トノ規定及ヒ第一百十條第二項「前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス」トノ規定ヲ本條、失火罪ニ適用シタルモノナリ而シテ本項自己ノ所有物ニ係ル失火罪成立ニハ、第一火ヲ失シタルコト、第二自己ノ所有物ニ係ル物タルコト、第三燒燬シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコトノ三條件ヲ要スルモ本條件ハ孰レ

モ既ニ述ヘタル所ニ依リ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セズ

以上ノ條件具備シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第一百七七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ**第一百八條**ニ記載

シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル**第九條**ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者

ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル**第九條**ニ記載シタル物又ハ**第十**

條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

本條ハ火藥、汽罐其他、激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ物ヲ損壞シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百十條「火藥其他、爆發ス可キ物品又ハ煤氣、井蒸汽罐ヲ破裂セシメテ人ノ家

屋、財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火、失火ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ規定

ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ同一ナリ故ニ本條、火藥、汽罐其他、激發ス可キ物ヲ破裂セシ

ムル意思ヲ以テ**第八條**ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル**第九條**ニ記載シタル物ヲ損壞シタ

ルトキハ放火罪ノ例ニ依リ處斷シ又火藥、汽罐、其他、激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ自己ノ所有ニ

係ル**第九條**ニ記載シタル物又ハ**第十條**ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル
トキハ放火ノ例ニ從ヒ處斷ス可キモノトス而シテ本條損壞トハ其目的物ヲ物質的ニ破壞損傷シテ其
用法ヲ失ハシメタル所爲ヲ謂フモノナルヲ以テ本條損壞ハ前數條ニ規定シタル燒燬ト殆ト同一意味
ニ解ス可キモノナリ

本條第二項「前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ」トハ過失ニ出テ自己又ハ他人ノ所有
ニ係ル本條第一項ノ規定ニ係ル物ヲ損壞シタルトキハ前條失火ノ例ニ依リ處斷ス可キコトヲ規定シ
タルモノナリ

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ

因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死

傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ

危険ヲ生セシメタル罪及ヒ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ニシテ第一項ハ瓦斯、電氣又ハ蒸氣、漏出ノ危険ヲ豫防スル目的ニ出
テタルモノナリ蓋シ夫ノ瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、
身體又ハ財産ニ危険ヲ生セシメタル場合ノ如キハ之ヲ不問ニ付ス可キモノニ非サルヲ以テ特ニ本章
ニ規定シタルモノナリ

蓋シ本條第二項ハ第一項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ其情狀、重キヲ以テ之ヲ傷害罪
ニ比較シテ處斷ス可キコトト爲シタルモノニテ其法意、明瞭ナルヲ以テ深ク論ヒス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第三編、第二章財産ニ對スル罪中ノ第八節決水ノ罪ヲ修正シタルモノナリ
其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ本章ノ罪ヲ決水ノ罪ト題シ財産ニ關スル罪中ニ規定シタルモ本法ハ前章放火及ヒ失火
ノ罪ト同シク靜謐ニ關スル罪ト爲シ溢水及ヒ水利ニ關スル罪ト改メタリ

二、舊刑法ハ溢水セシムル手段ヲ堤防ノ決潰ト水閘ノ毀壞トノ二者ニ制限シタルモ實際上、狭キニ
失スルヲ以テ本法ハ其手段方法ヲ闊ハサルコトト改メタリ

三、舊刑法ハ水害ノ際、防水用ノ物ヲ隱匿又ハ毀壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル場
合ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ水害ノ際、水防ヲ妨害スルハ火災ノ際、鎮火ヲ妨害スルト同一
ナルニ因リ新ニ是等ノ所爲ヲ罰スル規定ヲ設ケタリ

本章ハ(一)溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車、若クハ鑛坑ヲ
浸害シタル罪(二)溢水セシメテ(一)ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル罪(三)自己ノ所有ニ係ル差押物、
物權ヲ負擔シタル物又ハ賃貸シタル物保險ニ付シタル物ヲ浸害シタル罪(四)水害ノ際、防水用ノ物ヲ
隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル罪(五)過失ニ因リ溢水セシメタル罪(六)堤防
ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽
車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲
役ニ處ス

本條ハ溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害

シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百十一條第一項、「堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタル者ハ無期徒刑ニ處ス」トノ規定ヲ修正シ其侵害ノ手段方法ヲ制限セサルコトト爲シタルモノナリ而シテ本條ハ前章、第百八條ト其立法趣旨ハ同一ナリ唯、前章放火罪ハ火力ニ因ル侵害ナルモ本章ハ水力ニ因ル侵害タルノ差異アルニ過キス

本罪成立ニハ、第一溢水セシメタルコト、第二現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑タルコト、第三侵害シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、溢水セシメタルコトヲ要ス

本條溢水トハ水ヲ漲溢汎濫セシメタル所爲ヲ謂フ而シテ其水流ヲ漲溢汎濫セシメタル手段ハ舊刑法ノ如ク堤防ヲ毀損シタルト水閘ヲ破壞シタルト其他ノ手段ニ因リタルトヲ問ハス總テ水路以外ニ水勢ヲ脱出セシメタル場合ヲ云フニ在リ茲ニ注意ス可キハ本條ハ專ラ洪水ノ場合ヲ規定シタルコト是ナリ平水ノ場合ニ堤防ヲ決潰シ若クハ水閘ヲ破壞シテ溢水セシメタル場合ハ本章第百二十三條ニ依リ論スル立法趣旨ナリ

第二、現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑タルコトヲ要ス

現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑トハ前章第百八條ニ於テ詳論シタル物ト同一ナルヲ以テ再說セス唯、本條艦船ヲ除外シタルハ其性質上、溢水ノ爲メ侵害ヲ被ル可キモノニ非サルカ爲メナリ

第三、侵害シタルコトヲ要ス

本條侵害トハ溢水ノ爲メ流失破壞シタルト否トヲ問ハス其物ノ用ヲ失ハシメタル總テノ損害ヲ謂フニアリ例ヘハ人ノ住居ニ使用スル建築物ヲ漂流セシメ又ハ單ニ浸水セシメ人ノ住居トシテ其用ヲ爲ササルニ至ラシメタルトキハ本條ノ侵害ナリ故ニ本條ノ侵害ハ必スシモ物質的ニ其目的物タル建築物、汽車、電車、若クハ鑛坑ヲ破壞若クハ流失セシメタル場合ニ限ラス是注意ス可キ點ナリ而シテ本罪成立ニモ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑タルコトヲ知テ侵害シタルヲ要スルコトハ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

以上ノ條件具備シタルトキハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第百二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ侵害シ因テ公共ノ

危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

侵害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸

シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

本條ハ溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ
本條、第一項ハ舊刑法、第四百十二條、堤防ヲ決潰シ水開テ毀壞シテ田圃、鑛坑、牧場等ヲ荒廢シ
タル者ハ輕懲役ニ處ス。トノ規定ヲ修正シ本法ハ溢水セシメタル手段方法ニ關スル制限ヲ廢シ之ヲ
概括的ニ規定シタルモノニテ第二項ハ溢水セシメタル物カ自己ノ所有物ニ係リ且ツ差押ヲ受ケ又ハ
物權ヲ負擔シ若クハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノニ關スル場合ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ(一)溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル罪(二)差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃
貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ浸害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル罪

本條成立ニハ、第一溢水セシメタルコト、第二前條ニ記載シタル以外ノ物タルコト、第三浸害シ因
テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、溢水セシメタルコトヲ要ス

溢水トハ水流ヲ漲溢汎濫セシメタル所爲ヲ謂フコト既ニ前條ニ於テ述ヘタルヲ以テ再說セス

第二、前條ニ記載シタル以外ノ物タルコトヲ要ス

前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シトハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、
電車、若クハ鑛坑以外ノ動産、不動産ヲ謂フモノニシテ前章第九條、第一百條ニ規定シタル物
ト同一物ヲ浸害シタルコトヲ謂フモノナルヲ以テ再論セヌ唯、茲ニ一言ス可キハ前條溢水セシメ
テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ト規
定シタルヲ以テ本條ハ其以外ノモノ例ヘハ人ノ住居ニ使用セス若クハ人ノ現在セサル家屋又ハ田
畑等ノ如キ是ナリ

第三、浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本章規定ノ罪モ亦前章放火及ヒ失火罪ト等シク公共ノ危險ヲ生セシメタル所爲ヲ罰ス可キ立法趣
旨ナルヲ以テ前章第九條第二項及ヒ第一百條ニ於テ論シタル如ク公共ノ危險ヲ生セシメタル場
合ニ限り本條ニ依リ論スルモノトス其公共ノ危險ノ意義ニ就テモ既ニ前章ニ於テ詳細シタルヲ以テ
再說セス

(二) 差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ侵害シタル罪

本罪成立ニハ、第一溢水セシメタルコト、第二差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付
シタル自己ノ所有物タルコト、第三浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、溢水セシメタルコトヲ要ス

本條件ニ就テハ既ニ説明シタルヲ以テ再説セズ

第二、差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物タルコトヲ要ス

本條差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物トハ前章、第百十五條ニ規定シタル物ト全ク同一物ナルヲ以テ別ニ費セズ

第三、浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本條件ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ別ニ論セズ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)共ニ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第二百一十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ

以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ水害ノ際防水ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本章溢水ノ罪ハ前章、放火罪ト同シク公衆ニ實害ト危險ヲ與フル重大ナル犯罪ナルヲ以テ水害ノ際、防水用ノ物件ヲ隱匿シ又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタルモノハ火災ノ際、鎮火ヲ妨害シタル者ト同シク之ヲ嚴罰ス可キ必要アリ故ニ前章第百十四條ト同一趣旨ニ依リ本條ヲ新設

シタルモノナリ

本條成立ニハ、第一水害ノ際タルコト、第二防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、水害ノ際タルコトヲ要ス

本條水害ノ際トハ洪水ノ爲メ損害ヲ生スル虞アル場合ヲ總稱ス而シテ其洪水ハ天災、地變ニ因ルト將タ本章犯罪ノ結果ニ因ルトヲ問ハズ唯、其要ハ水害ノ間際タルコトヲ要スルノミ故ニ洪水ノ際ニ非サレハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ズ

第二、防水用ノ物ヲ隱匿シ又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタルコトヲ要ス

(一)防水用ノ物トハ豫メ水害防止ノ用ニ供スル物件器具ヲ謂フ而シテ之ヲ隱匿スルトハ他人ノ發見ヲ妨クル行爲ヲ謂フ例ヘハ水害ノ際、其防水用具ヲ他所ニ運搬シ又ハ家屋、其他ノ場所ニ藏匿シ他人ノ發見ヲ妨ケタル場合ノ如キ是ナリ(二)防水用ノ物ヲ損壞シトハ防水ニ供スル物件ヲシテ其用ヲ失ハシムル程度ノ物質的破壊又ハ損傷ヲ謂フ(三)其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタルコトトハ隱匿又ハ損壞以外ノ手段方法ヲ以テ水防ヲ妨ケタル所爲ヲ謂フ例ヘハ水害ノ際、防水者ノ往來ヲ妨クルカ如キ所爲是ナリ而シテ本罪成立ニモ亦防水用ノ物件タルコトヲ知テ之ヲ隱匿シ又ハ損壞シ

若クハ其他水防ヲ妨害スル意思ヲ要スルコト論ヲ俟タス
以上ノ條件具備スルトキハ一年以上、十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第二百二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第二百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害

シタル者又ハ第二百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ過失ニ因リ溢水セシメテ第二百十九條及ヒ第二百二十條ニ規定シタル以外ノ物ヲ侵害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百十四條、「過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス」トノ規定ヲ修正シタルモノニテ其立法趣旨ハ本法第一百七條ト同一ナリ

本罪成立ニハ、第一過失ニ因リ溢水セシメタルコト、第二第二百十九條、第二百二十條ニ記載シタル物タルコト、第三浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、過失ニ因リタルコトヲ要ス

本條過失ニ因リトハ溢水セシムル意思ナクシテ不注意ニ因リ流水ヲ漲溢汎濫セシメタルコトヲ謂フ而シテ此過失ノ意義ニ就テハ前章ニ於テ既ニ論シタルヲ以テ再說セス

第二、第二百十九條、第二百二十條ニ記載シタル物タルコトヲ要ス

本條第二百十九條、第二百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者トハ溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑及ヒ其他ノ動産、不動産ヲ浸害シ又ハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル自己ノ所有物ヲ浸害シタルコトヲ要スル外、前章、第十六條ト殆ト同一ナルヲ以テ說明セス唯、該條ハ過失ニ因ル失火ナルニ本條ハ過失ニ因ル溢水タルトノ差異アルニ過キス

第三、浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本罪ハ縱令第二百十九條、第二百二十條ニ記載シタル各物件ヲ燒燬スルモ因テ公共ノ危険ヲ生セシメサルトキハ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス而シテ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタルコトノ意義ニ付テハ既ニ屢々說明シタルヲ以テ再說セス

以上ノ條件具備シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第二百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壊シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行

爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ水利ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第四百十三條、他人ノ便益ヲ損シ、又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス。トノ規定ヲ修正シタルモノナリ舊刑法ニ於テハ他人ノ利益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メト規定シ其水利妨害ノ目的ヲ明示シタルモノ之ヲ明示スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ廣ク「水利ヲ妨害シ又ハ溢水セシム可キ行爲ヲナシタル者ハ」ト改メ其手段方法ノ何タルヲ問ハサルコトト爲シタリ然レトモ其立法趣旨ニ至テハ殆ト同一ナリ

本條ハ(一)堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他ノ方法ヲ以テ水利ヲ妨害シタル罪(二)堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他ノ方法ヲ以テ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル罪ヲ規定シタルモノナリ而シテ本條水利妨害罪ノ成立ニハ、第一堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他ノ方法ニ因リタルコト、第二水利ヲ妨害シタルコトノ二條件アルヲ要シ溢水罪成立ニハ、第一堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他ノ方法ニ因リタルコト、第二溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタルコトノ二條件ヲ要スルモノ一讀明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セズ唯、茲ニ一言ス可キハ本條(一)堤防トハ溢水ヲ防禦スル爲メ造リタル物ヲ云ヒ決潰トハ堤防ヲ物質的ニ破損スル所爲ヲ云フ又(二)水閘トハ水ヲ導引スル爲メ造リタル物ヲ云ヒ破壞トハ水閘ヲ物質的ニ破

損スル所爲ヲ謂フ(三)其他、水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲ヲ爲シタル者トハ堤防ノ決潰水閘ノ破壞以外ノ方法手段ニ依リ水ノ流通ヲ妨ケタル行爲ヲ謂フモノニテ其手段ノ何タルヲ問ハス溢水ノ結果ヲ生セシメタルトキハ本條ニ依リ論ス可キモノトス而シテ本條中段其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲トハ一例ヲ舉クレハ旱魃ノ際、農業ニ從事スル者ノ自己若クハ自村耕地ノ水田等ニ引用セントシテ他人若クハ他耕地ノ分水堤防ヲ決潰シ或ハ溜池ノ水閘ヲ破壞シタルカ如キ場合ヲ云フモノニテ年々旱魃ノ期ニ於テハ各地ニ起ル實際上ノ案件ナリ其他ニ付テハ第百十九條ノ説明ヲ参照スヘシ

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章第六節、往來通信ヲ妨害スル罪及ヒ同第三編、第二章第九節、船舶ヲ覆没スル罪ヲ合シテ修正シタルモノナリ其修正シタル主要ノ點ヲ舉クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ第六十三條ニ「偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者」云々ト規定シ同第六十四條ニ「電信ノ器械、柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者

ハ一云々ト規定シタルモ本法ハ是等ノ規定ハ之ヲ特別法令ニ譲リ茲ニ規定セサルコトト爲シタリ
 二、舊刑法ハ本章ノ或ル罪ニシテ全ク過失ニ出テ犯スニ至リタル場合ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法
 ハ本章中、過失ニ因テ人ヲ傷害シタル場合ノ罪ヲ新ニ設ケタリ
 三、舊刑法ハ船舶、覆没ノ罪ヲ單ニ財産ニ對スル罪ト爲シタルモ本法ハ專ラ往來ヲ妨害スル罪ト爲
 シ本章中ニ之ヲ規定スルコトト爲シタリ

本章ハ一陸路水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル罪(二)鐵道又ハ標識ヲ損壞
 シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ニ危險ヲ生セシメタル罪(三)燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ
 其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル罪(四)人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆シ又ハ破
 壞シタル罪(五)(二)罪ノ未遂罪(六)過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、
 電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壞ヲ致シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ

第二百二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セ

シメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從
 テ處斷ス

本條ハ陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞シ又ハ壅塞シテ往來ヲ妨害シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法、第六十二條「道路、橋梁、河溝、港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月
 以上、二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上、二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」トノ規定ヲ修正シタルモノ
 ナリ該條ハ道路、橋梁、河溝、港埠ヲ損壞シタル者云々ト列舉シタルモ狹キニ失スルノ嫌アルヲ以
 テ本法ハ之ヲ改メ廣ク陸路又ハ水路ト改メ損壞ノ外、壅塞ト爲シ通路妨害ヲ爲シタル所爲ハ總テ本
 條ニ依リ罰スルコトト爲シタリ

本條成立ニハ、第一陸路、水路又ハ橋梁タルコト、第二損壞又ハ壅塞シタルコト、第三往來ヲ妨害
 シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、陸路、水路又ハ橋梁タルコトヲ要ス

本條、陸路、水路トハ水陸兩公路ヲ總稱スルモノトス假令ハ陸上ノ道路又ハ海上若クハ河川ノ航
 路、渡船場等ノ如キ是ナリ茲ニ問題アリ私有通路ヲ損壞シ又ハ壅塞シテ往來ヲ妨害シタルトキハ
 本條ニ依リ論スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ本條、陸路、水路又ハ橋梁云々ト規定シ其公有
 ナルト私有ナルトヲ區別セサルヲ以テ私有ノ通路又ハ橋梁ヲ損壞シ又ハ壅塞シテ所有者ノ通行ヲ
 妨害シタルトキハ仍ホ本條ニ依リ論ス可キモノト信ス舊刑法第六十二條ニ所謂、道路トハ必ス

シモ國縣村道ノミニ限ラス苟モ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ本條中ニ包含ストノ判例アリ但シ本條ハ公共通路ニ對スル規定ナルヲ以テ本問ノ如キ私有通路ニ對スル妨害ハ本條中ニ包含セストノ反對論ナキニ非ス

第二、損壞又ハ壅塞シタルコトヲ要ス

本條道路、橋梁等ヲ損壞シ又ハ壅塞シタルコトハ道路、橋梁ヲ物質的ニ破壞シ又ハ木石等ヲ差置キ往來ヲ不能ナラシメ若クハ著シク通行ヲ困難ナラシメタル所爲ヲ云フモノナリ然レトモ之カ爲メニ害ヲ受ケタル者アルト否トヲ問ハス事實上、往來妨害ノ結果ヲ生シタルトキハ本罪成立ス

第三、往來ヲ妨害シタルコトヲ要ス

往來ヲ妨害シタルコトハ通行ヲ不能ナラシメ又ハ通行ニ不便ナラシメタル所爲ヲ謂フ茲ニ問題アリ人馬ノ通行ニ際シ此先、通行止メナリト僞リ其通行ヲ阻止シタルトキハ本條、往來ヲ妨害シタルモノナルヤ否ノ問題はナリ本問ノ場合ニ於テハ事實上、往來ヲ妨害シタルモノナリト雖モ道路ヲ損壞シ又ハ壅塞スルノ行爲ナキヲ以テ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス但シ本條、壅塞ノ文字中ニ本問ノ場合モ亦包含ストノ反對論ナキニ非ス

本罪成立ニハ必ス公衆ノ往來ヲ妨害スルノ意思ヲ以テ道路ヲ損壞シ又ハ壅塞シタルコトヲ要ス故

ニ若シ往來ヲ妨害スル意思ナク通行ノ際過テ橋梁ヲ損壞シタル場合ノ如キハ縱令、往來妨害ノ結果ヲ生スルモ本罪成立セス如何トナレハ道路ヲ損壞シ又ハ壅塞スルノ意思ナキ行爲ノ結果ナレハナリ(總則第四十八條)

以上ノ條件具備シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

本條第二項、前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ストノ規定ハ舊刑法第六十八條、第六十二條ノ「罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スト」トノ規定ト同一ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電

車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシ

メタル者亦同シ

本條ハ鐵道又ハ燈臺ヲ損壞シ往來ニ危険ヲ生セシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ舊刑法、第六十五條「汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ヲ

ル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス。トノ規定ト其立法趣旨ハ同一ナルモ本法ハ新ニ電車ヲ加ヘ規定シタリ而シテ又第二項ハ舊刑法、第六十六條「船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺、浮標、其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ標示シタル者ハ亦前條ニ同シ。トノ規定ト同一ナルモ該條ハ船舶、往來ノ危険トナル可キ方法ヲ列舉シタルモ本法ニ於テハ唯、單ニ燈臺、浮標ノ損壞ノミヲ例示シ其他ハ之ヲ指示セサルコトト改メタリ

本條、第一項ハ鐵道又ハ汽車、電車ノ往來ニ危険ヲ生セシメタル罪ヲ規定シ第二項ハ燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタル罪ヲ規定シタルモノナリ

(一) 鐵道又ハ汽車、電車ノ往來ニ危険ヲ生セシメタル罪

本罪成立ニハ、第一鐵道又ハ其標識ナルコト、第二損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒタルコト、第三汽車又ハ電車ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、鐵道又ハ其標識タルコトヲ要ス

鐵道又ハ其標識ハ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

第二、損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒタルコトヲ要ス

本條損壞シトハ人力若クハ自然力ヲ使用シ鐵道又ハ其標識ヲ破損シタル所爲ヲ謂フモノニシテ其

他ノ方法ヲ用ヒトハ鐵道上ニ大石又ハ大木等ヲ横タヘ若クハ僞リノ標識ヲ標示タルカ如キ所爲ヲ謂フニアリ而シテ其鐵道ノ官設ト私設トハ之ヲ問ハサルモノトス(鐵道營業法參照)

第三、汽車又ハ電車ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルコトヲ要ス

汽車又ハ電車ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルトハ現ニ危険ヲ生スルノ狀況ニ至ラシメタル所爲ヲ謂フ換言スレハ汽車又ハ電車カ其場所ヲ通行シタルトキハ顛覆又ハ脱線ノ虞アル狀況ニ至ラシメタルコトヲ云フ故ニ汽車ノ往來妨害罪ヲ構成スルニハ其往來ヲ妨害スル意思ヲ以テ危険ナル障礙ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ現實ニ汽車ノ往來ヲ妨害セラレタルコトヲ必要トスルモノニ非ストノ判例アリ左レハ本罪成立ニハ必ス汽車又ハ電車ノ往來ニ危険ヲ生セシムル意思アルヲ要スルモノトス

(二) 燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタル罪

本罪成立ニハ、第一燈臺又ハ浮標ナルコト、第二損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒタルコト、第三艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、燈臺又ハ浮標ナルコトヲ要ス

燈臺又ハ浮標トハ艦船ノ航海ヲ安全ナラシムル標的ヲ謂フモノニテ明瞭ナルヲ以テ別ニ説明セス

航路、標識條例第一條ハ、航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノト
スレト規定セリ

第二、損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒタルコトヲ要ス

損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ用ヒトハ燈臺又ハ浮標ヲ破壊シ又ハ其他ノ方法例ハ浮標ノ位置ヲ變更
移轉スルカ如キ行爲ヲ云フモノニテ要スルニ燈臺又ハ浮標タルノ效用ヲ失ハシタル所爲ヲ云フニ

アリ(航路標識條例参照)

第三、艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルコトヲ要ス

本條艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルコトトハ軍艦ト商船トヲ問ハス航海ニ危険ヲ生スルハ虞
ル狀況ニ至ラシメタル所爲ヲ謂フ蓋シ舊刑法ハ詐偽ノ標識ヲ默示シタル者云々ト規定シタルモ本
法ハ其他ノ方法ヲ用ヒ中ニ總テノ妨害的行爲ヲ包含セシメタリ

以上ノ條件具備スルトキハ(一)共ニ二年以上ノ有期懲役ニ處ス可キモノトス

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者ハ無期

又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル罪及ヒ人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シ
タル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條第一項ハ本法ノ新ニ設ケタル規定ニシテ第二項ハ舊刑法第四百十五條、衝突其他ノ所爲ヲ以テ
人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス、但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處スレトノ規定
ヲ修正シタルモノナリ該條ハ覆没セシメタル方法ヲ例示シタルモ本法ハ之ヲ指定セサルノミナラス
覆没ノ外更ニ破壊シタル場合ヲ加ヘ其適用ス可キ範圍ヲ擴張シタルモノナリ

本條艦船ノ覆没又ハ破壊ト汽車又ハ電車ノ顛覆又ハ破壊トハ其危険ノ程度同一ナルヲ以テ之ヲ共ニ
規定シタルモノナリ而シテ本條特ニ人ノ現在スル場合ニ限リタルハ本章ハ固ヨリ往來ヲ妨害スル場
合ニ關スル罪ナルカ爲メナリ

(一) 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル罪

本罪成立ニハ、第一人ノ現在スル汽車又ハ電車ナルコト、第二顛覆又ハ破壊シタルコトノ二條件ア
ルヲ要ス

第一、人ノ現在スル汽車又ハ電車タルコトヲ要ス

本罪成立ニハ必ス人ノ現在スル汽車又ハ電車タルコトヲ要スルヤ否ヤノ問題アリ汽車又ハ電車中、人ノ現在スルコトヲ知ラス又ハ現在セサルモノト信シタルニ其實人ノ現在シタルトキハ犯人ノ現在ヲ知ルト否トヲ問ハス(實際人ノ現在シタルトキハ)本條ニ依リ論ス可キモノトス

第二、顛覆又ハ破壊シタルコトヲ要ス

本條汽車又ハ電車ノ顛覆トハ其汽車又ハ電車ヲ軌道外ニ脱出セシメタル所爲ヲ謂フ又破壊トハ人力其他自然力ヲ使用シテ汽車又ハ電車ノ全部又ハ一部ヲ物質的ニ破損シテ使用不能ニ至ラシメタル所爲ヲ謂フ者ニシテ如何ナル方法手段ヲ用ヒタルトヲ問ハス破壊シタル時ハ本罪成立スル者トス

(二) 人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル罪

本罪成立ニハ、第一人ノ現在スル艦船ナルコト、第二覆没又ハ破壊シタルコトノ二條件アルヲ要ス第一、人ノ現在スル艦船ナルコトヲ要ス

本條艦船ニモ亦必ス人ノ現在シタルコトヲ要ス而シテ本條艦船中ニハ軍艦ト商船トヲ包含スルトモ亦前條ト同一ナルヲ以テ再說セス

第二、覆没又ハ破壊シタルコトヲ要ス

覆没トハ艦船ヲ轉覆若クハ沈没セシメタル所爲ヲ謂フモノニテ破壊トハ既ニ述ヘタル如ク艦船ノ

全部又ハ一部ヲ破壊シテ航海ニ堪ヘザラシメタル所爲ヲ謂フ而シテ其覆没又ハ破壊ニ用ヒタル手段ハ大砲ヲ以テ撃沈シタルト或ハ暗礁又ハ淺瀬ニ乗リ上ケシメタルトヲ問ハス本罪成立ニハ覆没又ハ破壊スル意思ヲ要スルコトモ亦明瞭ナルヲ以テ説明セス

以上ノ條件具備スルトキハ(一)共ニ無期又ハ三年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

本條第三項、前二項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス(トハ第一項、

第二項ニ規定シタル犯罪ノ結果、人ヲ死ニ致シタル場合ノ刑ヲ定メタルモノニテ一讀、明瞭ナルモ若シ死ニ至ラス單ニ傷害ニ止マルトキハ本條第一項、第二項ノ範圍ニ於テ處分ス可キモノトス是即チ本章規定ノ各犯罪ハ前二章ト等シク専ラ公共ノ安全ヲ保護ス可キ立法趣旨ナルヲ以テ從テ其罪質上、刑罰モ亦重キ所以ナリ

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シテ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破

壞又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ舊刑法第六十九條ト全ク同一趣旨ヲ規定シタルモノナリ即チ第二百二十五條ノ罪ヲ犯シタル結果、汽車又ハ電車ヲ顛覆若クハ破壊シ又ハ艦船ヲ覆没若クハ破壊シタルトキハ前條第一項、第二項ノ規定ニ從フ可ク因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ第三項ノ規定ニ從ヒ處斷ス可キコトヲ規定シタルモ

ノニテ一讀明瞭ナルヲ以テ説明セス

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條第一項、

第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ舊刑法、第七十條ト同一趣旨ニテ第二百二十四條、第一項、第二百二十五條及ヒ第二百二十六條、第一項、第二項ノ罪ハ孰レモ其未遂ノ行爲ヲ罰ス可キコトヲ規定シタルモノナリ

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危険ヲ生セシメ又ハ

汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五

百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓

以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ本法ノ新設シタル規定ナリ

本條第一項ハ過失ニ因リテ第二百二十六條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ罪ヲ常人ノ犯シタル場合ヲ規定シ第二項ハ業務ニ従事スル者第一項ノ罪ヲ犯シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

本條過失ノ意義ニ就テハ第二十八章、過失傷害ノ罪ニ至リ詳細ス可キヲ以テ茲ニ論セス

本條第二項ノ業務ニ従事スル者トハ汽車、電車又艦船ノ機關士、運轉士、其他ノ職員等ヲ謂フモノトス仍ホ詳細ハ第二十八章ニ至リ論ス可シ(船員懲戒法鐵道營業法參照)茲ニ注意ス可キハ本法中業務云々ノ文字ハ多數ノ法文ニ之ヲ使用シアルモ其法文ニ依リ業務ノ意義一定セズ第一編總則第三十五條ノ正當ノ業務云々ノ業務中ニハ職務ハ包含セサル立法趣旨ナルモ第三十七條第二項本條及ヒ第三百二十四條、第二百一十一條、第二百五十三條ノ業務云々中ニハ公務員ノ職務ト一私人ノ營業トヲ包含スルモノナルコト是ナリ

第十二章 住居ヲ侵ス罪

總論

本章ハ舊刑法、第二編、第三章第七節人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ修正シタルモノナリ

其修正シタル主要ノ點ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、舊刑法ハ本章規定ノ範圍、狹キニ失シ憲法上、保障シタル住居ノ安寧ヲ充分保護スルニ足ラザリシヲ以テ本法ハ其ノ範圍ヲ擴張シ遺憾ナク住居ノ安寧ヲ保護スルコトト爲シタリ

二、舊刑法ハ故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ侵入シタル場合ノミヲ規定シタルモ訪問當時ハ入ル可キ正當ノ理由アリタルモ後退去ヲ請求セラレタル場合ノ規定ヲ闕キタルヲ以テ本法ハ退去ノ要求ヲ受ケ其場所ヨリ退去セサル場合ノ規定ヲ新ニ設ケタリ

三、舊刑法ハ艦船内ニ侵入シタル場合ノ規定ヲ爲サザリシモ元來、艦船モ亦海ニ浮フ一個ノ住居ニシテ陸上ニ建設シタル家屋ト同一ナルヲ以テ本法ハ之ヲ保護シテ其艦船内ニ侵入シタル場合ヲ罰スルコトト爲シタリ

本章ハ一故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セサル罪(二)故ナク皇居、禁苑離宮又ハ行在所ニ侵入シタル罪(三)神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ

第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ住所ヲ侵ス罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第七十一條「晝間、故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタ

ル者ハ十一日以上、六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ、一門戶、牆壁ヲ踰越、損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時、二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時、三暴行ヲ爲シテ入りタル時、四二人以上ニテ入りタル時」トノ規定同第七十二條「夜間、故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ」トノ規定ヲ合シテ修正シタルナリ

舊刑法ハ其侵入ノ晝間ト夜間トニ因リ刑ヲ區別シタルモ晝間ト夜間トハ被害者ヲシテ不安ノ念ヲ抱カシムル點ニ就キ多少其狀情ヲ異ニスル所アリト雖モ特ニ之ヲ區別スルノ必要ナシ殊ニ舊刑法ハ人ノ住居シタル邸宅云々ト規定シタル爲メ或ハ狹義ニ解釋シ人ノ住居トシテ借り受ケタル室内(假令ハ下宿屋ノ如キ)ニ侵入シタル場合ハ本罪ヲ構成セストノ議論アリタルヲ以テ本法ハ單ニ人ノ住居ト改メ其住居スル場所ノ如何ヲ問ハサルコトト爲シタリ即チ其住居ハ各人ノ城郭ナルヲ以テ濫リニ侵入スルコトヲ得ス故ニ憲法第二十二條ヲ以テ日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ住居及ヒ移轉ノ自由ヲ有スト規定シ各人住居ノ安寧ヲ保障セリ是本章ノ規定アル所以ナリ

本罪成立ニハ、第一故ナキコト、第二人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船タルコト、

第三侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、故ナキコトヲ要ス

本條、故ナクトハ正當ノ事故ナクシテ人ノ住居ニ侵入スルコトヲ謂フ判例換言スレハ權利ナクシテ人ノ住居ニ侵入スル行爲ヲ云フニアリ左レハ正當ナル事故アルトキハ人ノ住居ニ侵入スルモ本條ニ依リ論スルコトヲ得ス故ニ公權ノ執行トシテ豫審判事カ家宅搜查ノ爲メ出張シタル場合ノ如キハ本罪ヲ構成セサルコト論ヲ俟タス是即チ法令ノ認ムル正當ナル理由アルモノニテ本條、故ナキニ非サルカ爲メナリ

第二、人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船タルコトヲ要ス

(一) 人ノ住居トハ各人ノ生活ノ本據ヲ謂フモノナルヲ以テ(民法第二十一條)本條人ノ住居トハ獨立シタル家屋、邸宅タルヲ要セス如何ナル場所ト雖モ生活ノ本據トシテ人ノ住居スル所ハ汎テ本條、住居中ニ包含スルモノトス故ニ彼ノ下宿屋ノ客室ノ如キモ仍ホ生活ノ本據ナルトキハ本條ニ所謂人ノ住居ナリ

(二) 人ノ看守スル邸宅、建造物トハ人ノ住居以外ノ邸宅其他ノ家屋ヲ謂フ舊刑法ハ人ノ住居シタル家屋ノ範圍ヲ邸宅ト稱シタルモ本法ニ於テハ生活ノ本據タル邸宅ハ人ノ住居中ニ包含セシメタ

ルヲ以テ本法ニ所謂、邸宅建造物トハ常住ニ非サル別荘又ハ劇場、學校各公務所等ノ如キ單ニ人ノ看守スル場所ヲ總稱スルニアリ(三)本條、艦船トハ軍艦其他ノ船舶ヲ總稱ス舊刑法ハ陸上ノ住居ト殆ト同一ナル水上ノ艦船内ニ侵入シタル場合ヲ規定セザリシ爲メ實際上、往々不便ヲ感シタルヲ以テ本法ハ新ニ艦船ヲ加ヘテ陸上住居ト同一ニ保護スルコトト爲シタルモノナリ

第三、侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサルコトヲ要ス

本條侵入トハ故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船内ニ入り込ミタル所爲ヲ云ヒ要求ヲ受ケテ其場所ヲ退去セストハ最初正當ノ事故アリテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ艦船内ニ入りタル者退去ノ要求ヲ受ケ其場所ヲ立去ラサル所爲ヲ謂フ是舊刑法ノ闕如シタル所ナルモ要求ヲ受ケテ退去セサル場合モ亦故ナク侵入シタル場合ト其弊害、同一ナルヲ以テ實際上ノ必要ニ基キ本條ヲ設ケタルモノナリ故ニ本罪成立ニハ侵入又ハ退去セサル意思アルヲ要ス換言スレハ正當ナル事故ナキニ拘ハラス故ラ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅若クハ艦船内ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ退去セサル意思アルヲ要スルモノナリ

以上ノ條件具備スルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノトス

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上

五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

本條ハ皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル罪ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ舊刑法、第七十三條、「故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ」トノ規定ト其立法趣旨ハ全ク同一ナリトス

本條規定ノ各場所ハ孰レモ神聖ニシテ侵入シテ受ケス可ラサル所ナルヲ以テ允許ヲ受ケスシテ濫リニ侵入シタルトキハ嚴罰ス可キモノトス是前條ニ比シテ其刑重キ所以ナリ

本罪成立ニハ、第一故ナキコト、第二皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ナルコト、第三侵入シタルコトノ三條件アルヲ要ス

第一、故ナキコトヲ要ス

本條、故ナクトハ允許ヲ受ケス濫リニ侵入シタル所爲ヲ謂フニアリテ前條ト殆ト其意義同一ナルヲ以テ再論セス

第二、皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ナルコトヲ要ス

本條皇居、禁苑、離宮トハ宮城、青山御所、濱離宮等ヲ云ヒ行在所トハ陛下ノ臨幸御宿所ヲ云フ

モ、ハ、ニ、シ、テ、神、宮、ト、ハ、伊、勢、大、廟、ニ、シ、テ、皇、陵、ト、ハ、歷、代、天、皇、ノ、御、墳、墓、ヲ、奉、稱、ス、ル、モ、ノ、ト、ス

第三、侵入シタルコトヲ要ス

本條規定ノ皇居、禁苑、離宮、行在所、神宮又ハ皇陵ハ我々臣民ノ以テ濫リニ侵入スコトヲ得サル所ナリ然レトモ相當ノ身分アル者ニテ陛下ノ思召ニ因リ特ニ拜觀ヲ許サルルコトナキニ非スト雖モ允許ヲ得スシテ立入りタルトキハ直チニ本罪成立スルモノトス

以上ノ條件具備スルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトス

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ明瞭ナルヲ以テ説明セス

第十三章 祕密ヲ侵ス罪

總論

本章々題ハ本法ノ新設ニ係ル所ナリ

一、舊刑法ハ祕密ニ關スル罪ヲ誹毀罪ノ一種トシテ規定シタルモ元來、人ノ祕密ヲ侵ス所爲ハ人ヲ誹毀スルコトト全ク其性質ヲ異ニスルヲ以テ本法ハ之ヲ分離シ特ニ本章ヲ設ケタリ

二、本章ハ憲法第二十六條「日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外、信書ノ秘密ヲ侵サルルコトナシ」トノ明文ニ基キ法令ノ規定ニ因ルノ外決シテ信書ノ秘密ハ之ヲ侵サレサルコトヲ明ニシタルモノナリ

本章ハ(一)故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル罪(二)醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上、取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪(三)宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者此等ノ職ニ在リシ者其業務上、取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタル罪等ヲ規定シタルモノナリ

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ信書ノ秘密ヲ侵ス罪ヲ規定シタルモノナリ
本條ハ本法ノ新設ニ係ル規定ニシテ信書ノ秘密ヲ保護スルヲ以テ其目的ト爲シタルモノトス蓋シ信書ノ秘密ニ關スルコトハ郵便條例ニ之ヲ規定シタリト雖モ信書ハ前章住居ニ關スル罪ト等シク憲法上、保障セラレタル吾人ノ權利ナルヲ以テ特ニ本條ヲ新設シタルモノナリ
本罪成立ニハ、第一故ナキコト、第二封緘シタル信書ヲ開披シタルコトノ二條件アルヲ要ス

第一、故ナキコトヲ要ス

本條、故ナクトハ權利ヲキコトヲ謂フ故ニ他人ノ信書ナルコトヲ知テ開披シタル場合ノ如キハ本條、故ナキモノナリ然レトモ自己、連名宛ノ信書ノ如キハ之ヲ開披スルモ之ヲ開披ス可キ正當ナル理由アルモノナルヲ以テ本條、故ナク信書ヲ開披シタルモノト云フコトヲ得ス

第二、封緘シタル人ノ信書ヲ開披シタルコトヲ要ス

封緘シタル信書トハ人ノ意思ヲ他人ニ通知スルコトヲ記載シタル封書ヲ謂フ而シテ如何ナル事項ヲ記載シタル書類ヲ信書ト云フヤハ事實上ノ問題ニ屬スト雖モ要スルニ人ノ内事ニ關スル事項ヲ記載シタル書類ヲ云フニ外ナラス郵便法第十四條ハ「書狀トハ全部或ハ幾部ヲ筆記シタルト印刷シタルトニ關セス特定ノ人ニ對スル通信文ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ」ト規定シタリ(郵便法參照)

蓋シ本條ハ次條ト異ナリ秘密ニ關スル事項ヲ記載シタルヲ要セス單ニ封印若クハ封緘シテ外部ヨリ披見スルコトヲ得サル状態ニ在リタル書類ハ總テ本條封緘シタル信書ナリ(封緘シタル信書ヲ開披スルトハ通常、其、信書ノ封緘ヲ破リ内部ノ記載事項ヲ披讀スル所爲ヲ謂フ而シテ本條信書中ニ電報ヲモ包含スルヤ否ヤノ疑アリト雖モ電報ハ本條信書中ニ包含スルモノトス然レトモ本